



(1) 図画工作・美術科で目指すもの

クレヨンを持って手を動かす子どもたち。紙の上に緩やかに線を描いていきます。夢中になって輝いている目。創造活動のはじまりの姿です。

静岡県では、図画工作科が「小学生の好きな教科」の上位に位置しています。このような子どもたちの気持ちを更に伸ばし、表現や鑑賞する楽しさを生涯にわたって味わい続けることができるようにしていきたいと考えています。

作品の出来映えばかりに目がいて、子どもたちの大切な意欲の芽を摘むことがないようにしたいものです。そのためには、教師の的確な指導や評価が大切です。育てるべき資質や能力を的確に押さえながら、見通しをもって子どもの学びや育ちを評価していきましょう。

学習指導要領には、図画工作・美術科の目標が次のように示されており、幼稚園や高等学校にもつながっています。

幼稚園	表現 感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。
小学校	表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。
中学校	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。
高等学校	芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

小学校学習指導要領においては、児童が自らの行為や感覚を基に形や色、イメージなどを活用して活動できるようにするために、また、中学校学習指導要領においては、形や色彩、材料などの性質や、それがもたらす感情を理解したり、対象のイメージを捉えたりするために、領域や項目などを通して共通に働く資質や能力が〔共通事項〕として示されました。

また、小学校学習指導要領の改訂の要点では、言語活動の充実や、美術館との連携について配慮することなどが挙げられています。また、配慮事項には、低学年において生活科などとの関連や幼稚園教育における表現に関する内容などとの関連が示されています。

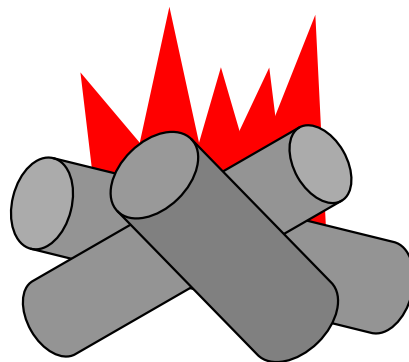
中学校学習指導要領の改訂の要点では、表現領域の改善として、(1)(2)(3)の事項の整理や、鑑賞領域の改善のために第1学年に「美術文化に対する関心を高める」学習が新たに示されています。

このような学習指導要領を理解するとともに、題材の研究を深め、子どもの資質や能力を伸ばすための指導と評価をすることが大切です。

図画工作・美術科の授業を通して、子どもたちの中に様々な※炭火が実感を伴って残ります。これらの炭火は、大人になっても、何かと出会って表現を楽しんだり、鑑賞を楽しんだりする心に火をともし続けることとなるでしょう。

※ 炭火

炭火は、炎や煙があまり出ていませんが、中まで熱くたぎっています。それは、あたたかも、表面に見えにくいこともある図画工作科や美術科で育まれた感性、子ども自身の力になったことが、確かな経験となって子どもの中に残っている様子ようです。また、炭火は可燃性のものを投じると、それらを勢いよく炎に包みます。図画工作科や美術科で育まれたものが、これから子どもたちの出会う自然やものなどをきっかけとして、人生を豊かにしていくことに似ています。図画工作科や美術科で身に付いた力は、例えば、服やインテリアなどの色合いやデザインを楽しむこと、スケッチや陶芸などの趣味を楽しむこと、街並みを味わう散策やウインドーショッピングをすることなど様々な楽しさを見付けたり表現したりする力となることでしょう。




(2) 図画工作・美術科の作成方針


本冊子の作成に当たっては、次の三つの基本方針を基に編集をしました。

- 学習指導要領を分かりやすく並べ替えたり，説明を加えたりするとともに，各学年の題材や各教科とのつながりを示し，各学校の実践の参考となるものにする。
- 各学校の創意工夫ある題材設定や授業づくりを尊重するとともに，題材，授業づくりの新たな視点や改善のヒントとなるようにする。
- 静岡県ならではの題材，材料，美術館の情報を得る手掛かりとなるものにする。


このような方針のもと，より多くの先生方に活用していただけるよう，本冊子では，できるかぎり分かりやすい提示を心掛けました。



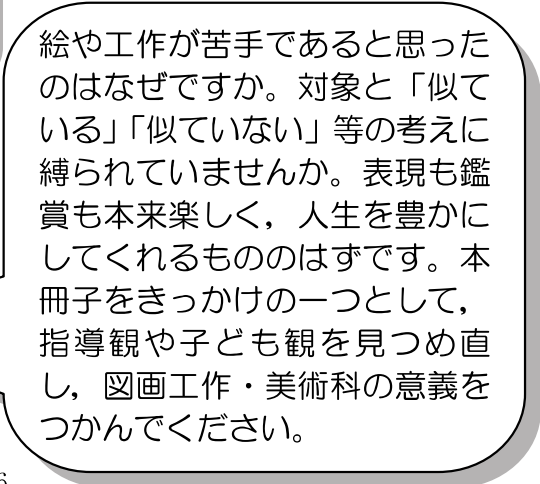
本冊子によって，題材設定の幅が，狭められることになってしまいませんか。



私は，絵や工作が苦手なので何を評価したらよいか分かりません。



題材や材料は，例示であり，各校の創意工夫を束縛するものではありません。ただ，年間計画や題材のバランスなど，学習指導要領で示されたことが確かに実践されているかを見直すきっかけにしてください。



絵や工作が苦手であると思ったのはなぜですか。対象と「似ている」「似ていない」等の考えに縛られていませんか。表現も鑑賞も本来楽しく，人生を豊かにしてくれるもののはずです。本冊子をきっかけの一つとして，指導観や子ども観を見つめ直し，図画工作・美術科の意義をつかんでください。

(3) 図画工作・美術科の内容

本冊子の第1章が示す内容と「第2章 図画工作・美術科」の内容構成との関係は、次のようになっています。

確実に身に付けさせたい内容

学習指導要領に示された図画工作・美術科の目標、内容をそれぞれの題材で学習すべき内容の例として示しました。

発展的な学習の内容例

共同制作への発展の可能性、表現と鑑賞をつなげた展開、表現方法や鑑賞方法の広がりの可能性を例として示しました。各学校での参考としてください。



本冊子では、例を示しています。さらに、用紙、材料、用具など様々な幅が考えられます。また、共同制作への発展や表現と鑑賞の接続などが考えられるので、そのつながりについて示しているのです。

「静岡県ならではの」を生かした内容

静岡県ならではの豊富な自然や産業があります。その中には、図画工作・美術で扱えそうな様々な材料があります。このような点から、静岡県の子どもに学ばせたい、「静岡県ならではの」を生かした内容の例を示しました。

静岡県は自然豊かで、ものづくりも盛んであるということに改めて気付きます。また、多くの美術館は、学校と手を携えることを望んでいて、学校側としても美術館を利用するところも増えています。

例示をきっかけにし、自分たちの学校に置き換えて自然・人材・施設・材料などを具体的に見つめ直してみたいと思います。



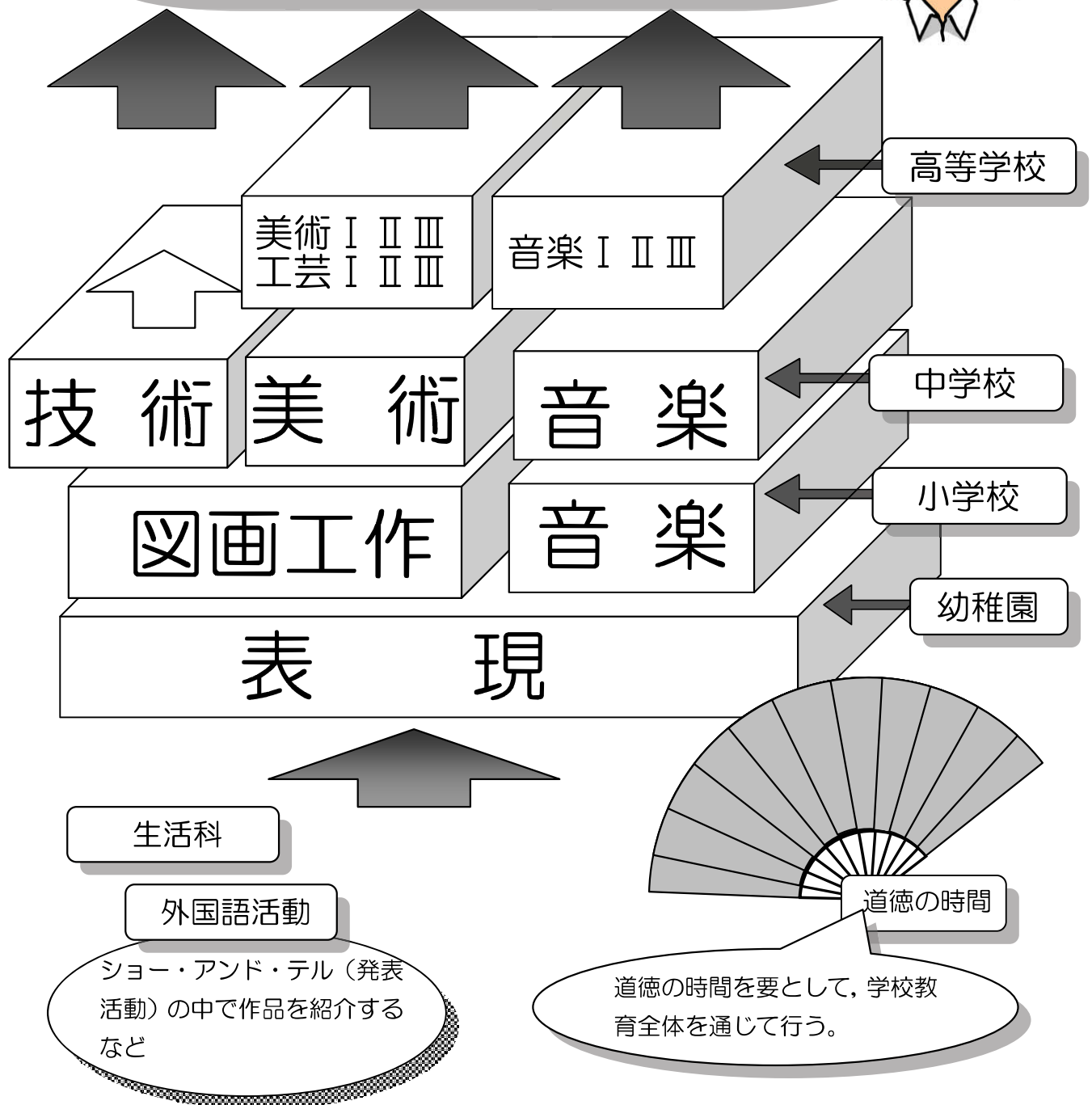
小学校、中学校、高等学校の指導内容を体系的・系統的に捉えた資料

小学校から中学校にかけての「学習内容のつながりを示した資料」を作成し、併せて、関連する高等学校での学習項目も示しました。指導計画を立てる際、資料として活用してください。

2 教科等の関連

小学校の図画工作科は、幼稚園の表現からつながっています。また、小学校の図画工作科は、中学校の美術科へのつながりがあるとともに、技術・家庭科の技術分野へもつながっています。

幼稚園から高等学校までを縦軸にみると、このようなつながりがあることがわかります。高等学校は、さらに普通教育と専門教育にも分かれるのです。



各学年の目標

* 各学年の目標のつながりを、見やすくまとめています。

目標(1) 造形(美術)への関心・意欲・態度

小学校 1・2年生	目標(1) 進んで表したり見たりする態度を育てるとともに、	つくりだす喜びを味わうようにする。
小学校 3・4年生	目標(1) 進んで表現したり鑑賞したりする態度を育てるとともに、	つくりだす喜びを味わうようにする。
小学校 5・6年生	目標(1) 創造的に表現したり鑑賞したりする態度を育てるとともに、	つくりだす喜びを味わうようにする。
中学校1年生	目標(1) 楽しく美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を培い、	心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。
中学校2・3年生	目標(1) 主体的に美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を深め、	心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める。



目標(2) 発想や構想の能力 創造的な技能

小学校 1・2年生	目標(2) 造形活動を楽しみ、	豊かな発想をするなどして、	体全体の感覚や技能などを働かせるようにする。
小学校 3・4年生	目標(2) 材料などから豊かな発想をし、	手や体全体を十分に働かせ、	表し方を工夫し、造形的な能力を伸ばすようにする。
小学校 5・6年生	目標(2) 材料などの特徴をとらえ、	想像力を働かせて発想し、主題の表し方を構想するとともに、	様々な表し方を工夫し、造形的な能力を高めるようにする。
中学校1年生	目標(2) 対象を見つめ感じ取る力や想像力を高め、	豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技能を身に付け、	意図に応じて創意工夫し美しく表現する能力を育てる。
中学校2・3年生	目標(2) 対象を深く見つめ感じ取る力や想像力を一層高め、独創的・総合的な見方や考え方を培い、	豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し、	創造的に表現する能力を伸ばす。

目標(3) 鑑賞の能力

小学校 1・2年生	目標(3) 身の回りの作品などから、	面白さや楽しさを感じ取るようにする。	
小学校 3・4年生	目標(3) 身近にある作品などから、	よさや面白さを感じ取るようにする。	
小学校 5・6年生	目標(3) 親しみのある作品などから、	よさや美しさを感じ取るとともに、それらを大切にするようにする。	
中学校1年生	目標(3) 自然の造形や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、	美術文化に対する関心を高め、	よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育てる。
中学校2・3年生	目標(3) 自然の造形、美術作品や文化遺産などについての理解や見方を深め、	心豊かに生きることと美術とのかかわりに関心をもち、	よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を高める。

*それぞれの題材の学習に生かせる既習事項はどのようなことか、それぞれの題材で学んだことがその後の学習でどのように生かせるのか、参考にしてください。

*それぞれの題材に対応する「6 小学校」、「7 中学校」のページが示してあります。

A 表現

小学校 1・2年生 造形遊び

内容 A 表現(1)

	材料を基に造形遊びをする活動を通して、	次の事項を指導する。
ア	身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に思い付いてつくること。	小学校には、「造形遊び」があります。 今までありましたが、平成20年の改訂で 「造形遊び」という言葉が、はっきりと示さ れました。
イ	感覚や気持ちを生かしながら楽しくつくること。	
ウ	並べたり、つないだり、積んだりするなど体全体を働かせてつくること。	

小学校 3・4年生 造形遊び

内容 A 表現(1)

	材料や場所などを基に造形遊びをする活動を通して、	次の事項を指導する。
ア	身近な材料や場所などを基に発想してつくること。	「活動を通して」ということ は、活動が目標なのでは なく、資質や能力を育てる ことが大切であるというこ とを押さえましょう。
イ	新しい形をつくるとともに、その形から発想したりみんなで話し合ったりしながらつくること。	
ウ	前学年までの材料や用具についての経験を生かし、組み合わせたり、切ってつないだり、形を変えたりするなどしてつくること。	

小学校 5・6年生 造形遊び

内容 A 表現(1)

	材料や場所などの特徴を基に造形遊びをする活動を通して、	次の事項を指導する。
ア	材料や場所などの特徴を基に発想し想像力を働かせてつくること。	
イ	材料や場所などに進んでかかわり合い、それらを基に構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながらつくること。	
ウ	前学年までの材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かしてつくること。	

小学校 1・2年生 絵や立体・工作

内容 A 表現(2)

	感じたことや想像したことを絵や立体、工作に表す活動を通して、	次の事項を指導する。
ア	感じたことや想像したことから、表したいことを見付けて表すこと。	
イ	好きな色を選んだり、いろいろな形をつくって楽しんだりしながら表すこと。	
ウ	身近な材料や扱いやすい用具を手を働かせて使うとともに、表し方を考えて表すこと。	

小学校 3・4年生 絵や立体・工作

内容 A 表現(2)

	感じたこと、想像したこと、見たことを絵や立体、工作に表す活動を通して、	次の事項を指導する。
ア	感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付けて表すこと。	
イ	表したいことや用途などを考えながら、形や色、材料などを生かし、計画を立てるなどして表すこと。	
ウ	表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表し方を考えて表すこと。	

小学校 5・6年生 絵や立体・工作

内容 A 表現(2)

	感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことを絵や立体、工作に表す活動を通して、	次の事項を指導する。
ア	感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことから、表したいことを見付けて表すこと。	
イ	形や色、材料の特徴や構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、表し方を構想して表すこと。	
ウ	表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表現に適した方法などを組み合わせて表すこと。	

中学校1年生

内容 A 表現(1) **感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動を通して、** **発想や構想に関する次の事項を指導する。**

ア 対象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出すこと。

イ 主題などを基に、全体と部分との関係などを考えて創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。

(1)は、「感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想」です。

中学校2・3年生

内容 A 表現(1) **感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動を通して、** **発想や構想に関する次の事項を指導する。**

ア 対象を深く見つめ感じ取ったこと、考えたこと、夢、想像や感情などの心の世界などを基に、主題を生み出すこと。

イ 主題などを基に想像力を働かせ、単純化や省略、強調、材料の組み合わせなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練ること。

中学校1年生

内容 A 表現(2) **伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して、** **発想や構想に関する次の事項を指導する。**

ア 目的や条件などを基に、美的感覚を働かせて、構成や装飾を考え、表現の構想を練ること。

イ 他者の立場に立って、伝えたい内容について分かりやすさや美しさなどを考え、表現の構想を練ること。

ウ 用途や機能、使用する者の気持ち、材料などから美しさなどを考え、表現の構想を練ること。

(2)は、「目的や機能考えた発想や構想」です。

中学校2・3年生

内容 A 表現(2) **伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して、** **発想や構想に関する次の事項を指導する。**

ア 目的や条件などを基に、美的感覚を働かせて形や色彩、図柄、材料、光などの組合せを簡潔にしたり総合化したりするなどして構成や装飾を考え、表現の構想を練ること。

イ 伝えたい内容を多くの人々に伝えるために、形や色彩などの効果を生かして分かりやすさや美しさなどを考え、表現の構想を練ること。

ウ 使用する者の気持ちや機能、夢や想像、造形的な美しさなどを総合的に考え、表現の構想を練ること。

中学校1年生

内容 A 表現(3) **発想や構想をしたことなどを基に表現する活動を通して、** **技能に関する次の事項を指導する。**

ア 形や色彩などの表し方を身に付け、意図に応じて材料や用具の生かし方などを考え、創意工夫して表現すること。

イ 材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって表現すること。

(3)は、「創造的な技能」です。(1)と(3)、(2)と(3)というように組み合わせて指導計画を立てる必要があります。

中学校2・3年生

内容 A 表現(3) **発想や構想をしたことなどを基に表現する活動を通して、** **技能に関する次の事項を指導する。**

ア 材料や用具の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現すること。

イ 材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表現すること。

*それぞれの題材の学習に生かせる既習事項はどのようなことか、それぞれの題材で学んだことがその後の学習でどのように生かせるのか、参考にしてください。

*それぞれの題材に対応する「6 小学校」、「7 中学校」のページが示してあります。

B 鑑賞

小学校 1・2年生

内容 B 鑑賞(1)

身の回りの作品などを鑑賞する活動を通して、

次の事項を指導する。

小学校のアは、鑑賞の能力の観点から整理されています。

ア

自分たちの作品や身近な材料などを楽しく見ること。

イ

感じたことを話したり、友人の話を聞いたりするなどして、形や色、表し方の面白さ、材料の感じなどに気付くこと。

小学校 3・4年生

内容 B 鑑賞(1)

身近にある作品などを鑑賞する活動を通して、

次の事項を指導する。

小学校のイは、言語活動の観点から整理されています。

ア

自分たちの作品や身近な美術作品や製作の過程などを鑑賞して、よさや面白さを感じ取ること。

イ

感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、いろいろな表し方や材料による感じの違いなどが分かること。

小学校 5・6年生

内容 B 鑑賞(1)

親しみのある作品などを鑑賞する活動を通して、

次の事項を指導する。

ア

自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、暮らしの中の作品などを鑑賞して、よさや美しさを感じ取ること。

イ

感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえること。

中学校1年生

内容 B 鑑賞(1)

美術作品などのよさや美しさを感じ取り味わう活動を通して、

鑑賞に関する次の事項を指導する。

中学校第1学年の、言語活動の観点が見されています。

ア

造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫、美と機能性の調和、生活における美術の働きなどを感じ取り、作品などに対する思いや考えを説明し合うなどして、対象の見方や感じ方を広げること。

イ

身近な地域や日本及び諸外国の美術の文化遺産などを鑑賞し、そのよさや美しさなどを感じ取り、美術文化に対する関心を高めること。

中学校第2、3学年の言語活動の観点が見されています。

中学校2・3年生

内容 B 鑑賞(1)

美術作品などのよさや美しさを感じ取り味わう活動を通して、

鑑賞に関する次の事項を指導する。

平成20年の改訂で、我が国の美術についての学習が重視されました。

ア

造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り見方を深め、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして、美意識を高め幅広く味わうこと。

イ

美術作品などに取り入れられている自然のよさや、自然や身近な環境の中に見られる造形的な美しさなどを感じ取り、安らぎや自然との共生などの視点から、生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解すること。

ウ

日本の美術の概括的な変遷や作品の特質を調べたり、それらの作品を鑑賞したりして、日本の美術や伝統と文化に対する理解と愛情を深めるとともに、諸外国の美術や文化との相違と共通性に気づき、それぞれのよさや美しさなどを味わい、美術を通じた国際理解を深め、美術文化の継承と創造への関心を高めること。

〔共通事項〕

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。

小学校 1・2年生	ア	自分の感覚や活動を通して、	形や色などをとらえること。
小学校 3・4年生	ア	自分の感覚や活動を通して、	形や色、組合せなどの感じをとらえること。
小学校 5・6年生	ア	自分の感覚や活動を通して、	形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。
中学校 1年生	ア	形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。	中学校では、1年生と2・3年生では同じ〔共通事項〕が示されています。
中学校 2・3年生	ア	形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。	平成20年の改訂で新たに示された〔共通事項〕。アでは、形や色彩など部分的なこと、イでは、イメージといった全体的なことを示していることが分かります。アでは、木の目で見ると。イでは、森の目で見るとも例えられます。〔共通事項〕は、指導を見つめ直していく視点を示しているといえます。
小学校 1・2年生	イ	形や色などを基に、	自分のイメージをもつこと。
小学校 3・4年生	イ	形や色などの感じを基に、	自分のイメージをもつこと。
小学校 5・6年生	イ	形や色などの造形的な特徴を基に、	自分のイメージをもつこと。
中学校 1年生	イ	形や色彩の特徴などを基に、	対象のイメージをとらえること。
中学校 2・3年生	イ	形や色彩の特徴などを基に、	対象のイメージをとらえること。

〔共通事項〕のみをとり出して指導したり評価したりするものではないのです。
〔共通事項〕によって、子どもの学びを具体的に想定した指導計画を作成したり、学びの過程を重視して指導や評価を行ったりすることが大切です。

中学校では、1年生と2・3年生では同じ〔共通事項〕が示されています。

材料や用具についての取扱い

小学校 1・2年生

◎クレヨン

◎パス

- カラーペン
- ラッシュンペン
- 版画インク

小学校 3・4年生

前学年までに経験した用具については、その使い方に慣れるようにするとともに、簡単な手入れをしたり、それらを大切にしたりする習慣が身に付くようにしましょう。

小学校 5・6年生

◎印は、指導要領解説に記載されているもの。
○印は、教科書に記載されているもの。
・印は、資料集などに多く記載されているもの。

幼稚園における表現の経験も知っておきましょう。

刃物類においては、刃こぼれがないかを確認したり、材料の硬さが児童にとって適切であるように配慮しましょう。

◎土、粘土、紙

◎はさみ

◎のり

◎簡単な小刀類

◎木

平成20年の改訂で、中学年に「釘」「金づち」が加わりました。教科書では、すでに取り上げられることが多く、追認した形です。

◎水彩絵の具

紙、木などは質の違いなどによって一概に経験したとはいえません。どんな材質のものを経験しているかについても把握しましょう。

図工室や美術室の備品を整備しておきましょう。室内の環境面からも安全に十分配慮して、事故防止に努めましょう。

平成20年の改訂で、高学年に「針金」が加わりました。教科書では、すでに取り上げられることが多く、追認した形です。

接着剤には、樹脂を高温で溶かして使うものや接着力の強いものがあるので、皮膚などに関する危険性などを事前に児童が理解しておく必要があります。

○固形接着剤

電動糸のこぎりやドリルなど電動機械の使用時には教師が付き、慎重な取扱いが必要です。

◎針金 糸のこぎり

- げんろう
- ペンチ
- 釘めき
- パール
- ドライバー
- きり
- 木工万カ
- クランプ
- 木工やすり

◎スポンジ (版)

…例としてあげられている。(指導上の留意点)

◎焼成する経験

…児童が工夫して楽しめる活動にする。(指導上の留意点)

◎コンピュータ、カメラ、コピー機などの機器

…用具の中の一つとして扱うとともに、必要性を十分に検討して利用する。(指導上の留意点)

中学校 1年生

◎水彩絵の具、色鉛筆、ペン、パステル、ポスターカラー、色紙など

- ・アクリル絵の具
- ・スケッチ
- ・水墨画
- ・単色版画、多色版画、モノプリント、コラグラフ、ドライポイント、エッチング、リトグラフ、シルクスクリーン

◎粘土、木、石、紙など

- ・ガラス棒
- ・平面構成
- ・イラストレーション
- ・漫画
- ・写真、ビデオ
- デジタルカメラ
- スキャナー
- ・光

塗料類及び薬品類の使用に際しては、換気や保管・管理を確実にを行うとともに、薬品などにアレルギーをもつ生徒を事前に把握するなどの配慮が必要です。

- ・木
- ・紙
- ・石
- ・土
- ・金属
- ・プラスチック

- ・のみ
- ・ボール盤
- ・アクリルヒーター

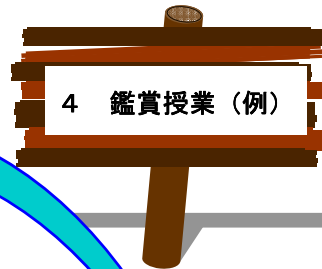
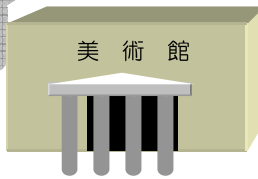
◎石彫用具 (例)

- ・たがね
- ・いもづち

中学校 2・3年生

※事故防止のために用具や機械類を、日常から点検整備に心掛ける。また、刃物類をはじめとした材料・用具の正しい使い方や手入れや片付けの仕方などの安全指導を、授業の中で適切な機会を捉えて行う必要がある。

美術館と連携する場合には、学芸員任せではなく、どのようなねらいで授業をするのかを共通理解しましょう。



付けたい力(ねらい)

アーティスト、デザイナー、工芸家などの連携により、制作のプロセスを鑑賞する取組も考えられます。

子どもにとって、身近な作品は？親しみのある作品は？
出会っている作品・学習した作品は？ など
子どもの実態をつかみましょう。

日常生活

他教科等

他教科の担当教員との連携により鑑賞の幅が広がることもあります。

本物を持ち込みたいが難しい…そんな時！
☆ 教師自身が本物を鑑賞する。
☆ テープなどで枠をつくり、本物の大きさを示す。
☆ プロジェクターで壁に実物大で投影する。
☆ 模写、映像などを用意する。
(備品の充実、美術館の貸し出しの利用など)

鑑賞

いろいろな方法が考えられますが、感じたことを、色、光、形などの要素やイメージにたちもどって、子どもたちが捉えるようにすることが大切です。

いつ、何を、どこに、どのように、なぜを子どもたちのものに！
子どもが主体的に考えることができるようにしたいものです。知識を教えこむのではなく、作品から感じ取る、読み取る鑑賞の力を育みましょう。
例「朝・昼・夕・夜のいつだろう、なぜそう感じるのだろうか？」
「季節はいつだろう、なぜそう感じるのだろうか？」
「どんな気持ちで表現したのだろうか、なぜそう感じるのだろうか？」
「他の作品と見比べるとどのような違いがあるだろうか？」
「どんな技法が使われているのだろうか？他の技法だったらどうだろうか？」 など

表現

☆ 模写する。作品の一部を隠して描く。
例「〇〇(作者)風に表現してみよう。」
☆ 構図、技法、表現意図などを表現に取り入れる。 など

〔共通事項〕

鑑賞で付けた力と表現で付けた力との関わりを〔共通事項〕との視点から、見取っていきましょう。

活動をさせただけで、ねらいを見失っていないか、方法などがねらいにすりかわってしまっていないかについて、考えましょう。

手触り、温度、におい、音、味など様々な感覚を使って感じる力。色、光、形などから捉えたり、鑑賞する力を、表現とリンクさせたりする力。触覚体験、視覚体験を言語にする力。図画工作・美術科ならではの幅広い言語も育みましょう。

付けたい力(ねらい)

授業形態(例)

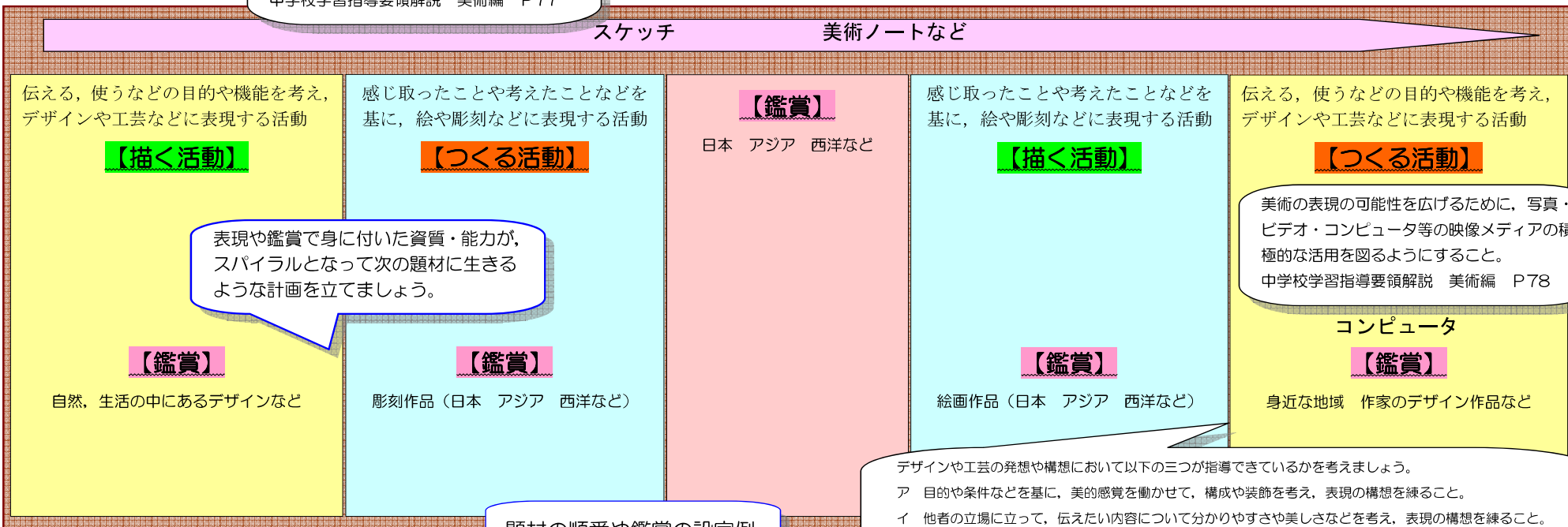
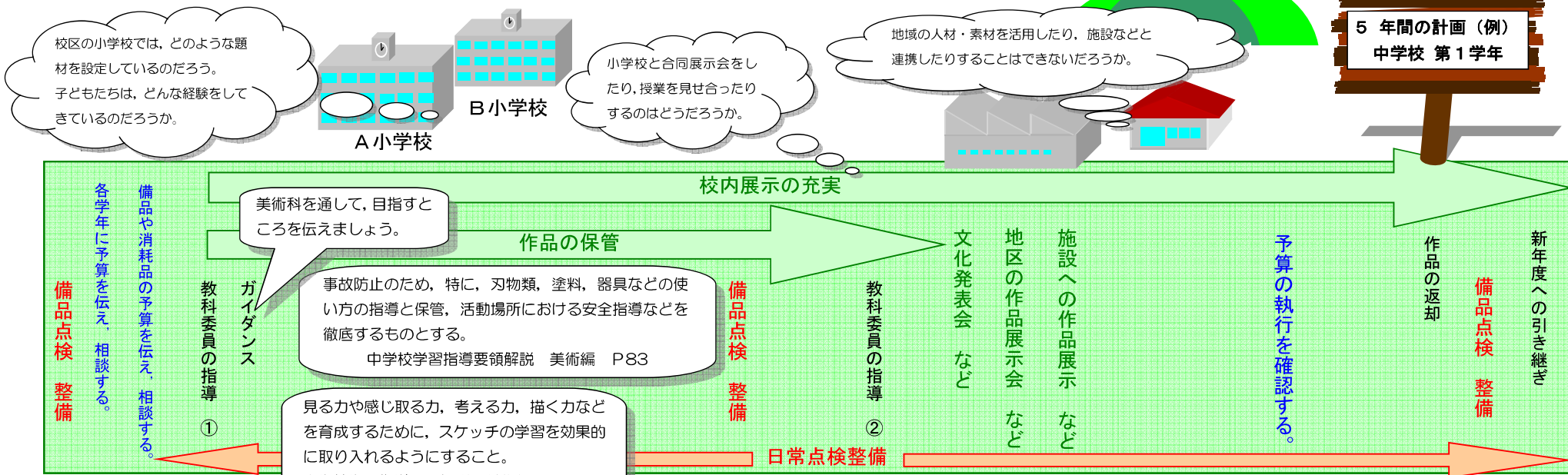
- 鑑賞の授業として独立しない場合
 - ・ 表現の授業と合わせて行う。 など
 - ・ 日常生活の中での鑑賞の場を設定する。 など
- 鑑賞の授業として独立させる場合
 - ・ 美術館や校外の作品を鑑賞する。 など
 - ・ 本物や模写などにより校内で鑑賞をする。 など

方法(例) …作品

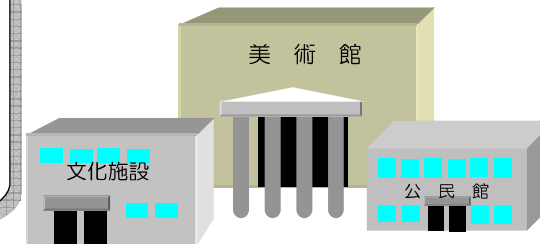
- ☆ 作品に吹き出しを入れる。例「作品にインタビューをしてみよう。」「作品から言葉をひろおう。」
- ☆ 作品と同じポーズをする。作品から受けた感じを身体表現する。
- ☆ 作品の一部を隠し、何がどのように表現されているかを考える。白黒にして、色相や明度を考える。
- ☆ カレンダーの月ごとに似合う作品を選ぶ。例「この作者のこの作品は、何月が似合うかな。」「暖かく感じるもの、冷たく感じるものは？それはなぜかな。」
- ☆ 曲や音、料理や味などに例えてみる。例「どんな音が、どこから、どんなふうに関えてくるかな。」
- ☆ 作品のタイトルを考えてみる。例「作品のストーリーを考えてみよう。」
- ☆ 細部をじっくりみる。例「かたつわりになって絵をみてみよう。」「(川の描かれた絵) 笹舟に乗って絵の中を旅してみよう。」「パズルにしてみよう。」「作品の不思議なところを探してみよう。」「修復前と修復後を見比べてみよう。」
- ☆ 作品のおすすめポイントを紹介する。例「(立体作品) おすすめの見る位置を紹介しよう。」 など

方法(例) …作品群

- ☆ 作品群を並びかえたり、仲間分けをしたりしてその根拠を話し合う。例「家に飾りたい作品、学校に飾りたい作品、同じ表現ができるようになりたい作品、手に入れたい作品とその理由など」「似た作品をつなげていこう。」
- ☆ 用紙の上に絵葉書の作品を配置して美術館をつくる。美術館のジオラマをつかって作品を配置する。 など

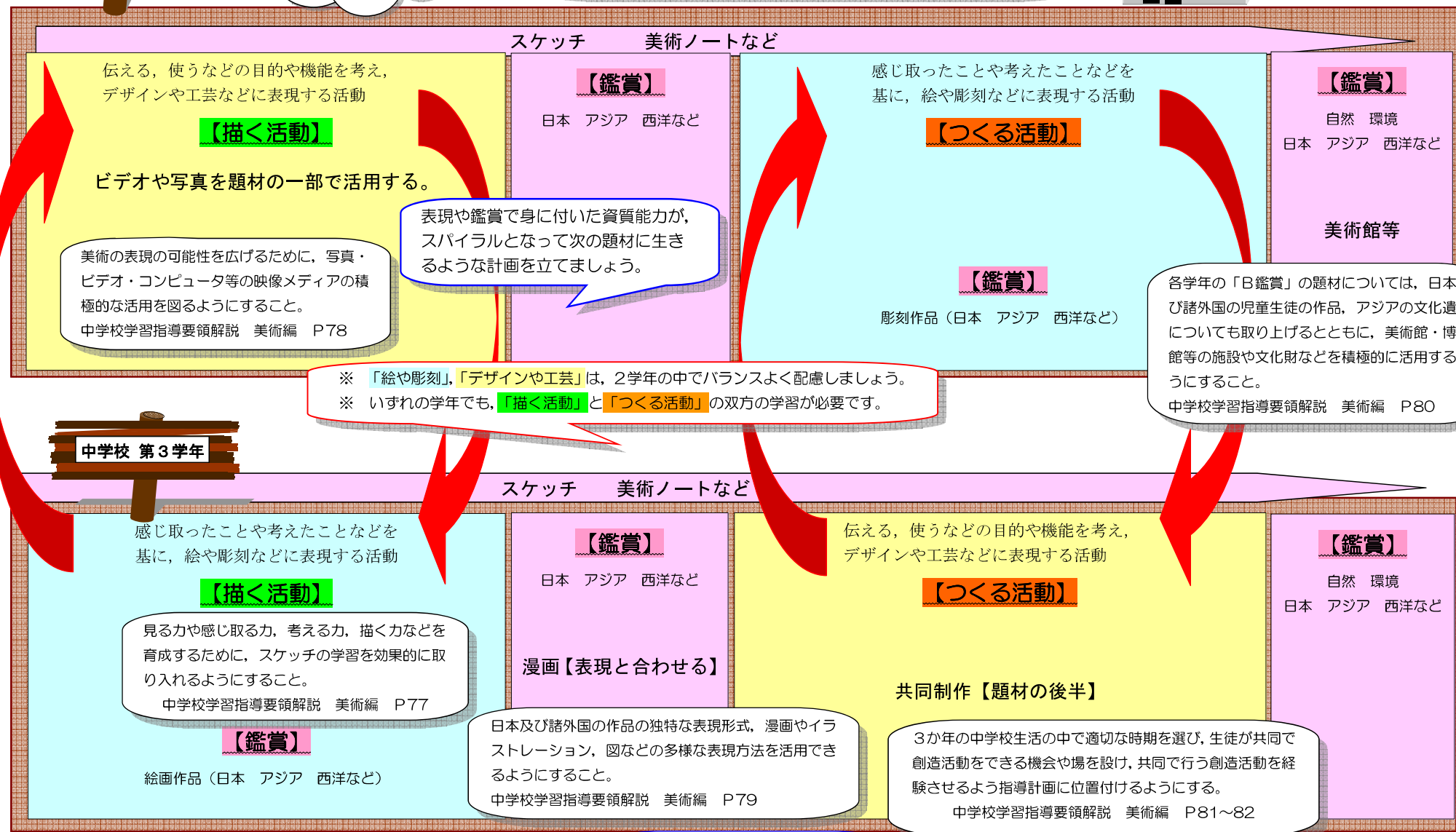


デザインや工芸の発想や構想において以下の三つが指導できているかを考えましょう。
 ア 目的や条件などを基に、美的感覚を働かせて、構成や装飾を考え、表現の構想を練ること。
 イ 他者の立場に立って、伝えたい内容について分かりやすさや美しさなどを考え、表現の構想を練ること。
 ウ 用途や機能、使用する者の気持ち、材料などから美しさなどを考え、表現の構想を練ること。
題材を三つ以上に分けて設定することも考えられます。



校区の小学校や、中学校の第1学年でどのような題材を経験しているのだろうか。

デザインや工芸の発想や構想において、以下の三つが指導できているかを考えましょう。
 ア 目的や条件などを基に、美的感覚を働かせて形や色彩、図柄、材料、光などの組合せを簡潔にしたり総合化したりするなどして構成や装飾を考え、表現の構想を練ること。
 イ 伝えたい内容を多くの人々に伝えるために、形や色彩などの効果を生かして分かりやすさや美しさなどを考え、表現の構想を練ること。
 ウ 使用する者の気持ちや機能、夢や想像、造形的な美しさなどを総合的に考え、表現の構想を練ること。 **題材を三つ以上に分けて設定することも考えられます。**



※ 「絵や彫刻」、「デザインや工芸」は、2学年の中でバランスよく配慮しましょう。
 ※ いずれの学年でも、「描く活動」と「つくる活動」の双方の学習が必要です。

表現や鑑賞で身に付いた資質能力が、スパイラルとなって次の題材に生きるような計画を立てましょう。

題材の順番や鑑賞の設定



授業を考えると、「こんな作品をつくらせよう」といった教師の考えから出発しがちではありませんか？学習指導要領が示す資質や能力をどのように育てるかというところから始めることが大切です。そのためにも、子どもの実態を幼稚園からもつかんで、題材を構想することが大切です。



幼稚園教育要領解説（平成20年10月）

感性と表現に関する領域「表現」

感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。

1 ねらい

- (1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。
- (2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。
- (3) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。

[内 容]

- (1) 生活の中で様々な音、色、形、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。
- (2) 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。
- (3) 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。
- (4) 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする。
- (5) いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。
- (6) 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。
- (7) かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする。
- (8) 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。

[内容の取扱い]

- (1) 豊かな感性は、自然などの身近な環境と十分にかかわる中で美しいもの、優れたもの、心を動かす出来事などに出会い、そこから得た感動を他の幼児や教師と共有し、様々な表現することなどを通して養われるようにすること。
- (2) 幼児の自己表現は素朴な形で行われることが多いので、教師はそのような表現を受容し、幼児自身の表現しようとする意欲を受け止めて、幼児が生活の中で幼児らしい様々な表現を楽しむことができるようにすること。



1 ねらい (幼稚園教育要領解説 P158～P159 より抜粋)

幼児は、毎日の生活の中で、身近な周囲の環境とかかわりながら、そこに限りない不思議さや面白さなどを見付け、美しさや優しさなどを感じ、心を動かしている。そのような心の動きを自分の声や体の動き、あるいは素材となるものなどを仲立ちにして表現する。幼児は、これらを通して、感じること、考えること、イメージを広げることなどの経験を重ね、感性と表現する力を養い、創造性を豊かにしていく。さらに、自分の存在を実感し、充実感を得て、安定した気分で生活を楽しむことができるようになる。

幼児の自己表現は、極めて直接的で素朴な形で行われることが多い。ときには、泣くことや一見乱暴に見える行為などでそのときの自分の気持ちを訴えることも見られる。自分の表現が他者に対してどのように受け止められるかを予測しないで表現することもある。あるいは、表す内容が、他者には理解しにくく、教師の推察や手助けで友達に伝わったりする場合もあるが、そのような場合にも幼児は、自分の気持ちを表したり、他者に伝えたりすることによって、満足していることが多い。

また、幼児は音楽を聴いたり、絵本を見たり、つくったり、かいたり、歌ったり、音楽や言葉などに合わせて身体を動かしたり、何かになったつもりになったりなどして、楽しんだりする。これらの表現する活動の中で、幼児は内面に蓄えられた様々な事象や情景を思い浮かべ、それらを新しく組み立てながら、想像の世界を楽しんでいる。また、自分の気持ちを表すことを楽しんだり、表すことから友達や周囲の事物との関係が生まれることを楽しんだりもする。

[内 容] (幼稚園教育要領解説 P160～P169 より抜粋)

(1) 幼児は、生活の中で、例えば、身近な人の声や語り掛けるような調子の短い歌、面白い形の遊具、あるいは心地よい手触りのものなど、様々なものに心を留め、それに触れることの喜びや快感を全身で表す。

幼児は、生活の中で様々なものから刺激を受け、敏感に反応し、諸感覚を働かせてそのものを素朴に受け止め、気付いて楽しんだり、その中にある面白さや不思議さなどを感じて楽しんだりする。そして、このような体験を繰り返す中で、気付いたり感じたりする感覚が磨かれ、豊かな感性が養われていく。

(2) 幼児が出会う美しいものや心を動かす出来事には、完成された特別なものだけではなく、生活の中で出会う様々なものがある。例えば、園庭の草花や動いている虫を見る、飼っている動物の生命の誕生や終わりに遭遇することなどである。それらとの出会いから、喜び、驚き、悲しみ、怒り、恐れなどといった情動が生じ、心が揺さぶられ、何かを感じ取り、幼児なりのイメージをもつことになる。

幼児は、日常の生活の中でこのような自然や社会の様々な事象や出来事と出会い、それらの多様な体験を幼児のもっている様々な表現方法で表そうとする。このような体験を通して、幼児は、具体的なイメージを心の中に蓄積していく。

(3) 様々な出来事と出会い、心を動かす体験をすると、幼児はその感動を教師や友達に伝えようとする。その感動を相手と共有できることで、さらに感動が深まる。しかし、その感動が教師や友達などに受け止められないと、次第に薄れてしまうことが多い。

(4) 幼児は、感じたり、考えたりしたことをそのままに率直に表現することが多い。また、幼児は、感じたり、考えたりしたことを身振りや動作、顔の表情や声など自分の身体そのものの動きに託したり、音や色、形などを仲立ちにしたりするなどして、自分なりの方法で表現している。

その表現は、言葉、身体による演技、造形などに分化した単独の方法でなされるというより、例えば、絵を描きながらその内容に関連したイメージを言葉や動作で表現するなど、それらを取り混ぜた未分化な方法でなされることが多い。特に3歳児は、手近にある物を仲立ちにしたり、声や動作など様々な手段で補ったりしながら自分の気持ちを表したり、伝えたりしようとする。

(5) 幼児は、思わぬものを遊びの中に取り込み、表現の素材とすることがある。また、例えば、木の枝や空き箱をいろいろに見立てたり、組み合わせを楽しんだりして、自分なりの表現の素材とすることもある。このような自分なりの素材の使い方を見付ける体験が創造的な活動の源泉である。

(6) 幼児は、一般に音楽にかかわる活動が好きで、心地よい音の出るものや楽器に出会うと、いろいろな音を出してその音色を味わったり、リズムをつくったり、即興的に歌ったり、音楽に合わせて身体を動かしたり、ときには友達と一緒に踊ったりしている。

(7) 幼児は、生活の中で体験したことや思ったことをかいたり、様々なものをつくったり、それを遊びに使ったり、飾ったりして楽しんでいる。幼児の場合、必ずしも、初めにははっきりとした必要性があって、かいたり、つくったりしているのではない。身近な素材に触れて、その心地よさに浸っていることも多い。やがて線がかけることや形が組み合わされて何かに見立て、遊びのイメージをもち、それに沿ってかき加えたり、作り直したりする場合もある。また、自分でかいたり、つくったりすることそのことを楽しみながら、次第に遊びのイメージを広げたりする場合もある。

(8) 幼児は、家庭や幼稚園の生活の中で体験を通して、心の中に様々なイメージを思い描いている。そして、身近な環境から刺激を受け、その心の内にあるイメージを様々な表現している。例えば、ままごとの道具を見ることから家庭生活を思い起こし、そのイメージに沿って母親や父親の役になってままごとを楽しんだり、あるいは物語を聞いてその登場人物に対する憧れの気持ちからごっこ遊びを楽しんだり、自分たちの物語をつくって演じたりする。

入園当初は、一人一人がそれぞれの見立てを楽しんだり、自分が物語の登場人物になって振る舞うことによって一人で満足したりする姿が多く見られる。同じ場にながらも、あるいは同じものに触れながらも、そこからイメージすることは一人一人異なっている。特に、3歳児は一人一人の世界を楽しんでいることが多く、何かのつもりになってごっこ遊びをするというよりは、1本の棒を持っただけで何かになりきることさえできる。



教科目標に関する実態(小学校学習指導要領解説 図画工作編)

児童は、幼いころから、身近なものや人と触れ合いながら生きている。自分の感覚や行為を手掛かりに、自ら働きかけたり、周りから働きかけられたりしながら成長していく。それは、造形的な面からとらえれば、地面や身近にある紙などに線や形をかいてその形を意味付けたり、身近な材料を積むことから組立て方を工夫したりするなどの活動である。そこでは、見たり感じたりする力、次にどのような形にするかを考える力、それを実現するために用具や表現方法を工夫する力などが働いている。何より、つくりだす喜びを味わっている。そこには、児童の造形的な資質や能力が自然に発揮されている姿を見ることができる。

造形遊びの実態(小学校学習指導要領解説 図画工作編)

児童の遊びには、人が本来もつ生き生きとした姿を見ることができる。遊びにおいて、児童は、自ら身の回りの世界に進んで働きかけ、いろいろと手がけながら、自分の思いを具体化するために必要な能力を発揮している。そこには心と体を一つにして全身的にかかわりながら、多様な試みを繰り返し、成長していく姿がある。

表したいことを絵や立体、工作に表す活動の実態(小学校学習指導要領解説 図画工作編)

幼い子どもは、よく身近な紙や地面に思いのままかいたり、土や箱で何かをつくったりして楽しんでいる。この活動は、やがて、線や形に自分なりの意味を見付けるようになり、自分の思いや願いを表すことにつながっていく。それは、自分の感じたことや思ったことを自分の方法で表すという表現の始まりともいえる。児童は、そのようにしながら、表したい思いを基に発想を広げたり、どのように表すかを考えたりする。それは次第にまとまりを見せるようになり、作品と呼べるようになる。

鑑賞の実態(小学校学習指導要領解説 図画工作編)

児童は、幼いころから、身近なものを見つめたり、手にしたりするなど、自ら対象に働きかけることを通して身の回りの世界をとらえている。それは感じたことを組み立てたり、組み直したりしながらその子なりに理解を深めていく営みである。その営みの中で、児童は対象に面白さを感じたり、周りの人と共有できるよさなどを見付けたりしながら自分なりに意味や価値をつくりだしている。それは、見ることとつくることを繰り返しながら表現を高めたり、感じたことを話し合いながら文化の違いを理解したりする活動などの基盤になっている。

第1学年及び第2学年の全般の実態(小学校学習指導要領解説 図画工作編)

この時期の児童は、周りの人、物、環境などに体ごとにかかわり全身で感じるなど、対象と一体になって活動する傾向がある。学習では、具体的な活動を通して思考する、既成の

概念にとらわれずに発想するなどの特徴が見られる。表現及び鑑賞の活動においても、つくりながら考えたり、結果にこだわらずに様々な方法を試したり、発想が次々と展開したりするなどの様子がある。活動と場、体験と感情などが密接に結び付いているため、友人の行動やその場の出来事に応じて次々と活動が変わることもある。

第3学年及び第4学年の全般の実態(小学校学習指導要領解説 図画工作編)

この時期の児童は、ある程度対象との間に距離をおいて考え、そこで気付いたことを活用して活動ができるようになる。表現及び鑑賞の活動においても、表し方を工夫することに意欲を示したり、想像したことを実現することに熱中したりするようになる。また、手などの働きも巧みさを増し、扱える材料や用具の範囲が広がってくる。一人一人の児童の特性が目立つようになり、多様な試みが見られるようになるが、同時に友人の発想やアイデアを利用したり、表し方を紹介し合ったりするなど、周りとのかかわりも活発になる。

第5学年及び第6学年の全般の実態(小学校学習指導要領解説 図画工作編)

この時期の児童は、社会的な情報を活用して考えたり、直接体験していないことに思いを巡らせたりすることができるようになる。そして、様々な視点から自分の行動や考えを検討したり、友人の立場になってその心情を思いはかたりするようになる。表現及び鑑賞の活動においては、筋道立てて表現したり、作品などを分析的に鑑賞したりできるようになる。また、自分の作品や発言を第三者的に振り返ったり、集団や社会などとの関係でとらえたりするようにもなる。このため、ある表現形式に対して苦手意識をもったり、感じたことや考えたことを話すことを躊躇（ちゅうちよ）したりすることもある。

第1学年及び第2学年の目標(1)の実態(小学校学習指導要領解説 図画工作編)

低学年の児童は、表現や鑑賞そのものを楽しむ意欲的な発達の段階にある。興味のある対象に全身で働きかけ、その意味を自分なりにとらえて学習している。そこには、周りの人や友人の考えや行動、周囲の環境などと一体になって活動する低学年らしい姿がある。

第3学年及び第4学年の目標(1)の実態(小学校学習指導要領解説 図画工作編)

中学年の児童は、ある程度物事を関連付けて考えられるようになり、自分の考えを大切にしたり、気に入った活動を意欲的に追求したりするようになる。また、友人と一緒に活動を好み、交流し合うことで学習をより高めていくことができるようにもなる。

第5学年及び第6学年の目標(1)の実態(小学校学習指導要領解説 図画工作編)

高学年の児童は、自分なりに納得のいく表現や鑑賞の活動ができたり、作品を完成させたりしたときなどに充実感を感じる傾向が強くなっていく。一方、友人や他の人からの発言や反応が、ときとして学習意欲を左右することもある。

第1学年及び第2学年の目標(2)の実態(小学校学習指導要領解説 図画工作編)

低学年の児童は、造形活動において、形や色、材料などに自ら働きかけ、表したいことを見付け、それを表す方法を考えながら、また材料などに働きかけるといふ、行きつ戻りつするような活動をする特徴がある。そのような活動の過程において、児童は発想や構想、創造的な技能などの能力を身に付けることになる。

第3学年及び第4学年の目標(2)の実態(小学校学習指導要領解説 図画工作編)

中学年の児童は、造形活動において、夢や不思議な世界についての想像を楽しんだり、用具を使うことに没頭したりするなど、活動そのものに夢中になるような特徴がある。そのような活動の過程において、児童は発想や構想、創造的な技能などの能力を身に付けることになる。

第5学年及び第6学年の目標(2)の実態(小学校学習指導要領解説 図画工作編)

高学年の児童は、造形活動において、一人一人の傾向や特性がはっきりしてきて、その子らしい主題で表そうとしたり、手応えのある材料や用具を使おうとしたりするような特徴がある。そのような活動の過程において、児童は発想や構想、創造的な技能などの能力を身に付けることになる。

第1学年及び第2学年の目標(3)の実態(小学校学習指導要領解説 図画工作編)

低学年の児童は、鑑賞活動において、作品と自分が一体となるような気持ちで見たり感じたりする。そして、身近な材料などを見たり触ったりすることから感じ取った面白さや楽しさを自然に言葉にしたり、友人の話を聞いたりしながら、楽しむ様子がある。

第3学年及び第4学年の目標(3)の実態(小学校学習指導要領解説 図画工作編)

中学年の児童は、鑑賞活動において、対象をある程度客観的にとらえたり、友人から得た情報を活用して判断したりできるようになる。また、低学年と同じように作品と自分が一体となるような気持ちで見たり感じたりする傾向は変わらないが、形や色などに自分なりの意味を見付けて納得する様子がある。

第5学年及び第6学年の目標(3)の実態(小学校学習指導要領解説 図画工作編)

高学年の児童は、鑑賞活動において、自分なりの感じ方や見方をしようとする傾向が強まってくると同時に、他者の立場から見るができるようになる。また、自分の経験を基に形や色などの特徴から分析的に見たり、対象について社会的な意味付けをしたりするようになる。ただ、この段階においても、作品と自分が一体となるような気持ちで見たり感じたりする傾向は残っている。

第1学年及び第2学年の内容A表現(1)の実態(小学校学習指導要領解説 図画工作編)

この時期の児童は、土や粘土などの材料に体ごとかかわって楽しんだり、身近にあるいろいろな材料を並べたり、積んだり、何かに見立てて遊んだりする。そこには、進んで材料などに働きかけ、そこで見付けたことや感じたことを基に、思考や判断をし、自分の思いの実現を図ろうとする姿がある。

第3学年及び第4学年の内容A表現(1)の実態(小学校学習指導要領解説 図画工作編)

この時期の児童は、友人と共に活動することを楽しみ、目的や面白さ、楽しさ、簡単なルールなどを共有しながら遊ぶようになる。また、自分の体より大きな材料を使ったり、広い場所や狭い空間などを利用したりしながら活動するようになる。そこには、これまでの経験を生かし、人やものなどの様々な条件を組み合わせたり、それらを調整したりしながら活動する姿がある。

第5学年及び第6学年の内容A表現(1)の実態(小学校学習指導要領解説 図画工作編)

この時期の児童は、関心の対象が社会的に広がり、ある特定の対象にあこがれをもったり、様々な出来事を批判的にとらえたりするようになる。周りの人や周囲の環境などとかかわりながら考えられるようになるので、遊びでは広い場所を使ったりルールを基に楽しんだりするようになる。そこでは、出来事と理由を関連付けて考えたり、これまでに得た技能を活用したりする姿が見られるようになる。

第1学年及び第2学年の内容A表現(2)の実態(小学校学習指導要領解説 図画工作編)

この時期の児童は、かいたりつくったりする活動そのものを楽しむ傾向がある。そして、見たり聞いたりしたことと驚きや喜びなどを一体的にとらえている。また、経験したことや自分で考えたお話、大好きな乗り物や動物などを自分の表し方で思いのままに表している。周りの友人と話をしながら、かいている絵のお話を広げたり、つくっているものを変化させたりする姿もある。

第3学年及び第4学年の内容A表現(2)の実態(小学校学習指導要領解説 図画工作編)

この時期の児童は、興味や関心をもつ対象が広がるとともに、ある程度対象を客観的にとらえられるようになる。一方、夢や願いをかいたり、冒険心に富んだ表現を試みたりするなど、想像力を働かせることを一層楽しむ姿もある。扱う材料や用具の種類は増え、自分の表したいことに合わせて材料や用具を使うことができるようになる。友人の発想を意図的に取り入れたり、教え合ったりしながら表し方を工夫する場面が見られるようになる。

第5学年及び第6学年の内容A表現(2)の実態(小学校学習指導要領解説 図画工作編)

この時期の児童は、考え方や行動などに個性的な面が育ってくると同時に、他者の立場からものごとを見たり考えたりできるようになる。そして、自分を取り巻く環境や生活などについての認識が高まり、社会的な出来事や情報、流行などに関心を示すようになる。これらは、児童が、他者や社会との関係の中で自分らしさを意識するようになることの現れである。造形活動においても、他者を意識するあまり人に見せることに慎重な様子が出てくる一方、自分らしさを表すことができる題材では、友人と活発に交流したり見せ合ったりする様子が見られる。社会的な話題を作品の主題にしたり、流行の形や色を反映させて表したりする場合もある。

第1学年及び第2学年の内容B鑑賞(1)の実態(小学校学習指導要領解説 図画工作編)

この時期の児童に見られる鑑賞の様子は、例えば、校庭に材料を並べながら時折並べた材料を見渡す、自分の作品をいったん確認して次の活動に移る。気に入った対象をじっと見たり材料の感触を楽しんだりするなどである。作品と同じポーズを自然にとったりすることもある。これらは、児童が鑑賞の能力を発揮している姿である。また、作品を見たり、つくったりしているときに、自分の見付けたことを独り言のように口にしたり、友人の話に耳を傾けたりする姿も頻繁にみられる。

第3学年及び第4学年の内容B鑑賞(1)の実態(小学校学習指導要領解説 図画工作編)

この時期の児童は、生活範囲の広がりや発達に応じて、鑑賞の対象が広がるとともに、対象と自分の印象とを分けてとらえられるようになる。例えば、木片や紙の切れ端が面白い形をしている、雲や光の動きがきれいなどであり、そこには自分の好みや判断も加わ

っている。また友人の作品から自分の考えとは異なることを見付けて、その思いを汲（く）み取ったり、絵の具のにじみなどのよさに気付いて、それを自分の表現に生かしたりする。鑑賞して気付いたことや想像したことなどを誰かに話したり、友人と共感し合ったりする姿も見られる。

第5学年及び第6学年の内容B鑑賞(1)の実態(小学校学習指導要領解説 図画工作編)

この時期の児童は、一人一人の感じ方や見方などが育つてくると同時に、物事を他者や社会的な視点からとらえるようになる。このため自分の体験したことを伝えることで他者と体験を共有したり、自分の認識を広げたりすることができるようになる。鑑賞活動では、形や色などから分析的に見たり、意図や気持ちなどを読み取ったりするなど、作品などを深くとらえることができるようになる。また、社会的な視野の広がりから我が国及び諸外国の美術作品などに対しても親しみをもってとらえることができるようになる。

第1学年及び第2学年の〔共通事項〕の実態(小学校学習指導要領解説 図画工作編)

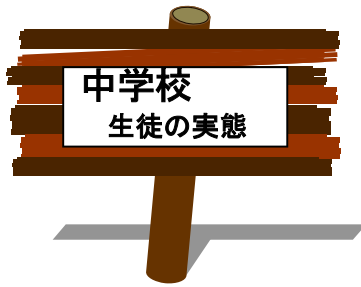
この時期の児童は、その子なりの感覚や気持ちを基に、大きい小さい、長い短いなど、大まかなまとまりによって身の回りの世界をとらえている。例えば、三角は、概ね三角であればよく、そこには山やイチゴなどのいろいろな形が含まれる。赤という色は自分の好きな色だから他の色と区別される。また、自分の活動を通して世界をとらえており、例えば、紙を次々とねじることが、形の変化や抵抗感を楽しむ行為であったりする。イメージについては、自分の感覚や活動などを基にした直感的なものである。例えば、イチゴが整然と詰められている箱がきれい、ねじった形が何となく生き物のように見えるなどが考えられる。そして、多くの場合、それは、自分の気持ちや行為から自然に生まれるものであり、これを対象と分けて考えたり理由付けて説明したりすることは難しい。

第3学年及び第4学年の〔共通事項〕の実態(小学校学習指導要領解説 図画工作編)

この時期の児童は、対象や出来事に対して自分の気持ちや考えを具体的にもつようになる。形や色などについては、単に区別するだけでなく、三角形は鋭い感じがする、赤い色は元気な感じがするなど、対象の感じまでとらえることができるようになる。また、自分の行動を理由付けて説明したり、そのときの気持ちを併せて示したりするなど、事実と気持ち、原因と結果などを関係付けられるようになる。イメージについても同様で、自分の表現を一定のイメージでまとめたり、自分のイメージについて説明したりできるようになる。

第5学年及び第6学年の〔共通事項〕の実態(小学校学習指導要領解説 図画工作編)

この時期の児童は、対象や出来事から特徴を取り出すことができるようになるとともに、それを言葉に置き換えて説明することができるようになる。結果を予想したり、条件を基に可能性を検討したりするなど、論理的な進め方が可能となる。例えば、三角形は矢印みただから並べれば進むような動きが出る、赤は元気な感じがするから画面の周りを赤で塗ったなど、具体的に自分の表現を進めるようになる。また、イメージについては、自分の表現の効果と関連付けて考えたり、話合いで共通のテーマにしたりするなど、いろいろな方法でこれを応用できるようになる。非常口のサインや漫画など、社会的に広く流通している図像や情報を学習の材料として利用できるようになる。



第2学年及び第3学年の実態(中学校学習指導要領解説 美術編)

第2学年及び第3学年は、生徒の心身ともに急速な発達が見られ、自我意識が強まるとともに人間としての生き方についての自覚が深まり、価値観が形成されていく時期である。

第2学年及び第3学年の実態(中学校学習指導要領解説 美術編)

この時期の生徒は、論理的に物事を考えたり様々な論点をもって判断したりするようになる。また、社会的な関心が深化し、他者との関係性の中で、個性や自己の内面性に対する意識が高まってくる。その結果、他者を意識するあまり自己表現することに抵抗感をもつこともある。一方、表現活動において、自分らしさについてこだわったり自己の課題について追求的な態度をとったりすることも多い。

第2学年及び第3学年の実態(中学校学習指導要領解説 美術編)

第2学年及び第3学年では、感情や内面に心が向けられるようになるとともに、眼前に広がる世界だけでなく、知的に構築された世界にも考えが深められるようになる。

第2学年及び第3学年の実態(中学校学習指導要領解説 美術編)

この時期の生徒は、現実的な世界だけでなく、自分の感覚を自由に働かせて、不思議や神秘、幻想の世界などを想像する力が一層豊かになる。その一方で、感情などを象徴的なものや色彩の効果を生かして論理的に構成した世界や、錯覚を利用した不思議な世界など、知的な表現への興味・関心などが高まってくる。

第2学年及び第3学年の実態(中学校学習指導要領解説 美術編)

第2学年及び第3学年では、生徒の心身の急速な発達が見られ、自我意識が強まるとともに人間としての生き方や価値観が形成されていく時期である。

第2学年及び第3学年の実態(中学校学習指導要領解説 美術編)

第2学年及び第3学年になると、これまで鑑賞した経験を生かして多様な視点で作品をとらえ理解できるようになる。

思春期の実態(中学校学習指導要領解説 美術編)

思春期の生徒は、美へのあこがれ、社会や科学、神秘性などに興味をもち、自己の現在及び未来への願いや、生活や社会を改善していくための方策など積極的、建設的な夢を描けるようになる。また、理想と現実とのはざまに悩み自己嫌悪に陥ったり、不信感をもったりする時期でもある。



学習活動や学習態度への配慮

教師の態度や行動による感化

主として自分自身に関すること

(例) 自分らしい表現を模索したり、鑑賞を通して新しい世界に出会ったりすることにより、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。

(例) 感動した経験や、美しいと感じた出来事やものを、表現することにより、生きていく幸せを豊かに感じる。

(例) 進んで表現方法を工夫したり、鑑賞を楽しんだりするとともに、準備や片付けを自分で責任を持って行う。

(例) 材料に使えるような廃材を探したり、効率的に材料を使ったりすることにより、ものを大切に使う。

(例) 自分の表したい主題に向けて、表現を試行錯誤したり、他のよさを取り入れて表現したりしながら粘り強く取り組み、やり遂げる。

主として他の人とのかかわりに関すること

(例) 自分自身が大切にしたい作品をつくったり、つくりあげたりする経験を通して、他の人がつくった作品やつくる過程の大切さを感じ、相手の思いを尊重する。

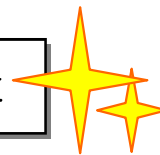
(例) 作家や友達の様々な表現の違いを感じることで、自分と他の人との違いを理解し、謙虚な心を持ち受容する。

(例) 美術作品などを味わう活動を通して日々の生活が多くの人々に支えられて豊かになっていることに感謝し、それに応える。

図画工作・美術科で付けたい力を押さえることが大切です。それとともに、図画工作・美術科は、道徳性を育む、貴重な時間であるとも言えます。

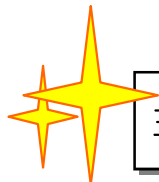
道徳の時間

主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること



(例) 自然の風景や自然物から造形的なよさや美しさなどを感じ取る経験をし、表現や鑑賞をすることにより、自然を大切にします。

(例) 自然、作品、製(制)作する姿から感動する場を経験し、表現や鑑賞をすることにより、美しいものに感動する心を持つ。



主として集団や社会とのかかわりに関すること

(例) 美術館、校外、校内において公共の作品の鑑賞を楽しみ、自分も他の人も大切にすることを心がける。

図画工作・美術科は、実際に体験を重ねる中で、道徳性を育むことができます。とても大切な時間です。

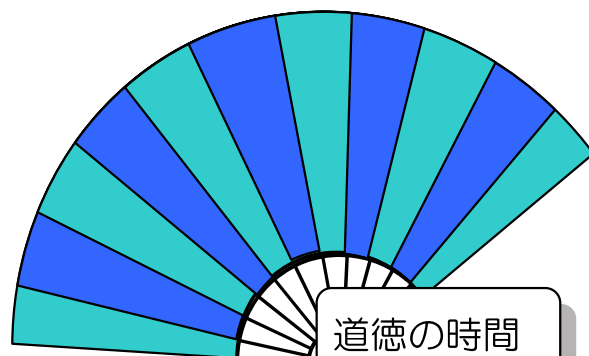
(例) 集団や小グループごとに与えられた用具や水道などを使う順番を守ったり、譲り合ったりして公徳心を持つ。

(例) 刃物の使い方や、薬品類の扱い方を身に付けることにより、正しく安全に道具を使い、自他の身体や公共のものを大切にしながら生活をする。

(例) 日本の美術や芸術に関わる郷土の伝統と文化に対する理解と愛情を深めることにより、郷土や国を愛する。

(例) 世界の国々の作品との出会いを通して、色・光・形などから作者の気持ちを感じ、国際理解を深めるとともに外国の人々や文化を大切にします。

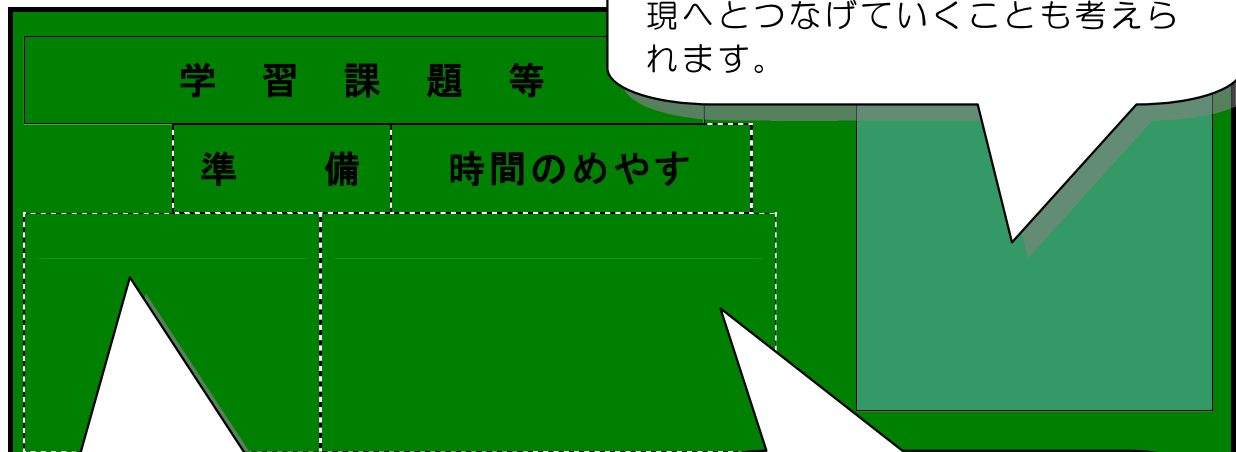
図画工作・美術科では、つくった人の言葉が分からなくても、つくった人がその場にいなくても、その人の気持ちを感じる経験ができます。色・光・形・手触り・音・においなどを生かしながら道徳性を養うことができます。



道徳の時間

年間指導計画作成に際しては、道徳教育の全体計画との関連、指導の内容及び時期等に配慮し、相互に効果を高め合うようにしましょう。

【板書例】



教師の試作，子どもの作品，作家の作品などを鑑賞することにより，表現へとつなげていくことも考えられます。

「性質」や「感情」，「形」「色彩」「材料」「光」など，子どもたちが実感的に理解する手助けとなるキーワードを板書で示すことも考えられます。

子どもたちの直感的な捉え方やその子らしい見方の育ちを大切にしながら，子どもの声を板書することも考えられます。

【授業の具体例】 【題材計画】

表現及び鑑賞の各活動において〔共通事項〕に配慮した「指導計画」を作成しましょう。

〔共通事項〕は，どの時間でも〔共通事項〕を教えるから授業を始めるなど硬直的な指導を意図したものではありません。

学習活動	時	評価規準	○支援や留意点等

子どもの具体的な姿から，子どもがどのようなイメージを持っているかを捉え，指導を改善することが大切です。

〔共通事項〕を，つまずきを見せる子どもの原因は何かを把握する視点として活用することも大切です。

〔共通事項〕アとイの示すもの

アは「形や色彩…などの要素に視点を当て、性質や感情を自分の感じ方を大切にして理解をする内容（【小学校】児童が自らの感覚や活動を通して形や色などをとらえること）」イは「対象の全体的なイメージをとらえること（【小学校】児童が自分のイメージをもつこと）」といった視点です。

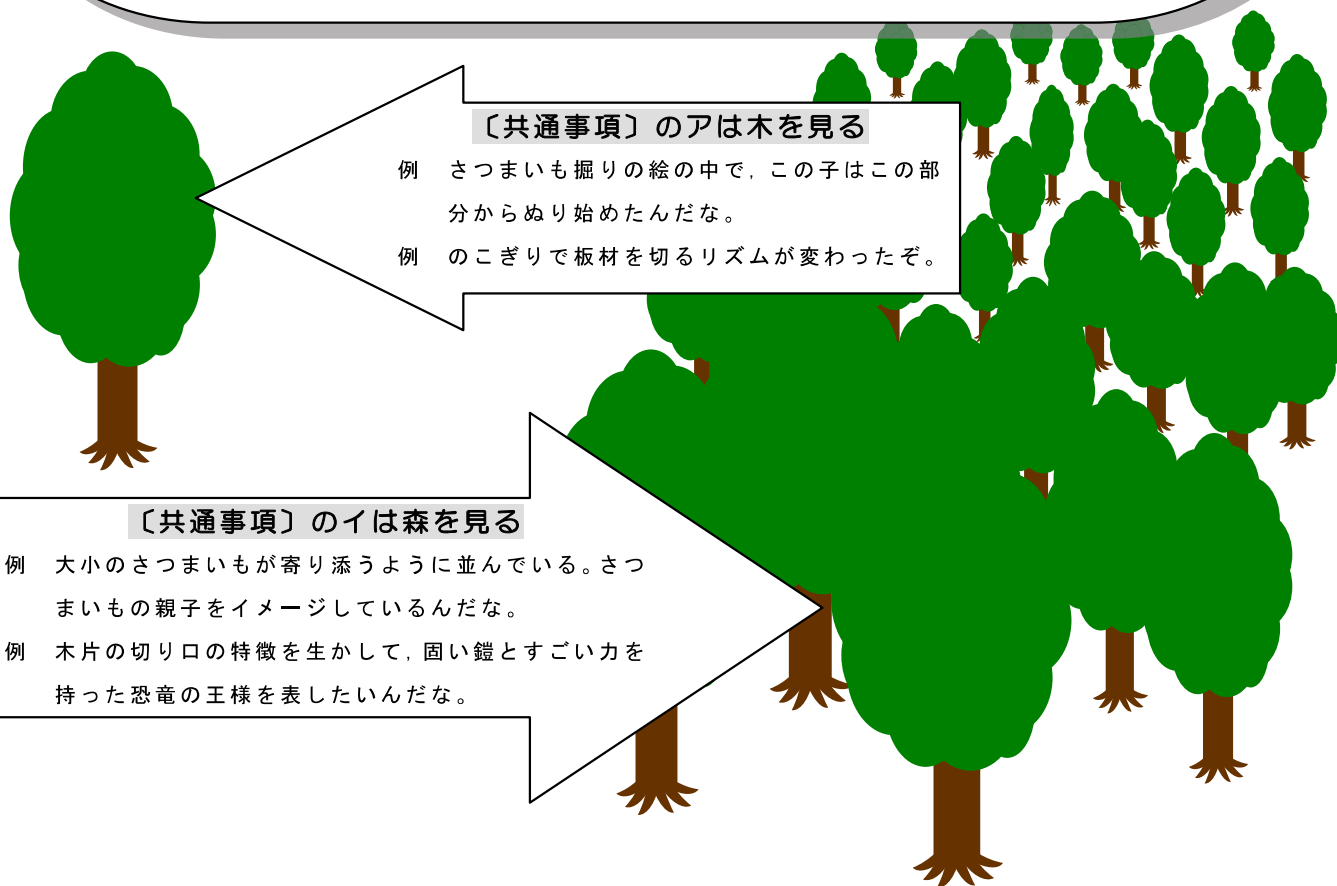
つまり、アは「木を見る」イは「森を見る」といった視点で子どもたちが造形を豊かに捉え、表現や鑑賞の基盤となる感性や造形感覚などを高めていくことをねらいとしています。

〔共通事項〕アとイの関係

アとイで示している内容は、一体的であったり、相互に行き来しながら明らかになったりする性質を持っています。

〔共通事項〕と普段の生活との関係

〔共通事項〕に示された資質や能力は、子どもたちの生活体験や環境などとも深く関わっています。授業と普段の生活の双方が関連しながら育まれるもので、一人一人の子どもが心豊かに生きる上で重要な役割を果たします。



〔共通事項〕のアは木を見る

例 さつまいも掘りの絵の中で、この子はこの部分からぬり始めたんだな。

例 のこぎりで板材を切るリズムが変わったぞ。

〔共通事項〕のイは森を見る

例 大小のさつまいもが寄り添うように並んでいる。さつまいもの親子をイメージしているんだな。

例 木片の切り口の特徴を生かして、固い鎧とすごい力を持った恐竜の王様を表したいんだな。

A 表現

題材名「わあっ はじめまして！わたしのさつまいも」…〈絵〉 小学校第1学年及び第2学年

【題材の目標】

- ・さつまいも掘りの中で心に残ったかきたい場面をクレヨンや水彩絵の具でかくことに関心を持ち、思いのままにかこうとしている。 【造形への関心・意欲・態度】
- ・さつまいも掘りの中で心に残ったかきたい場面を思い付いたり、かきながら表し方や色を考えたりしている。 【発想や構想の能力】
- ・さつまいも掘りのかきたい場面をクレヨンや水彩絵の具を使って、線や色を工夫して表している。 【創造的な技能】
- ・さつまいも掘りの場面を思い起こしながら、自分や友人の作品の表し方の面白さに気付いている。 【鑑賞の能力】

【題材の価値】

【子どもの実態(例)】

- ・この時期の児童は、かく活動そのものを楽しむ傾向がある。見たことと驚きや喜びなどを一体的に捉えている。また、経験したことを自分の表し方で思いのままに表している。周りの友人と話をしながら、かいている絵を変化させる姿もある。

【主題(例)】

- ・さつまいも畑でも掘りの後、すぐかくことにより、つるの長さ、大きさ、多さ、いびつな形や、夢中になって掘っている姿、いもが顔を出した時の喜び、友達と一緒につるを引っぱった楽しさなどの感動を、その子らしい伸びやかな表現につなげたい。そして一人一人が表そうとしている形や色から主題を読み解き、価値付けていきたい。

【材料や用具(例)】

- ・水彩絵の具は、第3学年及び第4学年で扱うことになっているが、前の学年において初歩的な形で扱いたい。その際、パレットやバケツの使い方、置き方、片付け方などを繰り返し指導していきたい。

【発想や構想の能力、創造的な技能、鑑賞などの価値(例)】

- ・クレヨンや水彩絵の具を用いて好きな色を選び、自分の表したい「さつまいも掘り」の様子をかくことによって、創造的な技能の力を高めたい。また、自分の作品にふさわしい題名を考えたり、互いの題名を読み合っって絵を見て楽しんだりすることによって鑑賞の力を高めたい。

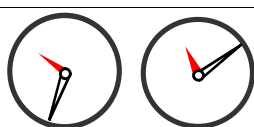
【「指導計画の作成と内容の取扱い」との関連】

第1学年及び第2学年においては、土、粘土、木、紙、クレヨン、パス、はさみ、のり、簡単な小刀類など身近で扱いやすいものを用いることとし、児童がこれらに十分に慣れることができるようにすること。

(小学校学習指導要領解説 図画工作編 P62～63より)

【板書例】 (製作は屋外)

学 習 課 題 等



時間のめやす

・安全面の配慮

※造形要素について

- ・形・色・大きさ・長さ
- ・重さ・固さ・数など

製作は屋外のため、ホワイトボードや模造紙を適宜用いて短時間で示す。

【準備物の例】

- ・画用紙 画板
- ・クレヨン 水彩絵の具 など




「静岡県ならではの」を生かした内容


【体験活動を生かした製作】

校内では、様々な植物を栽培したり動物を飼育したりしていることと思われる。また、静岡県には、栽培している様々な植物・飼育されている様々な動物がいる。田畑、牧場、魚市場や港などで子どもたちが体験活動をしたり本物の動植物と触れ合うことができたりする地域も多くある。こうした体験活動を生かし、子どもたち一人一人の心が揺さぶられた感動を絵画などに表すことも可能である。

低学年の子どもたちが短時間でぐいぐいとかく特性を生かし、安全面や周囲の迷惑にならないことにも配慮しながら、体験したその場でかくことも効果的である。

【授業の具体例】 3時間扱い

学習活動	時	評価規準	○支援や留意点等
<p>・さつまいも掘りをする。 (生活科)</p> <p>・画材のしたくをする。</p>  <p>・さつまいも掘りの中で、一番心に残った場面をクレヨンでかく。(屋外)</p>  	1	<p>【造形への関心 ・意欲・態度】</p> <p>・心に残った場面をかくことに関心を持ち、思いのままにかこうとしている。</p> <p>長いつるが、いっぱいあったよ。</p> <p>【発想や構想の能力】</p> <p>・さつまいも掘りの中で心に残ったかきたい場面を思い付いたり、かきながら表し方や色を考えたりしている。</p> <p>ぼくが一生懸命ひっぱったら、すごく大きなさつまいもが出てきたよ。</p>	<p>○画板や画用紙などを畑の周りに用意しておく。</p> <p>○屋外の活動になるので、気象条件によって、子どもたちの体調管理に留意する。</p> <p>○さつまいも掘りの楽しさの感動が冷めないうちにかくことができるようにさつまいも掘りをした後、時間を空けずにかく時間を設ける。また、さつまいも、葉や茎、土などを間近で見ることができるようにさつまいも畑の周辺でかく場を設定する。</p> <p>○さつまいも掘りを楽しむ子どもたち一人一人の様子をよく見ておき、かくところがなかなか思い付かない子どもにアドバイスができるようにしておく。また、子どもたちが、さつまいも掘りのどのようところが心に残り、かこうとしているかを把握し、個々の表現を価値付けるようにする。</p> <p>○リアルな描写、画一的な表現に捉われないよう、個々の表現意図を感じ取り、温かな声掛けに努める。</p> <p>○油分の多いクレヨンを用いることにより、事後に塗る水彩絵をはじく(パチック)効果が表れやすくなるようにする。</p>

<ul style="list-style-type: none"> 水彩絵の具の使い方や、パレット、筆、筆洗バケツの使い方を知る。(教室) 水彩絵の具で色を塗る。 	2	<p>【造形への関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 心に残った場面に、クレヨンや水彩絵の具で色をつけることを楽しもうとしている。 <p>【創造的な技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> さつまいも掘りのかきたい場面をクレヨンや水彩絵の具を使って、線や色を工夫して表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○水彩絵の具は、やや多めに水で溶くように指導し、バチックの効果が表れるように指導する。 ○クレヨンで塗りたいところや絵の具で塗りたいところの判断は、適宜変えてもよいことを伝える。 ○戸惑いを感じている子どもに対しては、その理由を聞き、子どもの必要に応じて友達を取組を紹介したり、絵の具の使い方を教えたりする。 ○さつまいもにいつでも触れられるよう近くに置いておく。 ○一人一人のこだわりや伸びやかな表現を見取り、価値付けていく。 ○水彩絵の具の使い方について個別に指導をし、適切に使うことができるようにしていく。
<ul style="list-style-type: none"> 子どもたち同士で作品に表した気持ちを紹介し合う。  <ul style="list-style-type: none"> 振り返ったことを、発表したり、カードに書いたりする。 	適宜	<p>【鑑賞の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> さつまいも掘りの場面を思い起こしながら、自分や友人の作品の表し方の面白さに気付いている。 <div data-bbox="630 1579 821 1825" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>たくさんおもしろいものがとれて、うれしかったんだね。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○作品の思いやその時の気持ちが表れる題名になるよう指導する。 ○楽しく鑑賞をするように、友達の意見を聞いて感想を述べたり、作品に表した気持ちを伝え合ったりする場を設ける。 ○平素の学校生活の中でも、作品を鑑賞するように、教室内や校内の適切な場所に展示する。

題材名「新聞紙とともだち」…〈新聞紙の造形遊び〉

小学校第1学年及び第2学年

【題材の目標】

- ・新聞紙の特徴や肌触り，活動によってできた新聞紙の形に興味を持ち，楽しくつくろうとしている。
【造形への関心・意欲・態度】
- ・新聞紙をちぎったりまるめたりしながら，造形的な活動を思い付いたり考えたりしている。
【発想や構想の能力】
- ・新聞紙の特性を生かしたちぎり方，まるめ方，並べ方，包み方などを工夫している。
【創造的な技能】
- ・活動を通して感じたことを話したり聞いたりしながら，新聞紙の特徴，表し方の面白さなどを感じ取っている。
【鑑賞の能力】

【題材の価値】

【造形遊びの価値(例)】

- ・造形遊びが喜びや充実感のある活動となるよう配慮し，作品づくりにならないようにする。子どもたちの，様々なアイデアの変化を大切にするとともに，活動の過程をタイムリーに評価し，つくりだす喜びを味わえるようにしていきたい。並べたり，積んだり，何かに見立てて遊んだりする実態を生かし，新聞紙を扱う造形活動を通して造形的な資質や能力を育みたい。

【子どもの実態と材料の経験(例)】

- ・幼稚園や保育園の表現の経験を踏まえ，扱っていない新聞紙の経験をさせたい。また，ダイナミックな活動経験が少ない子どもが多いため，大量に入手可能な新聞紙を使うことにより，子どもたちが体全体を働かせてつくることができるよう本題材を選択した。

【材料の価値(例)】

- ・新聞紙という素材は，紙の繊維の方向や束ねることによって，とても強固な素材となる。また，新聞紙をちぎったり，まるめたりして使うことにより，様々な表面の感じのちがいを表したり，立体としての表現をしたりすることができる。さらに，素材そのものが比較的大きいため，包んだり敷き詰めたりすることができるという魅力的な素材でもある。新聞紙という身近な素材の可能性を様々なことに知り，つくりだす喜びを強く感じていけることが本題材の魅力であると考えられる。

【発想や構想の能力，創造的な技能，鑑賞の能力などの価値(例)】

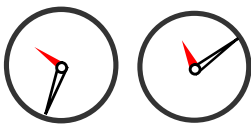
- ・のりやボンドでの接着や彩色を行わないことにより，新聞紙をちぎったり組み合わせたりする子どもの発想や創造的な技能の力をより高めたい。接着や彩色は制限する一方，新聞紙を豊富に扱うことにより手や体全体を働かせる経験を増やしたい。また，環境を工夫し，友人との関わり合いを通して資質や能力が育まれるようにしたい。

【「指導計画の作成と内容の取扱い」との関連】

低学年においては、生活科などとの関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにすること。特に第1学年においては、幼稚園教育における表現に関する内容などとの関連を考慮すること。

(小学校学習指導要領解説 図画工作編 P57より)

【板書例】

学 習 課 題 等	
準 備	 時間のめやす
・安全面の配慮 ・活動の約束	子どもの発言を板書する。 ※キーワード(ちぎる, まるめる)などを見やすく板書することにより, 活動の時間の確保に努める。
	※ 子どもの発見をメインに板書していく。 ※ 貼ることが可能な新聞紙でつくっているものを貼る。

【準備物の例】

- ・新聞紙
- ・デジタルカメラやビデオ
- ・紙ひも など

「静岡県ならではの」を生かした内容


【製紙工場の連携】

静岡県内には製紙工場や大きな紙類などの製造工場が多くある。家庭や地域の協力のもと、長く大きな形の紙類を手に入れることができることも予想される。ただし、善意での提供であることに十分配慮し、協力を仰ぐことが大切である。提供していただくだけの一方通行の関係にならないよう、事後のお礼や活動の紹介など双方向の関係が築けるようにしたい。

利用した紙類のリサイクルやリユースにも心掛け、紙類が無駄にならないように配慮したい。子どもたちが大きな紙や重い束を運ぶことは、危険を伴うこともあるので、安全面の十分な配慮が大切である。

また、子どもの実態を考慮し材質に目を向けていくことに配慮することが大切である。珍しい紙質より身近な新聞紙などの方が造形活動に適していることも多くある。

【授業の具体例】 4 時間扱い

学習活動	時	評価規準	○支援や留意点等
<p>・新聞紙の面白さを味わい、新聞紙に親しむ。 裂く ちぎる まるめる 包む 折る たたむ など</p> 	2	<p>【造形への関心・意欲・態度】</p> <p>・新聞紙の特性や肌触り、活動によってできた新聞紙の形に興味を持ち、楽しくつくろうとしている。</p> <p>折ってみると、どうなるかな。</p>	<p>○新聞紙は子どもが持参したものに加え、十分な活動ができるようにするために、学校で貯めておいたものも用いる。</p> <p>○新聞紙の上ですべて転倒したり、友達や周囲の物にぶつかってけがをしたりしないように事前に指導する。また、活動の約束について説明をし、造形遊びではない他の遊びに逸脱しないよう見通しを持たせる。</p> <p>○手や体全体を使って、新聞紙と関わることができるよう、教師自身も新聞紙の感触を楽しみながら子どもたちの気分が高揚するようにする。</p> <p>○何をつくっているかではなく、どのようにつくっているかに視点をあてて見取る</p>
<p>・つくった形からイメージを膨らめる。</p> <p>・こだわりを持ち、つながりたりつくったりする中で、周囲の変化を楽しみながら活動する。</p>	1.5	<p>【発想や構想の能力】</p> <p>・新聞紙をちぎったりまるめたりしながら、造形的な活動を思い付いたり考えたりしている。</p>	<p>○つくるものが変わってもよいことを子どもたちに伝え、様々な工夫が生まれるようにする。</p> <p>○適宜、互いの方法を紹介し合って、様々な方法を試す場を設ける。</p> <p>○活動に躊躇（ちゅうちょ）している子どもに対しては、その理由をきいたり、様子を見取ったりした上で、子どもの必要感に応じて友達の取組を紹介する。</p> <p>○夢中になるあまり、友達の迷惑になったり、危険なことをしたりすることがないように指導する。また、造形遊びではない、遊びに逸脱しないよう、約束を確認し、適宜指導する。</p>



新聞紙って、いろいろな形に変わっていくね。包んでみても面白いよ。

【創造的な技能】

- ・新聞紙の特性を生かしたちぎり方，まるめ方，並べ方，包み方などを工夫している。

- 活動の様子を，写真やビデオ等に撮っておき，作品の変化の様子も事後に鑑賞できるようにしておく。

- ・互いの活動の工夫や，新聞紙の様々な特性について考えながら，お互いの活動を見合う。

- ・新聞紙の特性を生かした活動について振り返り，気付いたことや感じたことを発表したり，カードに書いたりする。



0.5

【鑑賞の能力】

- ・活動を通して感じたことを話したり聞いたりしながら，新聞紙の特徴や表し方の面白さを感じ取っている。

ねじって付けると，すごく固くて強そうな形ができるんだね。

- 効果的に取り組めるよう，振り返りのワークシートはキーワードを示したものを用意する。

- 個々の子どもの工夫，技法の向上など，活動の過程の様子を価値付けていく。

- 形や手触りなどの新聞紙の特性に目を向けながら，自由に鑑賞し合うようにする。

- 活動の様子を写真やビデオ等に記録し，子どもたちが納得して片付けをしようとする気持ちになるように配慮する。

- 参観会等で，活動の写真やビデオ等を保護者に紹介することにより，造形遊びの意義を知らせる機会とする。

題材名「ザリガニさんのすごいところをおしえて」…〈粘土立体〉 小学校第1学年及び第2学年

【題材の目標】

- ・ザリガニの特徴やザリガニと遊んだ時に感じたことを、思いのままに粘土で表すことに
関心を持ち、つくり出す喜びを味わおうとしている。 【造形への関心・意欲・態度】
- ・体験の中で心に残った「もの」や「こと」から表したいものを思い付いたり、粘土で表
したいものの形を考えたりしている。 【発想や構想の能力】
- ・手の感覚を十分に働かせながら、表したいことを粘土を使って工夫して表している。
【創造的な技能】
- ・自分や友人の作品を楽しく見るとともに、形や表し方の面白さに気付いている。
【鑑賞の能力】

【題材の価値】

【子どもの実態(例)】

- ・小学校低学年の児童は、つくる活動そのものを楽しむ傾向がある。そして体験したこ
とや大好きなものなどを自分の表し方で思いのままに表している。周りの友達と話を
しながらつくっているものを変化させる姿もある。このような傾向を生かして、自分
の表したいことを自分なりの表し方で表現していく造形活動が大切である。自分と対
象を一体的に捉えている低学年らしさを生かして造形活動を工夫したい。

【主題(例)】

- ・「ザリガニさんのすごいところをおしえて。」と投げ掛けることで、自分のイメージ
(体験活動を通して強く心に残ったこと：感じたこと、うれしかったこと、不思議に
思ったこと、つくりながら新たに思ったこと)を基に、表したいことを見つけて表現
することができるようにしたい。

【粘土の価値(例)】

- ・粘土は、児童が納得するまでつくり直したり、行きつ戻りつしながら表したりするこ
とができる材料である。また、児童にとって身近で扱いやすい材料であり、手などの
感覚を十分に働かせることができる材料である。児童が自分の方法で思いのままに表
す過程を楽しめるようにするため、いろいろな表し方を体験させたい。

【発想や構想の能力、創造的な技能、鑑賞の能力などの価値(例)】


- ・粘土で試すようにいろいろな形をつくりながら楽しみ、周りの友人と関わり合いなが
ら、自分の思いをはっきりさせたり、つくりつつある形から、児童の発想や構想の能
力、創造的な技能などを発揮したりできるよう配慮したい。また、展示スペースを考
え合うことにより、自分自身の作品の置き場所を考えて作品の主題を一層強めたり、
互いの作品のこだわりや工夫の面白さに気付いたりするようにしたい。

【「指導計画の作成と内容の取扱い」との関連】

第1学年及び第2学年においては、土、粘土、木、紙、クレヨン、パス、はさみ、のり、簡単な小刀類など身近で扱いやすいものを用いることとし、児童がこれらに十分に慣れることができるようにすること。

(小学校学習指導要領解説 図画工作編 P62～63より)

【板書例】

準備するもの	学習課題等	 時間のめやす	※ 子どもの発見した粘土の技法をメインに板書していく。 ・ つまみ出す ・ くっつける ・ 彫る ・ 型押しするなど
	・ねんど ・ねんどぼん ・ねんどべら ・しんぶんし		
・安全面の配慮 ・活動の約束			

【準備物の例】

- ・粘土 粘土板 粘土べら 切り糸
- ・鑑賞スペースづくりに必要な物(例 人工芝 布) など

発展的な学習の内容例



【生活科など他教科等や幼稚園教育との関連を図ることに関する事項】


幼児期は体験活動が中心の時期であり、周りの人や物、自然などの環境に体ごとにかかり全身で感じるなど、活動と場、体験と感情が密接に結び付いている。小学校低学年の児童は同じような発達の特徴をもっており、体験を通して感じたことや考えたことなどを、常に自分なりに組み換えながら学んでいる。

このような発達の特徴を生かし、生活科など他教科との関連を積極的に図ったり、幼稚園や保育所、認定こども園での表現に関する内容などを参考にして低学年の題材を検討したりする工夫が必要である。例えば、育成を図る資質や能力を明らかにした上で、題材を選択する時期を他教科等の関連的な題材と時期を合わせることが考えられる。図画工作科の時間につくったものを生活科で紹介するなど、他教科等の時間に使うことや、他教科等における自然や社会などの経験を造形的な発想に生かすことなども考えられる。

(小学校学習指導要領解説 図画工作編 P59～60より)

【授業の具体例】 5時間扱い（内1時間は生活科）

学習活動	時	評価規準	○支援や留意点等
<ul style="list-style-type: none"> ・ザリガニつりに行く。 （生活科） 	1	<ul style="list-style-type: none"> 【造形への関心・意欲・態度】 ・ザリガニの特徴 	<ul style="list-style-type: none"> ○採ってきたザリガニを飼育し、見たり、触ったりすることができるようにしておく。
<ul style="list-style-type: none"> ・ザリガニと遊んだことを想起する。  <ul style="list-style-type: none"> ・自分のイメージを基に、ザリガニのポーズや部分ごとの形を考えてつくりはじめる。 	1	<ul style="list-style-type: none"> やザリガニと遊んだ時に感じたことを、思いのままに粘土で表すことに関心を持ち、つくり出す喜びを味わおうとしている。 <p>【発想や構想の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表したいことを思い付いたり、粘土で表したいものの形を考えたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○粘土でつくること戸惑いを持っている子どもに対しては、一緒に粘土を触りながら形の変化を楽しみ、粘土への抵抗感をなくしていく。 ○粘土や道具（粘土べら、切り糸等）に十分に慣れさせながら、基本的な扱いが身に付くようにする。また、安全面について配慮する。 ○ザリガニと遊んでいる様子の話を適宜するなどして、子どもが主題を持てるようにする。
<ul style="list-style-type: none"> ・体験したことの印象に残っている出来事や様子が表れるように表す。 	2.5	<ul style="list-style-type: none"> 【創造的な技能】 ・手の感覚を十分に働かせながら、表したいことを粘土を使って工夫して表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもが体験したことの中で、印象に残っている出来事や様子を一緒に想像し、子どもがどのようなイメージを持っているかについて捉える。 ○戸惑いのある子どもに対しては、その理由を聞いたり、様子を見取ったりした上で、子どもの必要感に応じて友達を取組を紹介する。 ○早くつくり終えた子どもには、展示スペースの工夫などの活動を促す。 ○作品の変化の様子が分かるよう、活動の様子も適宜、写真やビデオ等に収めておく。

<p>・展示の仕方を工夫し、互いに作品を鑑賞し合う。</p> 	<p>0.5</p>	<p>【鑑賞の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分や友人の作品を楽しく見るとともに、形や表し方の面白さに気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○表したいことが伝わるように題名を付けるとともに、展示の仕方を工夫し、楽しく鑑賞できるようにする。 ○子どもたちの話をよく聞くことにより、子どもたちの感じ方や気付きを見取ることができるように努める。 ○参観会に合わせて「ザリガニランド」と生活科の足跡を保護者に公開し、子どもの活動の様子を伝える。 ○子どもたちが納得して片付けられるよう、展示終了後には、作品を写真に撮る。
--	------------	---	---

題材名「穴から広がる物語」…〈絵〉

小学校第3学年及び第4学年

【題材の目標】

- ・色や形を工夫して、穴から始まる二つの世界を想像したり、穴の中と外の世界とを対比させたりしながら、かく喜びを味わおうとしている。【造形への関心・意欲・態度】
- ・穴から広がる物語を思い付いたり、2枚の絵にかく場面を考えたりしている。
【発想や構想の能力】
- ・二つの世界の対比を生かして、穴の形や位置、大きさ、彩色などを工夫している。
【創造的な技能】
- ・自分や友達の作品について話し合い、物語の表し方のよさや面白さを感じ取っている。
【鑑賞の能力】

【題材の価値】

【子どもの実態(例)】

- ・この時期の児童は、興味や関心を持つ対象が広がる。一方、夢や願いをかいたり、冒険心に富んだ表現を試みたりするなど、想像力を働かせることを一層楽しむ姿もある。友達の発想を意図的に取り入れたり、教え合ったりしながら表し方を工夫する場面が見られるようになる。

【主題(例)】

- ・穴の中から外を見るマクロ的な見方も、穴の外から中をのぞき込むミクロ的な見方もどちらも大切にして、子どもたちが伸びやかに発想できるようにしたい。同時に、穴の大きさ・形・位置などを工夫したり、広がる二つの世界を対比的に考えたりすることにより、その子らしい楽しい空想の世界を伸びやかに表現することができるようにしたい。穴の中と外の世界のモチーフや彩色の工夫、さらに、穴の形や開き方の工夫など、一人一人が表そうとしている形や色から主題を読み解き、価値付けていきたい。

【材料や用具(例)】

- ・材料や用具については、画用紙を用い、描画材料としては、馴染みの深いクレヨンや水彩絵の具を扱う。水彩絵の具については、パレットやバケツの使い方、置き方、片付け方などを繰り返し指導する。また、混色についての指導をし、2色を混ぜてつくった色を塗る楽しさを経験することができるようにしたい。さらに、クレヨンの上から水彩絵の具を塗ることにより表れる、はじく面白さも味わえるようにしたい。

【発想や構想の能力、創造的な技能、鑑賞の能力などの価値(例)】

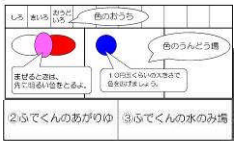
- ・簡略化した穴の開き方を示す試作を見せることにより、子どもたちの発想が広がりやすくなるようにしたい。水彩絵の具の混色を楽しんだり、穴を様々な形や大きさに切り抜いたりする活動を通して創造的な技能の力を高めたい。また、穴から広がるストーリーを伝えたり、友だちのストーリーを聞いたりして楽しむことによって鑑賞の力を高めたい。

【「指導計画の作成と内容の取扱い」との関連】

第3学年及び第4学年においては、木切れ、板材、釘、水彩絵の具、小刀、使いやすいのこぎり、金づちなどを用いることとし、児童がこれらを適切に扱うことができるようにすること。

(小学校学習指導要領解説 図画工作編 P63～64より)

【板書例】

学 習 課 題 等	
時間のめやす	※ 子どもの主題や主題を表す工夫をメインに板書していく。
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"><p>バレットの使い方</p><p>ふでくんのあがのゆ ふでくんの水のみほ</p><p>ふでくんのバスタオル</p></div>	

【準備物の例】

- 一人につき画用紙2枚 はさみ のり セロハンテープ クレヨン 新聞紙
- 油性ペン 水彩絵の具 カッターナイフ カッターマット など

「静岡県ならではの」を生かした内容

【地域の穴を利用して発想を広げる】

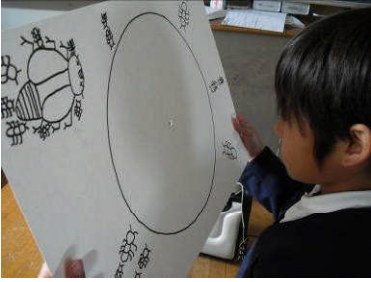
静岡県は、豊かな自然に恵まれている。古い神社やお寺などの境内には樹齢を重ねた木が多くある。こうした木々の洞（ほら）からストーリーを考えることも発想が膨らんでいくであろう。

また、風穴・氷穴・鍾乳洞（しょうにゅうどう）・動物の巣穴のような地域の自然などを生かして子どもたちの発想の手掛かりにすることも考えられる。

【地域の昔話を利用して発想を広げる】

静岡県の各地には、たくさんの昔話が伝わっている。池の底の穴が遠くまでつながっている伝説や大きなへこんだ穴ができた伝説など、たくさんの興味深い話と題材を結び付けて、子どもたちの発想の手掛かりにすることも考えられる。

【授業の具体例】 6時間扱い

学習活動	時	評価規準	○支援や留意点等
<ul style="list-style-type: none"> ・穴の中と外の世界への思いを膨らめる。 ・穴の開け方の効果や穴の外と中へ広がる二つの世界の試作を見ながら具体的にイメージする。 ・はさみやカッターナイフを使って穴を開ける。 ・穴の中へ広がる世界や穴の外へ広がる世界をかき始める。 	2	<p>【造形への関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・穴から始まる二つの世界を想像したり，穴の中と外の世界とを対比させたりしながら，かく喜びを味わおうとしている。 <p>【発想や構想の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・穴から広がる物語を思い付いたり，2枚の絵にかく場面を考えたりしている。 	<p>○子どもたちが，穴から始まる二つの世界に興味を持つような話をしたり，個々の発想が広がるような単純な試作を見せたりしながら導入をする。</p> <p>○穴から広がるストーリーを発想することに戸惑っている子どもに対しては，穴の様々な大きさや形を具体的に見せたりつくったりすることを通して，発想が広がるようにする。</p> <p>○カッターとカッターマットを用いることができるようにするとともに安全面について指導する。</p> <p>○何をかくだけでなく，「どのような」というイメージを考えることにより，一人一人のかきたいものを生み出していく。</p> <p>○油性ペンやクレヨンでのびのびと線描するよう声を掛ける。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・混色の仕方について学ぶ。 ・穴の中へ広がる世界や穴の外の世界を絵にかき，水彩絵の具で色を塗る。 	3.5	<p>【造形への関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・穴の意外性や穴の中へ広がる世界と穴の外の世界の対比を生かしながら，意欲的に工夫をしていく。 	<p>○絵の具や水の量が調節できずに困っている子には，手本を示すなどして教える。</p> <p>○思い通りの色がつくれない子には，少しずつ絵の具を混ぜるよう指導する。</p> <p>○クレヨンで彩色している子には，その上から水彩絵の具をのせるとはじく（バチック）効果になることを適宜伝える。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・ 2枚の画用紙を組み合わせて作品にしていく。 		<p>【創造的な技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 二つの世界の対比を生かして、穴の形や位置、大きさ、彩色や構図の効果を考えながら工夫をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 色を重ねたり、混ぜたり、にじませたり、ぼかしたりするなどの塗り方の工夫を価値付ける。 ○ 彩色する面の広さに合わせて筆を選べるよう適宜指導する。 ○ 一人一人の穴の開け方の工夫やこだわり、ストーリーを表現する工夫を見取り適宜価値付けていく。 ○ 穴を開けてつくった画用紙と、もう1枚の画用紙を効果的に貼り合わせることができるように支援する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 互いの作品を小グループの話し合いにより、鑑賞し合う。 	0.5	<p>【鑑賞の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分や友達の作品について話し合い、物語の表し方のよさや面白さを感じ取っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 穴から広がる二つの世界の不思議さが表れるような題名を付けるように指導する。 ○ 穴を開け閉めしながら、小グループで作品のストーリーや、工夫したところを紹介し、気付いたことや感じたことを伝え合う場を設ける。 ○ 穴の開け閉めができる高さに展示するとともに、作品が壊れないように鑑賞するよう指導する。

題材名「つなげて広げて教室大変身」…〈段ボール造形遊び〉
小学校第3学年及び第4学年

【題材の目標】

- ・段ボールが持つ素材の可能性や場所との関連性に関心を持ち、自分の思いでつくりだす喜びを味わおうとする。 【造形への関心・意欲・態度】
- ・段ボールをつなげながら面白い形を思い付いたり、その形を置く場所を考えたりしている。 【発想や構想の能力】
- ・段ボールの特性や段ボールカッターなどの用具の特徴を生かして、組み合わせたり、切っつけてつなげたり、形を変えたりするなどの工夫をしている。 【創造的な技能】
- ・自分や友だちの活動について話し合いながら、段ボールをつなぐ方法や形の面白さを感じ取っている。 【鑑賞の能力】

【題材の価値】

【造形遊びの価値(例)】

- ・造形遊びが作品づくりにならないように配慮し、子どもたちの、様々なアイデアの変化と活動の変化を評価し、つくりだす喜びを味わえるようにしていきたい。第5学年及び第6学年へのつながりや中学校の美術科及び技術・家庭科の技術分野とのつながりも踏まえ、領域を越えた資質や能力も育みたい。

【子どもの実態と材料の経験(例)】

- ・木ぎれを使った造形遊びを行ったので、同じ学年では別の材料と場所の経験をさせたいということと、低学年の時に扱った段ボールをさらに深めて経験する場を設けたいため、段ボールを選択した。指導に当たっては、材料と場所を分けて捉えず、子どもの発想が広がるようにしたい。

【子どもの実態と場所の経験(例)】

- ・机、椅子、壁、棚などの特徴から発想を広めていくようにしたいことと、安全面や使用条件に配慮することなどを考え、多目的室を活動場所として設定した。

【材料の価値(例)】

- ・段ボールという素材は軽いですが、組み合わせや方向によっては、とても強固な素材である。また、段ボールをはがしたり、はがしたものを使ったりすることにより様々なテクスチャーが表現できる。さらに、素材そのものが持つ温かな風合いがあるという魅力的な面がある。段ボールという身近な素材の可能性を様々なことに知り、つくりだす喜びを強く感じていけることが本題材の魅力であると考えます。

【発想や構想の能力、創造的な技能、鑑賞の能力などの価値(例)】

- ・話し合ったり考えたりする必要感を高めたいということや、「組み合わせる・切っつけてつなぐ・形を変えてつくる」などの工夫を生み出したいという願いから、接着剤を使わずに、切り込みを入れて組み立てたりつなげたりする活動を行いたい。

【「指導計画の作成と内容の取扱い」との関連】

第3学年及び第4学年においては、木切れ、板材、釘、水彩絵の具、小刀、使いやすいのこぎり、金づちなどを用いることとし、児童がこれらを適切に扱うことができるようにすること。


(小学校学習指導要領解説 図画工作編 P63～64より)

【板書例】

学習課題等	
準備	時間のめやす
<ul style="list-style-type: none"> 安全面の配慮 段ボールカッターの使い方 	<ul style="list-style-type: none"> 切り込みが上手につくれない。 段ボールがしっかりくっつかない。 高く積み上げたい。 ゆらゆらする。

こんなつなぎ方をしていたよ。

工夫したつなぎ方の例を写真などで紹介する。



【準備物の例】

- 段ボール 段ボールカッター カッターナイフ カッターマット はさみ
- 紙ひも ビニール袋 など

「静岡県ならではの」を生かした内容

【段ボール工場との連携】

静岡県内には段ボール工場が多くある。また、ものづくりが盛んであるため、梱包（こんぼう）のための段ボールをつくる工場も多い。

子どもたち自身が段ボールを集めることも大切な学習となるが、家庭や地域の協力により特徴的な形や大きな形の材料を手に入れることが可能となる。ただし、善意での提供であることに十分配慮して、協力を仰ぐことが大切である。また、提供してもらいばかりの一方通行の関係にならないよう、事後のお礼など双方向の関係を築くようにしたい。

利用した段ボールのリサイクルやリユースにも心掛け、段ボールが無駄にならないようにすることも大切である。子どもたちが段ボール工場内に立ち入ることは危険を伴うため、安全面にも配慮したい。

【授業の具体例】 5時間扱い

学習活動	時	評価規準	○支援や留意点等
<ul style="list-style-type: none"> 安全面の約束を確認したり活動の見通し持ったりする。 段ボールをつなぎたい場所を見付ける。 段ボールのつなぎ方を考える。 	2	<p>【造形への関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 段ボールをつなぎながら教室を変身させることに関心を持ち、自分の思いでつくりだす喜びを味わおうとしている。 	<p>○各家庭に事前に知らせて段ボールを集めておく。また、学校でも、段ボールを用意し、子どもたちの発想が広がるように準備しておく。</p> <p>○段ボールのつなぎ方に興味を持てなかったり、つなぎたい場所が見付けられなかったりする子どもには、他の子どもの活動の様子を紹介したり、共につくったりするなどして興味を高めるように支援する。</p> <p>○カッターナイフは、学校でストッパー付きの安全なものを用意し、普段持ち歩かないように指導する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 今日の活動について確認する。 自分なりに考えたり、互いの活動の様子を参考にしたりして、つなぎ方を工夫していく。 <div data-bbox="150 1384 512 1653" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="150 1682 512 1951" data-label="Image"> </div>	1	<p>【発想や構想の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 段ボールをつなぎながら面白い形を思い付いたり、その形から考えたりしている。 <p>【創造的な技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 段ボールの特性や段ボールカッターなどの材料や用具の特徴を生かし、工夫してつくる。 	<p>○活動が変わっていてもよいことを確認する。</p> <p>○互いの方法を紹介し合って、友達との交流が自由に行えるようにする。</p> <p>○友達に活動に目を向けてよりよい工夫を見付けるようにしたり、工夫しているところを価値付けたりすることにより発想を広げられるようにする。</p> <p>○活動に戸惑いを感じている子どもには、他の子どもの工夫を紹介したり、特殊な形状の段ボールを与えたりして、発想が広がるように支援する。</p> <p>○夢中になるあまり、刃物の使い方や置き方が乱雑にならないように指導をする。</p>

			○活動の様子を適宜，写真やビデオ等に収めておき，作品の変化の様子も事後に鑑賞できるようにしておく。
・活動場所全体に意識を広げて自慢の場所に大変身させることを楽しむ。	1.5	【創造的な技能】 ・段ボールの特性を生かして，組み合わせたり，切ってつなげたり，形を変えたりするなどの工夫をしている。 【造形への関心・意欲・態度】 ・段ボールを使った造形遊びに興味を持ち，自分のこだわりのある場所で楽しくつくろうとしている。	○効果的に取り組めるよう振り返りのワークシートはキーワードを示してあるものを用意する。 ○製作過程における，個々の子どもの意欲，工夫，創造的な技能等を子どもの考えに身をよせて捉え，適宜声を掛けていく。 ○活動に戸惑いを持っている子どもに対しては，その理由を聞き，必要に応じて，友達との関わりを促したり，アドバイスをしたりする。また，意欲的に活動している子どもに対しては，タイミングよく認め，周りの子どもたちにも意欲が波及するようにする。
・自分の活動のこだわった点や工夫した点などを話し合う。	0.5	【鑑賞の能力】 ・自分や友達の活動について話し合いながら，段ボールをつなぐ方法や形の面白さを感じ取っている。	○鑑賞の視点（つなぎ方，段ボールの特徴を生かした使い方，場所の生かし方など）を子どもたちが具体的に持てるように指導する。 ○保護者には，造形遊びのねらいや活動した子どもの学びの足跡を伝え，造形遊びの意義を知らせる機会とする。

題材名「木と釘から生まれたよ、不思議な国の動物たち」
…〈釘打ち工作〉 **小学校第3学年及び第4学年**

【題材の目標】

- ・ 流木や板材などで見立てた不思議な国の動物を表すことに関心を持ち、木材を加工して形をつくることを楽しもうとしている。 **【造形への関心・意欲・態度】**
- ・ 流木や板材の組合せから表したいことを思い付いたり、釘の打ち方や並べ方などを考えたりしている。 **【発想や構想の能力】**
- ・ 自分が表したいことに合わせて、のこぎりや金づちを使い、木材の組合せや釘の打ち方などを工夫している。 **【創造的な技能】**
- ・ 自分や友だちの作品について話し合うことを通して、木材や釘の組み合わせ方や表し方の面白さを感じ取っている。 **【鑑賞の能力】**

【題材の価値】

【子どもの実態(例)】

- ・ 小学校中学年の児童は、興味・関心の対象が広がるとともに、ある程度対象を客観的に捉えられるようになる。一方、冒険心に富んだ表現を試みたりするなど、想像力を働かせることを一層楽しむ姿もある。扱う材料や用具の種類は増え、自分の表したいことに合わせて材料や用具を使うことができるようになる。友人の発想を意図的に取り入れたり、教え合ったりしながら表し方を工夫する場面が見られるようになる。

【つくりたいもの(例)】

- ・ 「海を渡って流れ着いた木と釘から不思議な国の動物たちが生まれたよ。」と投げ掛けることで、自分のイメージを基に、表したいことを見付けて表現することができるようにしたい。「海を渡って流れ着いた」から、未知の物への興味を膨らめ、「木と釘から生まれた」ということから材料をイメージし、「不思議な国」ということから子どもたちが思いを膨らめていくことができるように配慮した。

【木材、釘の価値(例)】

- ・ 木材は、のこぎりで切った木片の形・流木の形などから発想が広がる材料である。また、木材は、釘打ちにより接合することができる材料であり、可動する部分が生まれることもある。さらに、釘自体の並び方が模様やとげなどの部品に見えてくるという面白さがある。子どもたちは、はじめのうちは釘を思うように打てずに曲げてしまったり、途中で釘を抜かねばならなかったりすることも予想されるが、このような経験を体験させることにより、用具に十分慣れさせていくようにしたい。

【発想や構想の能力、創造的な技能、鑑賞の能力などの価値(例)】


- ・ 木材の組み合わせや釘打ちで試すようにいろいろな形をつくりながら楽しみ、周りの友人と関わり合いながら、自分の思いをはっきりさせたり、作りつつある形から、児童の発想や構想の能力、創造的な技能などを発揮したりできるよう配慮したい。また、金づちや使いやすいのこぎりなどの用具の特性を捉え、使い方に慣れるとともに、安全な使い方にも気を付けながら、適切に扱えるようにしたい。

【「指導計画の作成と内容の取扱い」との関連】

第3学年及び第4学年においては、木切れ、板材、釘、水彩絵の具、小刀、使いやすいのこぎり、金づちなどを用いることとし、児童がこれらを適切に扱うことができるようにすること。

(小学校学習指導要領解説 図画工作編 P63～64より)

【板書例】

学 習 課 題 等		
準 備	時間のめやす	
<ul style="list-style-type: none"> ・安全面の配慮 ・金づちの使い方 ・釘のぬき方 	<p>子どもの生の発言を板書する。</p> <p>※キーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんなふうに ・何をしている 	

【準備物の例】

- ・流木 板材 木切れ
- ・釘 金づち のこぎり 釘抜き ボンド 雑巾やタオル など


発展的な学習の内容例

【鑑賞の工夫…屋外の鑑賞 ビデオやカメラの活用】

「不思議な国の動物たち」にふさわしい場所を校庭で探してデジタルカメラで撮影をする。作品を木の枝に留める、池の水面に映り込ませる、芝生の上に置くなど子どもたちが作品の主題を効果的に工夫するよう配慮したい。また、その場所を選んだ理由などを作品の主題と併せて友達同士で伝え合う場を設ける。屋外での活動においては、事前の点検などをして、安全確認に努めるようにしたい。

子どもたちが主体的に撮影できるように、デジタルカメラの操作方法を教える。少しずつ動きを変えてコマ送り撮影をしたり、ビデオで動画として撮影したりすることにより、動物たちが生きているかのように映像化し、互いに鑑賞するなどすることも考えられる。

【授業の具体例】 4時間扱い

学習活動	時	評価規準	○支援や留意点等
<p>・のこぎりや釘打ちの基礎を学びながら、用具に慣れる。</p> <p>・木材の形や組み合わせにより自分の表したい形を見付ける。</p> 	1	<p>【造形への関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流木や板材などで不思議な国の動物を表すことに関心を持ち、板材の加工や釘打ちを楽しもうとしている。 <p>【発想・構想の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流木や板材の組合せや釘の並び方などから、表したいことを思い付いている。 	<p>○木材の切断や接合の方法や注意することを、手本を示しながら分かりやすく伝える。板書や掲示物で材料や用具の扱い方や安全面の約束を示し、子どもたちが適宜振り返ることができるようにする。</p> <p>○曲がった釘を入れる容器, 使いそうな端材を入れるコンテナなどを用意し, 安全かつ, 材料を無駄にしない環境設定に努める。</p> <p>○のこぎりや金づちに十分に慣れさせながら, 基本的な扱いが身に付くようにする。また, 安全面に配慮する。</p> <p>○材料や用具を扱うことに戸惑っている子どもに対しては, 一緒に切ったり, 釘打ちをしたりすることなどを通して, 扱い方を具体的に指導するとともに, 楽しさを共有する。また, 釘を抜く経験なども大切な経験であると捉えて指導する。</p> <p>○どのようにどんなことをしているかのイメージを考えることにより, 一人一人が作りたいものをより膨らめて考えていくように支援していく。</p>

うわぁ。この流木, この向きで組み合わせるとこんな動物に見えるんだね。

・木材の形や組合せにより自分の表したい形を膨らめてつくる。



2

【発想・構想の能力】

・材料や自分のイメージから発想した不思議な国の動物をどのように表すかを、つくりながら考えている。

【創造的な技能】

・のこぎりや金づちを十分に使い、いろいろな表し方や、木材及び釘の組合せを工夫している。

○「なめらかな感じ」「力強い」など、材料からイメージを膨らませて製作していくことも手掛かりになることを伝え、組み合わせたり、遊ばせたりすることで自由な発想がより広がるようにする。

○思うように組み合わせることができない子どもに対しては、部分的に手本を示したり、子どもの必要感に応じた友達の見本を紹介したりする。

○作品自体の工夫だけでなく、金づちの柄の持ち方、頭から握りまでの距離、釘打ちのリズムの変化など用具の使い方の細かな変化を見取り価値付けていく。

・小グループでお互いに作品を鑑賞し合う。



1

【鑑賞の能力】

・自分や友人の作品を見ながら、木材及び釘の組合せ方や表し方のよさ、楽しさを感じ取っている。

腕が動くように釘を打ったんだね。流木の腕が筋肉みたいだよ。

○不思議な生きものの習性なども考えて作品を紹介し合うワークシートを用意する。

○作品の主題や工夫した技法を伝え合うようにする。

○鑑賞をする際に、「不思議な国の動物」「木の生かし方」「釘を生かした工夫」などの視点を具体的に示す。また、友達の見本を聞くことで、鑑賞の見方を広げる。

○平素の学校生活の中でも、作品を鑑賞することができるよう、教室内や校内の適切な場所に工夫して展示する。

題材名「いい顔してたよ、あの瞬間！」…〈絵〉

小学校第5学年及び第6学年

【題材の目標】

- ・自分の心の動きを木版画で表すことに興味を持ち、自分の思いを持って取り組もうとしている。 【造形への関心・意欲・態度】
- ・自分の心の動きを表すために、取り上げる場面を思い付いたり、効果的な彫り方や配色を考えたりしている。 【発想や構想の能力】
- ・自分の心の動きを表すために彫刻刀を効果的に使い、版の彫り方を工夫している。 【創造的な技能】
- ・自分や友人の作品を楽しく見て話し合いながら、全体から表れる主題のよさや彫りなどを感じ取っている。 【鑑賞の能力】

【題材の価値】

【子どもの実態(例)】

- ・この時期の児童は、考え方や行動などに個性が見られるようになってくる。児童が、他者や社会との関係の中で自分らしさを意識するようになる。造形活動においては、他者を意識するあまり人に見せることに慎重な様子が出てくる一方、友人と活発に交流したり見せ合ったりする様子が見られる。

【主題(例)】

- ・自然教室で自分自身がいい表情をしていた時のことを想起することにより、その子らしい力が入ったポーズ、喜びに満ちたシーン、どきどきした様子などを表現することができるようにしたい。顔の表情や体の姿勢、背景や自分と友達とを組み合わせた配置などの形や様子の工夫や気持ちが表れる彩色の工夫など、一人一人が表そうとしている形や色から主題を読み解き、価値付けていきたい。また、版画の味わいや彫りの工夫などから表出される主題も見取り、価値付けたい。

【材料や用具(例)】

- ・材料や用具については、彫刻刀を扱う。彫刻刀については、第3学年及び第4学年の内容の取扱いと指導上の配慮事項の「小刀」において、「その他に木版や木の表面に模様を入れる時などに使う彫刻刀も考えられる」とある。第5学年及び第6学年においても繰り返し扱うことにより、彫刻刀を使い分けたり、効果的に彫り進めたりすることができるようにしたい。

【発想や構想の能力、創造的な技能、鑑賞の能力などの価値(例)】

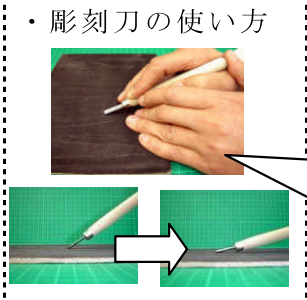
- ・子どもたちの発想を広げるために主題の異なる試作を見せ、発想を広げたり、彫りの工夫をしたりできるようにしたい。自分の表したいシーンを楽しんで下がきしたり、線の太さや彫り方を工夫したりしながら創造的な技能の力を高めたい。また、主題を伝えたり、友だちの主題を聞いて楽しんだりすることによって鑑賞の力を高めたい。

【「指導計画の作成と内容の取扱い」との関連】

第2の各学年の内容の「A表現」の(2)の指導に相当する授業時数については、工作に表すことの内容に相当する授業時数が、絵や立体に表すことの内容に相当する授業時数とおおよそ等しくなるように計画すること。

(小学校学習指導要領解説 図画工作編 P57より)

【板書例】

学 習 課 題 等	
<p>・ 彫刻刀の使い方</p> 	<p>※参考作品（版画の彫りの部分が参考になるもの）を板書する。</p> <p>・ キャンプファイヤーで手をつないで汗だくで踊ったよ。</p> <p>・ 飯ごう炊飯でやっと火がついた時は、みんなで喜んだね。</p> <p>・ 自由時間の時、木登りしてすごく気持ちよかったな。</p>

子どもの生の発言を板書する。

【準備物の例】

- ・ 版画用紙 版画板（滑り止めシート） 彫刻刀 版画作業板
- ・ 版画セット（ローラーなど） ばれん 新聞紙 など

発展的な学習の内容例

【学校行事や総合的な学習の時間の体験活動を生かす】

自然体験教室，修学旅行，総合的な学習の時間での活動など，子どもたちの心が大きく動く楽しい体験を生かして題材にしていくことが大切となる。

自分自身の心の動きを想起させ，表情やポーズなどに表して，絵画ならではの迫力のあるシーンを構想していくようにしたい。

【地域の美術館などの利用や連携】

地域の版画作家の作品や近隣の美術館などの版画作品を利用することも効果的である。彫り方の工夫や刷りの効果についての学習を深めることも考えられる。

【授業の具体例】 11 時間扱い

学習活動	時	評価規準	○支援や留意点等
<ul style="list-style-type: none"> ・ 消しゴムに下がきをする。 ・ 彫刻刀の基本的な技術について学習し、彫る。 	1	<p>【造形への関心 ・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の名前を左右反転させたり、彫る場所を工夫したりして、版づくりを楽しもうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 版画製作の基本を身に付けるために、消しゴムはんこづくりを導入にする。 ○ 彫刻刀の扱い方を指導し、安全面の約束をする。また、版画の特性として、版は左右が反転することを教えるとともに実際の製作を通して感じ取らせる。 ○ 名前を彫る方法と名前以外の場所を彫る方法があることを教え、完成のイメージを考えるようにすることで、個々の構想が広げられるようにする。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然教室で自分がいい顔をしていたなと思う瞬間の表情やポーズを想起する。 ・ 木版画の元となる下がきをする。 ・ 下がきを写す。 ・ 彫刻刀の彫り方の効果を知る。 ・ 彫る面と彫り方を決める。 	4	<p>【造形への関心 ・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の心が大きく動いた場面を思い出しながら、自分の気持ちを表すことに取り組もうとしている。 <p>【発想・構想の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の心の動きを表すために、取り上げる場面を思い付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自然教室の思い出を伝え合わせたり、版画の技法などを見せたりすることを通して、作品への発想が広がるようにする。 ○ 「どんな場面の何をかくか」だけでなく、「どのようにかくか(表情や姿勢、構図など)」というイメージを考えるようにすることで、個々の構想が広げられるようにする。 ○ 彫りの線が下がきの線よりも太くなることから、大きめに下がきすることを伝える。 ○ 彫りの効果を教え、彫る場所を決めることができるように指導する。また、下がきを見たり、対話したりしながら表現したいことを見取り、効果的な彫りについて適宜アドバイスをする。

<p>・木版画の基本的な技術について学習する。</p>  <p>右手で彫刻刀を支え、左手の親指で前に押し彫るなどの基本的な押さえをする。</p> <p>・彫刻刀で彫る。</p>   <p>・インクをローラーで伸ばして刷る。</p>	<p>5.5</p>	<p>【創造的な技能】</p> <p>・彫刻刀を使って、自分の心の動きを表すために、彫り方を工夫している。</p>	<p>○思うように彫れずに困っている子どもに対しては、刀の状態や扱い方を確認し、適宜アドバイスをする。</p> <p>○彫刻刀の選択に迷っている子どもに対しては、その子の思いを聞き取り、いくつかの手本とその効果を伝える。</p> <p>○一人一人の顔の表情やポーズのこだわり、彫りの工夫を見取り価値付けていく。</p> <p>○板に付いた彫りくずは、丁寧に除去することを伝える。</p> <p>○子どもたちを前に集めて、一人一人がよく見えるようにした上で、刷り方について手本を示しながら教える。</p> <p>○作業の流れに沿った環境設定をする。</p> <p>○ばれんの使い方やインクの分量や伸ばし方について、適宜支援する。</p>
<p>・表したかったその時の気持ちとそのため工夫したところを小グループで紹介し合う。</p>	<p>0.5</p>	<p>【鑑賞の能力】</p> <p>・自分や友人の作品を楽しく見ながら話し合うことで、全体から表れる主題のよさや彫りなどの表し方の工夫を感じ取っている。</p>	<p>○「いい顔をしていた一瞬」が、題名から表れるようにアドバイスする。</p> <p>○作品に表したその時の気持ちや彫りの工夫を伝え合う小グループでの話し合いの場を設定する。</p> <p>○友達の主題や工夫を聞くことで、表現意図やその効果についての理解を子どもたちが深めるように支援する。</p> <p>○平素の学校生活における鑑賞が可能となるよう、教室内や校内の適切な展示の工夫に努める。</p>

題材名「針金マジック 廃材アート」…〈針金工作〉
小学校第5学年及び第6学年

【題材の目標】

- ・廃材を利用して針金でつくることに関心を持ち、形をつくることを楽しもうとしている。
【造形への関心・意欲・態度】
- ・廃材の組合せや針金のしぼり方や丸め方などから、表したいことを思い付いたり、形や作り方を考えたりしている。
【発想や構想の能力】
- ・ペンチや金づち等を十分に使い、廃材や針金の組み合わせ方を工夫している。
【創造的な技能】
- ・自分や友人の作品を見て話し合い、互いの表し方の面白さやよさを感じ取っている。
【鑑賞の能力】

【題材の価値】

【子どもの実態(例)】

- ・高学年の児童は、丈夫な材料を扱えるようになる。また、造形活動において、一人一人の傾向や特性がはっきりしてきて、手応えのある材料や用具を使おうとするような特徴がある。そのような活動の過程において、児童は発想や構想、創造的な技能などの能力を身に付けることになる。

【つくりたいもの(例)】

- ・アルミなどの金属類を中心にした廃材と針金を用いることにより、金属の直線的な形やアルミの波打つようにへこんだテクスチャー、針金の曲線的な形や組合せなどからつくりたいものを見つけて表現することができるようにしたい。

【廃材や針金の価値(例)】

- ・金属類は、紙や木材とは、輝き方や接合による形の変化など異なった味わいがあり、児童にとって新鮮な材料である。強固な材料であるが、その一方で、柔らかな針金やアルミホイル・スチールウールなどもあり、接合方法の工夫により十分に感覚を働かせることができる材料である。また、針金は、ペンチなどを用いて適切な長さに切ったり、廃材同士をしばったりすることでいろいろな形をつくることことができる。児童が自分の方法で思いのままに表す過程を楽しめるようにするために、いろいろな表し方を体験させるとともに、用具や材料の扱いに慣れるようにしたい。

【発想や構想の能力、創造的な技能、鑑賞の能力などの価値(例)】


- ・廃材同士を組み合わせ、針金でしばったり固定したりして、いろいろな形づくりを楽しめるようにしたい。また、周りの友人と関わり合いながら、自分の思いをはっきりさせたり、作りつつある形から、児童の発想や構想の能力、創造的な技能などを発揮したりできるよう配慮したい。また、ペンチや針金などの用具の特性を捉え、使い方に慣れるとともに、安全な使い方にも気を付けながら、適切に扱えるようにしたい。

【「指導計画の作成と内容の取扱い」との関連】

第5学年及び第6学年においては、針金、糸のこぎりなどを用いることとし、児童が表現方法に応じてこれらを活用できるようにすること。

(小学校学習指導要領解説 図画工作編 P64～65より)

【板書例】

学 習 課 題 等	
準備  <ul style="list-style-type: none"> ・安全面の配慮 ・ペンチの使い方 ・針金の付け方 	時間のめやす 子どもの生の発言を板書する。 ※ キーワード(どんなふうに)(何をしている)を明記していく。
<ul style="list-style-type: none"> ・ペンチで曲げると上手に曲がるよ。 ・布に穴を開けて、針のように刺してみたよ。 ・2つの針金を組み合わせてくるくる巻くと、きれいだよ。 	
子どもの発見した針金の技法や廃材の生かし方をメインに板書していく。	

【準備物の例】

・針金 廃材 きり ペンチ 金切りばさみ等 金づち 軍手 雑巾 など

発展的な学習の内容例

【外国語活動で作品紹介】

指導内容や活動については、児童の興味・関心に合ったものとし、国語科、音楽科、図画工作科などの他教科で児童が学習したことを活用するなどの工夫により、指導の効果を高めるようにすること。


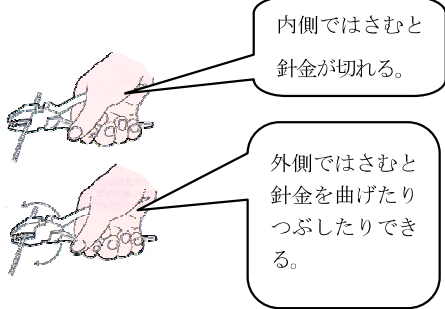
(小学校学習指導要領解説 外国語活動編 P14より)

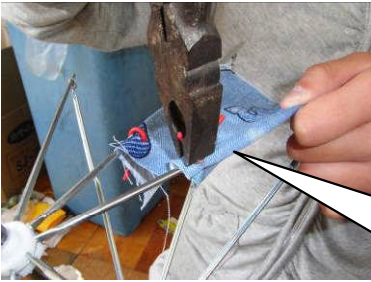
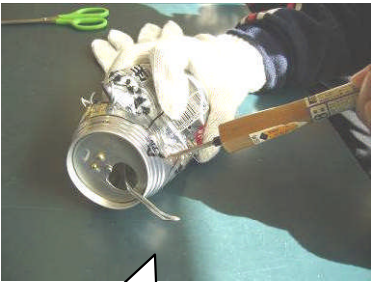
指導計画の位置付けを基にして、作品を外国語活動の時間においてショー・アンド・テル(発表活動)をする。簡単な英語を使って、自分のこだわっているポイントや工夫したところを伝えることを楽しむ。言葉によらないコミュニケーションの手段もコミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、ジェスチャーなども付けてよいものとしたい。作品タイトルの一部に英語を用いたり、針金とペンチでタイトルの頭文字のアルファベットをつくったりして英語で友達に作品を伝えることなども考えられる。

【作家作品の鑑賞とタイアップ】

カルダー(針金を使った表現をするアメリカの彫刻家)の作品の鑑賞の時間をつくり、表現と鑑賞を関わらせた題材の計画をし〔共通事項〕を意識した取組も考えられる。

【授業の具体例】 4時間扱い

学習活動	時	評価規準	○支援や留意点等
<ul style="list-style-type: none"> ペンチや針金の使い方の基礎を学びながら、用具に慣れる。 アイデアスケッチをかく。 廃材の形や針金の組合せ、丸め方や曲げ方により、自分の表したい形を膨らめていく。  <p>トイレットペーパーの芯を使ってコイル巻きにしよう。</p>	1	<p>【造形への関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 廃材や針金の加工や釘打ちに関心を持ち、活動に取り組もうとしている。 <p>【発想・構想の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 廃材の組合せや針金のしぼり方や丸め方などから、表したいことを思い付いたり、形や作り方を考えたりしている。 	<p>○廃材や針金の切断や接合が安全にできるように、手本を示しながら分かりやすく教える。また、板書や掲示により、子どもたちが適宜、扱い方や安全面の約束を確認することができるようにする。</p>  <p>○ペンチや金切りばさみ等の使い方を教える。また、安全面に配慮し、金属の切り口などでけがをしないように指導する。</p> <p>○不要な短い針金を入れるコンテナや、アルミやスチール等に分けて端材を入れるコンテナなどを用意し、安全かつ材料を無駄にしない環境設定に努める。</p> <p>○つくりたいもののイメージが膨らむように、何をつくるということだけではなく、「どのように」や「どんな」というイメージを考えていくようにアドバイスする。</p>

<ul style="list-style-type: none"> 針金と廃材を組み合わせた作品づくりをする。   <p>傘の骨に布を付けよう。針金で固定できるかな？</p> <p>穴を開けるには、きりを使おう。</p>	<p>2</p> <p>【造形への関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 廃材アートづくりに自分の思いを持って取り組もうとしている。 <p>【創造的な技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ペンチや金づち、きり等を十分に使い、いろいろな表し方や廃材や針金の組み合わせ方を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○アルミや針金の接合や切断が思うようにできない子どもに対しては、部分的に手本を示したり、子どもの必要感に応じて友達の取組を紹介したりする。 ○作品自体の工夫だけでなく、用具の握り方、支点から作用点までの距離、針金のしめ具合など使い方の細かな変化を見取り価値付けていく。
<ul style="list-style-type: none"> 題名やこだわりのポイントをタイトル用紙に書く。 小グループでお互いの作品を鑑賞し合う。 こだわりのポイントを紹介し合う。 	<p>1</p> <p>【鑑賞の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分や友人の作品を見て話し合い、表し方の面白さやよさを感じ取っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○楽しく鑑賞し合えるように、作品が効果的に見える台紙や布等を子どもたち自身に用意させたり、選ばせたりして、互いの作品を紹介し合う場を設ける。 ○主題、針金やアルミの使い方や加工の仕方、色や模様工夫、立体感や大きさの工夫などの視点を具体的に示し、子どもたちが鑑賞するように支援する。 ○教室内や校内の適切な場所に展示し、平素の学校生活の中でも、作品を鑑賞できるようにする。

題材名「夢の空間 光トンネル」…〈ビニール造形遊び〉
小学校第5学年及び第6学年

【題材の目標】

- ・ビニールの特性を生かした活動や、活動によって生まれた光の美しさ、場所の特徴を生かした変化に興味を持ち、楽しくつくろうとしている。【造形への関心・意欲・態度】
- ・光の感じの違いや場所の特徴を生かした空間の変化などを基に活動を思い付き、自分のイメージに合う場所の構成を考えている。【発想や構想の能力】
- ・ビニールの特性や、光のあたる場所の特徴を生かした材料の配置や組み合わせ方を工夫している。【創造的な技能】
- ・活動によって生まれた光の美しさ、よさ、面白さを感じ取っている。【鑑賞の能力】

【題材の価値】

【造形遊びの価値(例)】

- ・子どもたちの様々なアイデアの変化を大切にするとともに、活動の過程を評価し、つくりだす喜びを味わえるようにしていきたい。高学年の発達に応じて、子どもたちが自分なりに材料を集めたり場所を探したりする。また、見る人がどのように感じるかなどに思いを巡らせながら構想できるようにしたい。

【子どもの実態と材料の経験(例)】

- ・絵や立体、工作に表す活動においてビニールは既に経験している材料である。しかし、この題材では大きなビニールや色のあるビニールを使用する。こうした材料の質の変化を取り入れることで新たな発想の広がりが見込まれる。そして、今までの経験を生かし、いくつかの表し方を組み合わせることなどを考慮しこの題材を設定した。

【子どもの実態と場所の経験(例)】

- ・場所においては、屋外や光の差し込む広い空間を設定した。ダイナミックな空間にすることにより、必要感のあるグループで活動ができるように設定をしたい。広い空間の中で一人一人が思い付いたことを出し合い、発想を刺激し合いながら活動が進められるように配慮をしたい。

【材料の価値(例)】

- ・ビニールには様々な色、形、大きさのものがある。また、ビニール製のロープなどと組み合わせて風になびかせて光の変化や影の変化を様々な構築することができる。ビニールの透過性を生かした光の変化と空間の変化の可能性を体験して知ることにより、つくりだす喜びを強く感じていけることが本題材の魅力であると考えられる。

【発想や構想の能力、創造的な技能、鑑賞の能力などの価値(例)】

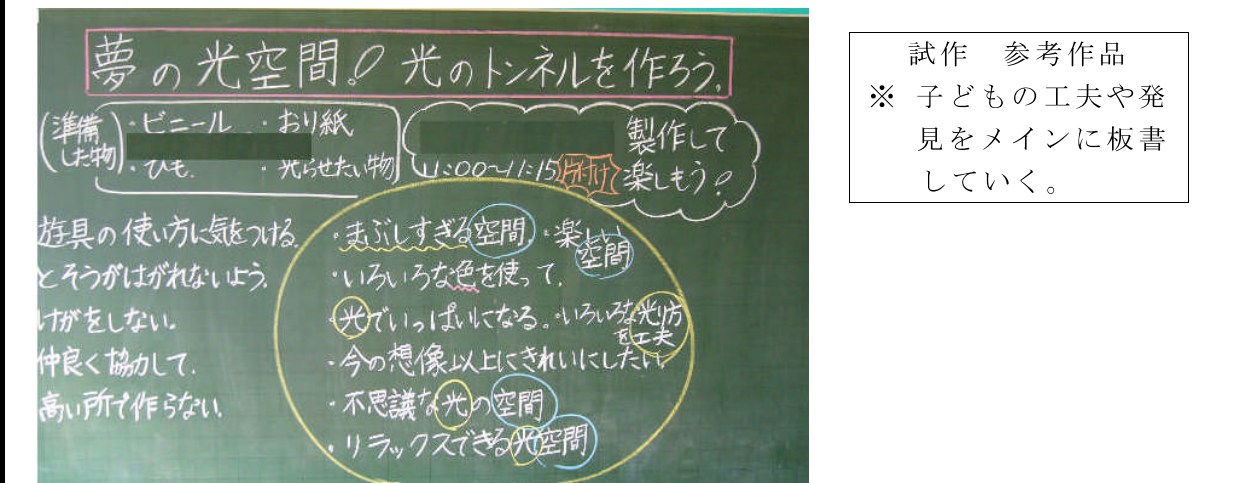
- ・ビニールの性質、光のあたり方、人の動き、場所の様子などに働き掛けて捉えた特徴や子どもの持ったイメージを基に、発想したり構想したりする能力を高めたい。

【「指導計画の作成と内容の取扱い」との関連】

第2の各学年の内容の「A表現」の指導については、適宜共同してつくりだす活動を取り上げるようにすること。

(小学校学習指導要領解説 図画工作編 P57より)

【板書例】



夢の光空間の光のトンネルを作ろう。

準備(した物) ・ビニール ・おり紙
・ひも ・光らせたい物

製作して楽しむ!

11:00~1:15

道具の使い方に気をつける
とろろがはがれないよう
けがをしない
仲良く協力して
高い所で作らない

・まぶしすぎる空間
・いろいろな色を使って
・光でいっぱいになる。いろいろな工夫
・今の想像以上にきれいにしたい
・不思議な光の空間
・リラックスできる光空間

試作 参考作品
※ 子どもの工夫や発見
見をメインに板書
していく。

【準備物の例】

- ・ビニール ビニールテープ ひも 光を反射する物 色紙 セロファン 段ボール
- ・ビニール袋(資源回収のために使用) など

「静岡県ならではの」を生かした内容

【商店街の利用】

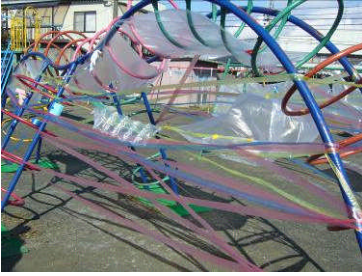

静岡県内には商店街や大規模店が点在している。また、梱包(こんぼう)のためのビニール袋などをつくる工場や、農業に使用するマルチやビニールハウス用のビニールを扱う企業がある。そこでは、ビニールの傘袋や、梱包用(こんぼうよう)のビニールが大量に廃棄されている現状がある。

子どもたち自身が材料を集めることも大切な学習となるが、家庭や地域の協力の下、豊富な材料を手に入れることができることもある。ただし、善意での資材提供であることに十分配慮して、協力を仰ぐことが大切である。また、提供のみの一方通行の関係にならないよう、取組の様子を手紙等で紹介したり、作品を見に来ていただいたりするなど双方向の関係が築けるようにしたい。

利用した資源のリサイクルにも心掛け、材料が無駄にならないようにすることが大切である。子どもたちが材料探しに出掛けたり、工場内に立ち入ったりすることは危険を伴うため、安全面にも十分配慮することが大切である。

【授業の具体例】 5時間扱い

学習活動	時	評価規準	○支援や留意点等
<ul style="list-style-type: none"> 安全や場所の約束を確認する。 ビニールを通した太陽光の効果を考えながら変えたい空間を見付け、必要感のあるグループで活動をする。 ビニールの組み合わせ方や、ビニールを付ける場所をいろいろ試す。 	1	<p>【造形への関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ビニールの特性を生かした活動や、活動によって生まれた光の美しさ、場所の特徴を生かした変化に興味を持ち、楽しくつくろうとしている。 <p>遊具を使ってみよう。ビニールを通ると、光の色が変わったよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○屋外の活動に適した時期にする。また、あらかじめ光の効果や安全面から場所をよく確認した上で、範囲を示す。目の届かないところや高所など危険な場所で製作しないように指導する。 ○ビニール袋は、子どもたち自身が集めたものに加えて、様々な種類のものを用意し、個々に応じて選べるように準備しておく。 ○表現に迷いのある子どもには、他の子どものやり方や見付けた場所を紹介したり、共につくったりするなどして適宜指導する。 ○接着や接合によって、外壁などの塗装を痛めないように指導する。
<ul style="list-style-type: none"> 自分のめあてに向かってつくる。 ビニール同士や他の材料との組み合わせ方を試し、場所全体に工夫を広げる。 	2	<p>【発想や構想の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 光の感じの違いや場所の特徴を生かした空間の変化などを基に活動を思い付き、自分のイメージに合う場所の構成を考えている。 <p>梱包（こんぼう）ビニールを使うと、光がゆらゆら変化してきれいだな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な光の変化をつかめるようにする。また、互いの工夫を紹介しあって、より効果的な手順や技法をつかめる場を適宜設ける。 ○活動が進んでいる子どもには、他のグループの活動を鑑賞させることにより発想を広げる。 ○夢中になるあまり、刃物の使い方や置き方が乱雑にならないように安全について指導する。

		<p>ビニールのロープも組み合わせ合わせて素敵な空間ができたよ。</p>	<p>○活動の様子を、写真やビデオ等に適宜収めておき、作品の変化の様子も事後に鑑賞できるようにしておく。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・活動場所全体に意識を広げて空間づくりを楽しむ。 ・互いの活動のよさを取り入れながら、光の感じの違いを試し、光の空間をつくっていく。 	<p>1</p>	<p>【創造的な技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分らしい光の変化をつくるために、ビニールの特性を生かして組み合わせたり、場所の特徴を生かしたりして工夫している。 <p>【造形への関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料を生かすことによって生まれる光の感じの変化に興味や関心を持ち、場所の特徴を生かして活動しようとする。 	<p>○図工ノートを使って学びの足跡を残し、振り返ることができるようにする。また、キーワードを示し、効果的な振り返りにつながるようにする。</p> <p>○それぞれの活動場所を回り、活動過程における個々の子どもの意欲、工夫、技法の向上などを、丹念に見取り、タイミングよく声掛けをする。</p> <p>○取組に迷いのある子どもに対しては、その理由を聞き、友達との関わりをつくったり授業者がアドバイスしたりするなど、適した解決方法を模索する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・互いの光の空間を鑑賞し、話し合う。 ・下級生を招待し、光の空間を案内する。(時間外) 	<p>1</p>	<p>【鑑賞の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動によって生まれた光の美しさ、よさ、面白さを感じ取っている。 	<p>○光の空間の中で友達の案内を聞くことにより、子どもたちが互いの工夫を感じ取れる場を設ける。</p> <p>○下級生にも、光を生かした空間を味わわせ鑑賞の輪を広げる。(時間外)</p> <p>○製作過程や完成したものを写真などに撮り、子どもたちが納得して片付けられるようにする。</p>

題材名「私のっておきの場所」…〈絵や彫刻など〉

中学校第1学年

A表現 学年	(1)と(3)		(2)と(3)	
	感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動		伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動	
	描く活動	つくる活動	描く活動	つくる活動
第1学年	○	○	○	○

【題材の目標】

- ・身近な景色のよさや美しさ、特徴などに気付き、それを絵に表す活動に関心を持ち、材料や用具の特性を生かして意欲的に表現しようとしている。
【美術への関心・意欲・態度】
- ・校舎内や校庭で自分の好きな景色を見付け、その場所と自分との関わりから主題を設定し、思いや意図に合わせて、構図やアングル、色彩などを工夫した自分らしい構想を練っている。
【発想や構想の能力】
- ・自分の表現意図に応じて、鉛筆によるスケッチや水彩絵の具の基礎的技能を生かし、創造的に表現している。
【創造的な技能】
- ・身近な景色のよさや美しさや、作者の意図と表現の工夫を感じ取り、対象の見方や感じ方を広げながら味わっている。
【鑑賞の能力】

【題材の価値】

【主題について（例）】

- ・自然や生活の中にある身近なものや事象などから、対象の特徴や印象、美しさなどを感じ取ったり考えたりしたことなどを基に、発想や構想をすることを大切にしたい。ここでの主題は、対象を様々な角度から見つめながらそのよさや美しさ、特徴などを見付け、そこからイメージを引き出していくことにより、作り出されていくものである。よって、一人一人の生徒が自分で気付き、感じ取って主題を生み出し、発想や構想をするようにしたい。

【生徒の実態と構想との関連について（例）】

- ・第1学年の場合、描きながら構想を深めたり、描いていく中で構想が変わったりすることもよくある。このような場合、形や色彩などを基に対象のイメージを捉え直していく過程を大切にしていきたい。

【創造的な技能について（例）】

- ・色の醸し出す雰囲気や効果などを感じ取らせることにより、明暗による表現、混色や重色、ぼかしやにじみなどを体験させ、創造的な表現へつなげたい。

【鑑賞の能力について（例）】

- ・作品や対象を静かに落ち着いてじっくりと見つめ、自分の感覚で素直に味わうとともに教師が示した課題や助言などを基に形や色彩、材料などの造形要素に視点を置いて感じ取ったり考えたりするなどの学習が必要である。

【「指導計画の作成と内容の取扱い」との関連】

スケッチの活用

スケッチは、それ自体が表現の喜びを味わうものであるとともに、作品の発想や構想の場面から、完成、発表や交流までのあらゆる場面で必要な学習である。単に描く力だけでなく、見る力や感じ取る力、考える力などを育成するものであり、その重要性を認識し、表現の能力を育成するために効果的に取り入れる必要がある。

(中学校学習指導要領解説 美術編 P77より)

【板書例】

学習課題等		試作 参考作品
準備	時間のめやす	
<ul style="list-style-type: none"> ・主題について (生徒の発言を書く。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・構成の工夫について (主題をどのように表現するか) 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現技法について (混色や重色等)

【準備物の例】

- ・水彩絵の具 筆洗バケツ 筆 雑巾 新聞紙
- ・デスケル 参考作品 デジタルカメラ など


発展的な内容

【版による表現】

自然や身近なものを基にして、版の効果や美しさを生かした表現が考えられる。版による表現は、紙や布に直接描かずに版をつくり、それを写し取ることや刷り取る中で思いがけない要素が加わること、また、簡単に何枚も作品を制作することができるのが特長である。

版による表現の例としては、一版単色木版画、一版多色木版画、ドライポイント、コラグラフなど様々な技法がある。小学校での造形体験との関連を図り3年間を見通した中で、年間指導計画の中に位置付けることが大切である。

【授業の具体例】 10 時間扱い

学習活動	時	評価規準	○支援や留意点等
<p>・学校内の「私のとっておきの場所」を探す。</p>  <p>・選んだ場所を何枚かデジカメで撮影する。</p> <p>・お互いの写真を見合い、感じたことを話し合う。</p> <p>・私の「とっておき」の場所を切り取る。</p> <p>・生徒一人一人が、自己の感じたことや考えたことを基に主題を生み出す。</p>	2	<p>【美術への関心・意欲・態度】</p> <p>・身近な景色のよさや美しさ，特徴などに気付き，それを絵に表す活動に関心を持ち，材料や用具の特性を生かして意欲的に表現しようとしている。</p> <p>【鑑賞の能力】</p> <p>・構図やアングルなどの視点から，よさや美しさを感じ取っている。</p> <p>【発想や構想の能力】</p> <p>・強く表したいことを心の中に描き，感じ取ったことや考えたことを基に内発的に主題を生み出している。</p>	<p>○デスケルを使い様々な場所を覗きながら，気に入った場所を見付けられるように指導する。</p> <p>○ワークシートに「とっておきの場所ベスト3」を記入し，デジカメで撮影させる。</p> <p>○遠近法の一点透視や二点透視などについて押さえておく。</p> <p>○なかなか見付けられない生徒には，「遠近感のある場所」や「授業や部活動での思い出の場所」などを基に考えるようアドバイスする。</p> <p>○構図やアングルなどに着目させることで，ポイントを絞った話合いにしていく。</p> <p>○生徒自らが自分の表したい主題を生み出せるように支援する。</p> <p>○なかなか主題が決まらない生徒には，生徒たちの撮った写真をいくつか紹介し，対話しながら，思いに合った場所を選べるように支援する。</p>
<p>・「とっておき」の思いが表れるように構想を練る。</p> <p>・主題をより効果的に表現していくために，形や色の組み合わせ方などを全体と部分の関係で考え，構想を練る。</p>	2	<p>【発想や構想の能力】</p> <p>・主題を基に，全体と部分との関係などを考えて創造的な構成を工夫し，心豊かに構想を練っている。</p>	<p>○主題を基に構想していく中で，新たなイメージが膨らみ，最初の主題とは違った主題に変わってもよいことをアドバイスする。</p> <p>○試行錯誤の中で，主題と，それを基にした構想が深まっていくことを大切にしよう声を掛ける。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・完成までの目標と見通しを持ち制作計画を立てる。 ・「とっておき」の思いが表れるよう、下絵を描く。 ・「とっておき」の思いが表れるよう彩色する。 	<p>3</p> <p>2.5</p>	<p>【創造的な技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の表したいことを具現化できるように表現の効果を考えながら見通しを持って表現している。 <p>【創造的な技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆のスケッチ、水彩絵の具の基礎的スキルを身に付け、意図に応じて材料や用具の生かし方などを考え、創意工夫して表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○材料や用具、表現方法を効果的に活用するために、その特性などから、生徒が制作の順序や見通しを考慮することができるよう支援する。 ○表現に時間が掛かり過ぎないように時間の見通しをあらかじめ伝える。 ○発想や構想したことを、具体的に表現していくにあたって、自分の表現意図に合う表現方法を工夫して幅広く表現活動が行えるよう留意する。 ○多様な表現方法を保証し、一人一人の生徒が表したいことを具体的な形にしていく中で、生徒自らの必要感から工夫が行われるように支援する。
<ul style="list-style-type: none"> ・主題や工夫した点、よさを話し合う。 ・気付いたことや考えたことなどを互いに説明し合う。 	<p>0.5</p>	<p>【鑑賞の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作者の心情や意図と表現の工夫を感じ取り、作品に対する思いや考えを説明し合うなどして、対象の見方や感じ方を広げ、味わっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小グループで生徒同士が話しやすい場を設定し、互いのよさを認め、学び合えるようにする。 ○作品の説明は、主題と表現の工夫を別のものとして捉えず、主題との関わりで「なぜ、その場所を選んだのか」「なぜ、そのような描き方をしたのか」など、表現技法の選択や構図の工夫を説明できるように支援する。 ○色彩、色調、タッチなど具体的な視点を示し、それについてどう感じるかを言葉にするよう助言する。

題材名「〇〇な野菜や果物（塑像）」 … 〈絵や彫刻など〉
中学校第1学年

A 表現 学年	(1) と (3)		(2) と (3)	
	感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動		伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動	
	描く活動	つくる活動	描く活動	つくる活動
第1学年	○	○	○	○

【題材の目標】

- ・身近な野菜や果物の形の美しさや面白さに興味を持ち、それを粘土で立体として表現することの楽しさを感じ、粘土の基礎的な技法を用いて表現しようとしている。
【美術への関心・意欲・態度】
- ・野菜や果物をいろいろな角度から捉え、感じ取ったことを基に主題を生み出し、強調、省略、変形などの表現方法を取り入れながら構想を練っている。
【発想や構想の能力】
- ・粘土制作の基礎的な技法を用いて、主題に合った凹凸や質感などを工夫し、制作の順序を考えながら見通しを持って表現している。
【創造的な技能】
- ・立体作品の造形的要素に着目しながら、作者の感じ方や表現の工夫を感じ取り、作品に対する思いや考えを話し合うなどして、対象の見方や感じ方を広げている。
【鑑賞の能力】

【題材の価値】

【小学校図画工作科との関連（例）】

- ・材料を見たり触ったりしているときに感じたことや浮かんだイメージを基に構成を工夫し、「A表現」(3)の技能を働かせて具体的な形に表現していく活動などが考えられる。そのような活動の中で表したいことが明確になり、主題が生み出され表現が深まることもある。中学校では、主題を生み出し、それを基に構想することが多いが、特に第1学年においては、小学校図画工作科の学習からの連続性を考えて、生徒の実態や指導のねらいに応じて、この題材のような活動を位置付けることも考えられる。

【立体としての形の表し方（例）】

- ・第1学年では、生徒がいろいろな角度から形態を捉え、立体としての量感・質感などに気付き、素材の特性を生かして表現することを大切にしたい。その上で、様々な角度から見た形を意識したり、自分なりのイメージから動きを感じたりする感覚を育てたい。

【材料（例）】

- ・立体の表現では、材料選びが大切である。例えば、粘土によるモデリング制作は、生徒が適度に抵抗感を持ちながら思いを表現できる材料である。何度も作り直すことが可能で、特に形のもたらず働きや表現の効果に焦点をあて、それらを確かめながら納得がいくまで取り組めるといった利点がある。

【創造的な技能（例）】

- ・立体作品の制作では、材料や用具を効果的に使いこなすために、その特性などから制作

の順序や見通しを考えることが大切である。制作の順序を考えることは、一つ一つの制作の過程において次への手だてを意識しながら制作を進めることであり、自分の表したい主題を美しく効果的に表現する上で重要である。

【「指導計画の作成と内容の取扱い」との関連】

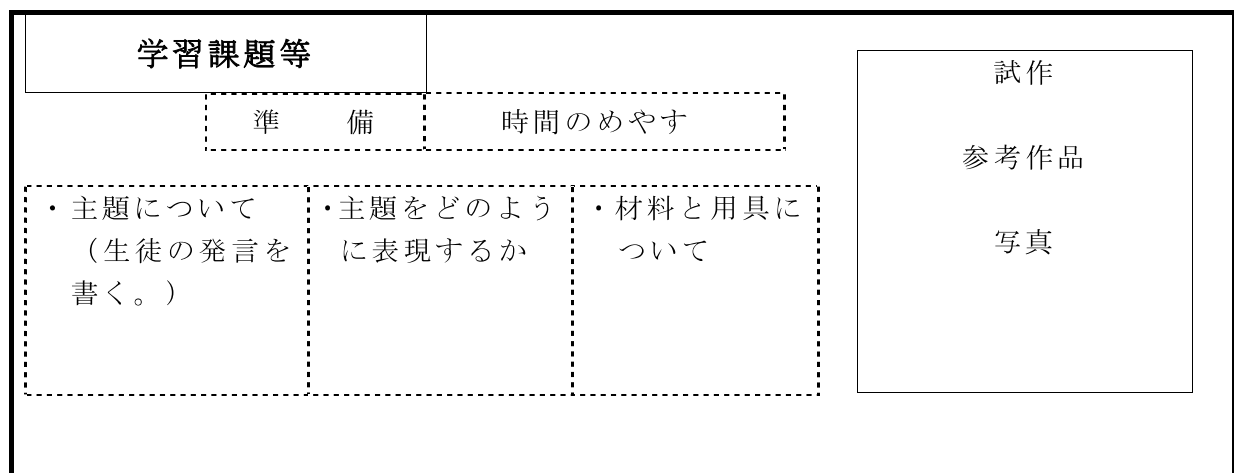
描く活動とつくる活動のいずれも経験させる

各内容の指導においては、描く活動とつくる活動のいずれも経験させるようにし、描く活動とつくる活動の学習に著しい偏りが生じないように配慮するとともに、様々な美術表現に親しめるように全体として調和のとれた指導計画を作成することが大切である。
(中学校学習指導要領解説 美術編 P74より)

地域の材料や題材などを取り上げる

美術科は自然のものから人工の材料までを自由に取り込み、表現することのできる教科である。材料の取り上げ方については、小学校での材料体験を基にし、それを活用したり、組合せを工夫したりするなどして、中学校では発展的に取り上げるようにする。
(中学校学習指導要領解説 美術編 P80より)

【板書例】



【準備物の例】


- ・野菜や果物 スケッチブック
- ・石粉粘土(加工粘土) 粘土ペラ 粘土版 保存用ビニール など

発展的な学習の内容例

【テラコッタ】

テラコッタとは、陶芸用粘土やテラコッタ用粘土でつくった作品を、焼成させたものである。紙粘土とはひと味違った作品となる。内部に新聞紙などを芯として使い、焼成するとよい。なお、市販粘土にはテラコッタ風粘土というものもあり、焼成しなくても素焼きのような風合いを醸し出すものもある。

【授業の具体例】 6時間扱い

学習内容	時	評価規準	○支援や留意点等
<ul style="list-style-type: none"> ・目を閉じて野菜や果物を触ったり，においを感じたりする。 ・感じたイメージを言葉にする。 ・自己の感じたことや考えたことにより，「○○な感じ」を加えた野菜や果物のイメージを基にして，主題を生み出す。 	1	<p>【美術への関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜や果物の形や触った感じに興味を持ち，主題を主体的に生み出そうとしている。 <p>【発想や構想の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜や果物から感じ取ったことを基に主題を生み出している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒自身に野菜または果物を準備させる。 ○触った感じやにおいを思い出しながら，イメージを言葉に置き換えさせる。 ○「ふっくらしたジャガイモ」，「ゴツゴツしたピーマン」，「つんとしたにおいのタマネギ」など，形やにおいのイメージを言葉で表すようにさせる。 ○主題を決められない生徒には，野菜に触れる中で感じたことや浮かんだイメージを言葉にするようアドバイスする。その際，いくつかの形や質感に関わる形容詞を提示する。 ○野菜や果物の凹凸が個々の感じ方として捉えられるよう支援する。
<ul style="list-style-type: none"> ・「○○な感じ」が分かるような表現の工夫を考える。 ・より効果的に表現していくため，強調や省略，変形などの工夫を使って構想する。 ・目標と制作計画を立てる。 ・粘土制作の基礎技法を学ぶ。 ・「○○な感じ」がより表れるように，制作する。 	4.5	<p>【発想や構想の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主題を基に，強調や省略，変形などの表現方法を考え構想を練っている。 <p>【創造的な技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・粘土制作の基礎的技法を用いて，主題に合った凹凸や質感などを工夫し，制作の順序を考えながら見通しをもって表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○構想していく中で，新たなイメージが膨らみ，最初とは違った主題に変わってもよいこととする。 ○試行錯誤の中で，主題と，それを基にした構想が深まっていくことを大切にしている。 ○完成までの活動を計画し，見通しをもって制作の順序をつかめるようにする。 ○「付ける」「とる」「ひねり出す」といった技法を学び，粘土の性質についても押さえる。

		<p>【鑑賞の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 作者の表現の工夫を感じ取り、対象の見方や感じ方を広げている。 	<ul style="list-style-type: none"> 制作の途中に互いの作品を見合う時間を設定し、アドバイスし合ったり、友達の表現を互いに取り入れたりしながら、表現の幅を広げられるようにしたい。その際、リアルさだけに気を取られず、主題を踏まえることを押さえる。 思うような凹凸が表現できないなどの生徒に対しては、その原因を聞き、立体的なものの見方や水分調節の仕方、道具の使い方など、具体的に手本を示しながら解決方法を模索させていく。
<ul style="list-style-type: none"> 作品に対する思いや考え、題名等を記入する紙に書く。 小グループで「〇〇な感じ」を表すための工夫や作品に対する思いを出し合い、鑑賞し合う。 	<p>0.5</p>	<p>【鑑賞の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 立体の造形要素に着目し、作者の心情や意図、表現の工夫を感じ取っている。 作品に対する思いや考えを持って味わっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 互いの作品のよさや美しさを捉えることができるよう、作品に対する思いや考えを書かせた上で小グループの話合いの場を設ける。 作品を構成している造形要素から生じる感情や、特徴から捉えたイメージなどを基にして、他の生徒の意見を聞くように指導する。 鑑賞の仕方に戸惑いを感じている生徒へは、他の生徒が主題との関わりの中でどのように粘土を生かしたかについて見ていくようにアドバイスする。

題材名「本のイメージを形に！（ブックカバーのデザイン）」

…〈デザインや工芸など〉

中学校第1学年

A 表現	(1) と (3)		(2) と (3)	
	感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動		伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動	
学年	描く活動	つくる活動	描く活動	つくる活動
第1学年	○	○	○	○

【題材の目標】

- ・日常生活を楽しくする身の回りのデザインに興味を持ち、自分の好きな本のイメージを色や形の構成を利用して構想を練ったり、材料や用具を生かしたりしようとしている。
【美術への関心・意欲・態度】
- ・グラデーションやシンメトリーなどの色や形の構成を利用し、美的感覚を働かせ、好きな本のイメージを、ブックカバーとして構成したり装飾を考えたりしながら構想を練っている。
【発想や構想の能力】
- ・デザイン化の方法を理解し、単純化や省略、強調をして、新しい形をつくり出している。また、平塗り等のポスターカラーに関する基礎的技能を身に付けながら表現している。
【創造的な技能】
- ・「イメージをデザインする」という視点で作品を鑑賞する中で、色や形の組合せに着目して、自分の考えや思いをもって味わっている。
【鑑賞の能力】

【題材の価値】

【デザインに表現する活動の指導にあたって（例）】

- ・第1学年では、主に生徒たちの身の回りの生活に目を向け、自分を含めた身近な相手を対象として飾る、伝える、使うなどの目的や機能と美しさを考えて発想や構想をすることをねらいとしている。指導にあたっては、個人としての感じ方や好みにとどまらず、学級や学校の中で他の生徒も共通に感じる感覚を意識させることが大切である。

【デザインに表現する活動における付けたい力（例）】

- ・第1学年では、色や形の構成に際して、グラデーションやシンメトリーなどといった色彩や図柄の構成について学び、それらを利用して意図的に美しい構成を考えるという態度や構成力を養いたい。
- ・私たちはデザインされたものに囲まれて生活している。人はそれらのものから機能的な恩恵だけでなく、その形や色彩からも大きな影響を受けている。また、これらのものは、つくった人が見る人や使う人の立場に立って、美しさ、楽しさ、使いやすさなどを考えてデザインしたものである。ここでは、身近な生活や社会をより美しく心豊かなものにしていくために目的や機能と美しさを考え、生活を彩るものを発想や構想する能力を身に付けることが重要である。

【「構成や装飾」をするための発想や構想について（例）】

- ・自然や生活環境に見られる構成や装飾の美について捉えさせることは、「構成や装飾」

に関する発想をより豊かなものにしていく上で大切である。また、日本の伝統的なデザインには、動植物の形や色彩、自然現象などを豊かに捉えて発想されたものがあり、機知やユーモアに富んだ遊び心が大切にされ、日常生活を楽しくしようとする美意識がある。また、余白を生かした構図、単純化された独特の表現形式、自然の色を基にした固有の色遣いなど、形や色彩の構成にも特色がある。美的感覚を働かせて、構想を練る際に重要なことは、美しいものへのあこがれや創意工夫の意欲を持たせることである。試行錯誤することやよりよいものを追求し、構想の練り上げや計画性を大切にして、誠実に取り組む態度を育成することが重要である。

【「指導計画の作成と内容の取扱い」との関連】

映像メディアの活用 【コンピュータ】

コンピュータの特長は、何度もやり直しができたり、取り込みや貼り付け、形の自由な変形、配置換え、色彩換えなど、構想の場面での様々な試しができることにある。そのよさに気付かせるようにするとともに、それを生かした楽しく独創的な表現をさせることが大切である。

(中学校学習指導要領解説 美術編 P 78～79 より)

【板書例】

学習課題等		試作 参考作品	
準	備	時間のめやす	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 太陽や水のスケッチ (形や色彩の特徴等…生徒の発言) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 左のスケッチを単純化や省略、強調した例 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グラデーションを構成した例 	

【準備物の例】

- ・ 好きな本 色鉛筆 ポスターカラー 筆洗バケツ
- ・ ケント紙 和紙 配色カード 混色辞典 参考作品 など

「静岡県ならではの」を生かした内容

【地域の材料を取り上げる】

静岡県を代表する特産品である「お茶」をテーマにしたり、また、県内各地の特産品(例 由比…桜えび、浜松…うなぎ)をテーマにしたりして、それらを入れる箱や筒、包装紙などをデザインする活動が考えられる。さらに、県内各地の伝統的な工芸、民芸等をテーマとすることで、美術が生活に根ざし、伝統や文化の創造の礎となっていることを理解させることも大切である。

【授業の具体例】 8 時間扱い

学習内容	時	評価規準	○支援や留意点等
<ul style="list-style-type: none"> ・ブックカバーのデザインを鑑賞する。 ・大好きな本のイメージを色と形で構成する。 ・本の内容を書き出す。 ・どんな感じのカバーにしたいかを考える。 ・アイデアスケッチをする。 	1	<p>【美術への関心 ・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活を楽しむ身の回りのデザインに興味を持ち、主体的に構成を工夫して構想を練ろうとしている。 <p>【発想や構想の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イメージを単純化したり，省略，強調したりしながら，色や形の構成を利用して自分なりのアイデアを練っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○デザイン化された本の表紙を参考作品として鑑賞する場を設ける。 ○生徒自身が用意した本の中から一つ選んでブックカバーをつくるように指示する。 ○選んだ本の内容を大まかに書き出し，それを手掛かりに色や形，全体像を考えるよう指導する。 ○「明るい感じ」「さみしい感じ」「かっこいい感じ」など，単純な言葉で完成のイメージを書くよう指導する。 ○発想に戸惑っている生徒には，本に登場するものやイメージを模様や図形で表し，アイデアとして幾つか描き出してみるよう助言する。 ○グラデーション，シンメトリー，リズム，リピテーション，アクセントなどの技法について適切に使えるよう指導する。
<ul style="list-style-type: none"> ・本のイメージが分かるようなイメージスケッチをする。 ・単純化や省略，強調などしたものを組み合わせ，画面を構成する。 	2	<p>【発想や構想の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイデアを取捨選択しながら，構想をまとめ，イメージスケッチを描いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本の大まかな内容やイメージ，登場するものを，単純化や省略，強調などを行うとともに，色や形の組合せを利用して美しく構成するよう投げ掛ける。 ○単純化や省略，強調などに戸惑っている生徒へは，本の内容からくるイメージを一緒に考え，少しずつ置き換えていく。

<ul style="list-style-type: none"> ・下絵を描く。 		<p>【創造的な技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザイン化の方法を理解し，単純化や省略，強調をして，自分なりの形をつくり，表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「配色カード」や「混色辞典」を用いて色の組合せの効果を考えられるよう支援する。 ○活動が止まっている生徒に対しては，なぜ活動が止まっているかを見取り，適宜相談にのる。必要に応じて，他の生徒の工夫を見付けさせたり，学習課題を意識するように声を掛けたりする。
<ul style="list-style-type: none"> ・本のイメージが伝わるよう彩色する。 ・彩色の見通しを持つ。 ・平塗りで美しく塗る。 	3.5	<p>【創造的な技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・彩色の見通しを持ち，平塗り等のポスターカラーに関する基礎的技術を用いて彩色している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○彩色の見通しを持てるよう指導する。 ○ポスターカラーの基本的な扱い方について指導する。平塗りについては，特に水分量に気を付け，ムラをつくらないように指導する。 ○色塗りで戸惑っている生徒には，筆の使い方，色の混ぜ方の手本を示すなどの支援をする。
<ul style="list-style-type: none"> ・「イメージを表す工夫」を，ワークシートに記入する。 ・小グループで本のイメージを表す工夫や，互いのよさについて話し合う。 	0.5	<p>【鑑賞の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本のイメージをどんな工夫によって表現したか，色や形の組合せを基に表現の工夫を味わっている。 ・作者の意図と，色や形の組合せに着目して，そのよさを見付け，自分なりの価値意識を持って味わっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「イメージを表す工夫」など紹介のためのポイントを絞り，小グループで紹介し合うようにする。 ○グラデーション，シンメトリー，リズム，リピテーション，アクセントなどの技法や色の組合せ，単純化や省略，強調などが作者の意図とつながるかを考えさせる。 ○図書室に展示コーナーを設けるなどして，作品鑑賞を楽しめるようにする。

A 表現	(1) と (3)		(2) と (3)	
	感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動		伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動	
学年	描く活動	つくる活動	描く活動	つくる活動
第1学年	○	○	○	○

【題材の目標】

- ・自然物をモチーフとした和菓子の形や色彩の美しさに興味を持ち、主体的に和菓子のデザインに取り組もうとしている。
【美術への関心・意欲・態度】
- ・自然物の美しさを発見し、単純化や省略、強調をして、和菓子の美しい形や色彩を考えるとともに、デザインする和菓子や搔敷（かいしき）について美的感覚を働かせて構成や装飾を考え、表現の構想を練っている。
【発想や構想の能力】
- ・デザイン化の方法を理解し、単純化や省略、強調をして、美しい形をつくり出している。また、粘土の基礎的技能を身に付け、それを基に様々な材料や用具を工夫しながら表現している。
【創造的な技能】
- ・「季節感がある」という視点から気付いたことや考えたことなどを互いに言葉で説明し合うことを通して、形や色彩、材料などの性質や、それらがもたらす感情について理解し、よさや美しさを味わっている。
【鑑賞の能力】

【題材の価値】

【他者に対する心遣い（例）】

- ・第1学年では、他者に対する心遣いを大切にしながら造形的な工夫をし、創意工夫しながら発想や構想することが大切である。それには、表現の動機となる生徒の思いを大切に、多様な視点から発想や構想する方法を経験し、学習するように配慮したい。
- ・この題材では、和菓子を食べる相手の気持ちを考えて形や色彩、材料で表現する。他者にとって楽しんでもらう、心地よさを感じてもらおうなど、生活を心豊かにする視点を大切にする。発想や構想の場面では、こうしたことを大切にして生徒が追求することで、美術の学習を通して他者理解や他者に対する心遣いといった豊かな心を培いたい。

【材料について（例）】

- ・材料が用途や機能に適しているかということ、材料の性質や特徴を様々な角度から理解し、検討する必要がある。また、身近な自然の材料や地域で入手しやすい材料なども活用し、日本の自然や四季の豊かさ、それらの恵みを材料として活用してきた先人の知恵などにも気付かせ、材料への理解や愛着を深めることも発想や構想の質を高めるために必要である。

【創造的な技能について（例）】

- ・第1学年では、形や色彩、材料などの特性を理解し、造形感覚を働かせて用具を適切に扱い、制作の見通しを持ちながら創意工夫して表現するための基礎となる技能を育成することをねらいとしている。

- ・小学校図画工作科での材料や用具などの学習を基に，中学校美術科としてそれらについての理解を深め，技術や技法として身に付け活用できるようにしたい。

【「指導計画の作成と内容の取扱い」との関連】

第2の各学年の内容の「A表現」については，(1)及び(2)と，(3)は原則として関連付けて行い，(1)及び(2)それぞれにおいて描く活動とつくる活動のいずれも経験させるようにすること。
(中学校学習指導要領解説 美術編 P73より)

【板書例】

学習課題等	
準備	時間のめやす
・自然物のスケッチ	・左のスケッチを単純化や省略，強調した例 ・左の単純化や省略，強調したものを形にした例
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 試作 参考作品 </div>	

【準備物の例】

- ・絵の具 筆洗バケツ 筆 新聞紙 雑巾 はさみ スケッチブック
- ・参考作品 自然物の写真 紙粘土 粘土ペラ
- ・和紙 千代紙 包装紙 など

「静岡県ならではの」を生かした内容

【美術館で楽しめる木のおもちゃ】 … ビュフェこども美術館

長泉町にあるビュフェこども美術館には，「木の組み立てオブジェ」「木のボールプール」「木のパネル遊び」「木のドミノ」「触の引き出し」等，子どもたちが楽しく遊ぶことができるよう工夫されたおもちゃがある。それらは，様々な形や色，材質の木からつくられていて，触っていて心地よいものでもある。

これらの玩具を使ったり，鑑賞したりした上で，個々の生徒が「木のおもちゃ」をデザインするといった活動が考えられる。使い手である子どもの立場に立ち，使いやすさや面白さ，興味を引くデザインなどを考える活動を通して，木の温かみに触れながら，多様な発想や構想力を養うことも考えられる。

【授業の具体例】 6時間扱い

学習内容	時	評価規準	○支援や留意点等
<ul style="list-style-type: none"> ・和菓子を鑑賞する。  <ul style="list-style-type: none"> ・和菓子のモチーフとなる自然物を選ぶ。 	1	<ul style="list-style-type: none"> 【美術への関心・意欲・態度】 ・自然物をモチーフとした和菓子の形や色彩の美しさを味わおうとしている。 【発想や構想の能力】 ・「季節感」をどのように和菓子で表現するかを考え、自分の主題の構想を練っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○花や植物等の形につくられた実際の和菓子を数種類用意し、その美しさを鑑賞したり、味を楽しんだりする場を設ける。 ○自然物や資料を参考にしてモチーフを選択させる。 ○モチーフがなかなか決定しない生徒には、実際に存在する和菓子の写真、サンプルなどを見ることが出来る場を設定し、支援する。
<ul style="list-style-type: none"> ・単純化や省略，強調をするとともに，「季節感」を表現するために形や色彩を考えはじめる。 ・いくつかのパターンでアイデアスケッチを描く。 ・自然物（植物や動物）の特徴をつかみ，単純化する。 ・イメージスケッチを完成する。 	2	<ul style="list-style-type: none"> 【発想や構想の能力】 ・「季節感」を効果的に表現するために，単純化や省略，強調などを工夫した美しい形を考え，構想を練っている。 【発想や構想の能力】 ・「季節感」が効果的に出るような色彩の構想を練っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「季節感」を表現するために，各季節（各月）でどのような花や植物，果物などが見られるかがわかるように写真で例示する。 ○和菓子の写真を見せながら，自然物の特徴を基にした単純化の具体的な例を示していく。 ○単純化や省略，強調をすることに戸惑っている生徒へは，自然物の特徴を一緒に探し，まず言葉に表してみたら，表したいことを見付けるように支援する。 ○作業する手が止まっている生徒には，その理由を聞いた上で，適宜他の生徒の工夫を見付けさせたり，実物や写真を見せたりして発想の手掛かりを提示し，教師と一緒に考えていけるようにする。

<ul style="list-style-type: none"> ・和菓子職人の制作の様子を映像で見る。 ・制作の仕方を知る。 ・粘土に絵の具を混ぜる。 ・材料や用具を工夫して形をつくる。 ・和菓子に、より「季節感」が出て、おいしく見えるような搔敷(かいいしき)をつくる。 	2.5	<p>【創造的な技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・粘土の基礎技能を身に付け、それを基に様々な材料や用具を工夫して扱いながら、自分なりの技法で表現している。 <p>【発想や構想の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和菓子をより美しく見せたり、「季節感」を表したりするために、美的感覚を働かせて、和紙や千代紙等での装飾を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○和菓子職人の制作の様子を映像で見せ、制作の見通しを持てるよう指導する。 ○粘土に絵の具を混ぜながら、微妙な色彩の変化（グラデーションなど）にも挑戦させていく。 ○様々な材料や用具（つまようじ、ふきん、はさみなど）を用意して、生徒の柔軟な発想を引き出し、多様な表現につながるように支援する。 ○和紙等を切ったり重ねたりしながら、和菓子を美しく引き立てる方法を考えさせる。生徒たちに搔敷(かいいしき)の役割を理解させた上で、デザインの工夫を考えさせる。 ○和紙等は教師側で用意し、自由に選べるようにしておく。また、自分からも材料を探すよう呼び掛ける。
<ul style="list-style-type: none"> ・「季節感」を表す工夫について小グループで話し合い、よさを見付ける。 ・「季節感」を感じるよさや美しさを見付ける。 ・制作を振り返る。 	0.5	<p>【鑑賞の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形や色彩がもたらす感情を理解し、「季節感」という視点で、工夫したことを説明している。 ・友達の作品の形や色彩などから「季節感」を表現した工夫を感じ取り、自分なりの根拠を持って味わっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○美しく飾り付けした作品を並べ、互いの作品のよさを見付け合えるように指導する。 ○話合いの視点を明確にし、形や色彩、「季節感」についての個々の考えを出し合えるようにする。 ○鑑賞の仕方に戸惑いを感じている生徒へは、友達の意見を聞くようにしたり、授業者が「季節感」に関わる言葉を提示したりしながら支援する。

**題材名「夢や目標に向かって（自画像）」…〈絵や彫刻など〉
中学校第2学年及び第3学年**

A 表現 学年	(1) と (3)		(2) と (3)	
	感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動		伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動	
	描く活動	つくる活動	描く活動	つくる活動
第2学年	○	●	●	○
第3学年	●	○	○	●

【題材の目標】

- ・夢や目標など、自己の心の世界を自画像に表現することの面白さを感じ、主体的に主題を生み出そうとしている。 【美術への関心・意欲・態度】
- ・夢や目標などを基に主題を生み出し、構図、形、色彩などの創造的な構成を工夫し、表現の構想を練っている。 【発想や構想の能力】
- ・自分の表したいことを具現化できるように表現の効果を考えながら、材料や用具の特性を生かして、創意工夫し表現している。 【創造的な技能】
- ・自画像に込められた作者の心情や意図、創造的な表現の工夫を感じ取り、造形的な言葉を用いながら、自分の価値意識を持って味わっている。 【鑑賞の能力】

【題材の価値】

【生徒の実態（例）】

- ・思春期の生徒は、美へのあこがれ、社会や科学、神秘性などに興味を持ち、自己の現在及び未来への願いや、生活や社会を改善していくための方策など積極的、建設的な夢を描けるようになる。また、理想と現実とのほざまに悩み自己嫌悪に陥ったり、不信感を持った時期でもある。
- ・第2学年及び第3学年では、感情や内面に心が向けられるようになるとともに、眼前に広がる世界だけでなく、知的に構築された世界にも考えが深められるようになる。

【自画像制作の価値（例）】

- ・自画像の制作においては、鏡を見て表面的に形や色彩を捉えるだけでなく、自分自身の気持ちや心の中を見つめることで、より深く自己を理解し、自分の感情やものの考え方、価値観に改めて気付くことができる。
- ・制作の過程で、複数の視点から自己を深く見つめることで、新たな自己を知り、今まで気付かなかったよさに気づき、自分を好きになるきっかけとしたい。改めて正面から自己と向き合う活動は、この時期の生徒たちにとって大きな価値を持っている。

【発想や構想の能力、創造的な技能（例）】

- ・構想の中には、主題を基に考えをまとめる構成的な側面からの構想と、材料や技法などの表現方法からの構想がある。主題を実現するためには、構成面からの構想だけでなく、表現方法からの構想も重要である。表現方法から構想を練る際には、どのような材料を用い、どのような方法で表現するのか、また、構想している内容が技術的に実現可能な

のかなど、これまでの造形体験などを基に十分考えておく必要がある。

- ・第2学年及び第3学年では、第1学年で学んだ形や色彩、材料などの特性の理解と、用具などの扱い方を工夫して表現するための技能を育成していきたい。

【「指導計画の作成と内容の取扱い」との関連】

主題を生み出すことから表現の確認及び完成に至る全過程を通して、生徒が夢と目標をもち、自分のよさを発見し喜びをもって自己実現を果たしていく態度の形成を図るようにすること。
(中学校学習指導要領解説 美術編 P80より)

【板書例】

学習課題等		試作 参考作品
準備	時間のめやす	
・主題について (生徒の発言を書く。)	・構成の工夫について (主題をどのように表現するか。)	・表現技法について (混色や重色等)

【準備物の例】

- ・アクリル絵の具 筆 筆洗バケツ 雑巾 新聞紙
- ・鏡 参考作品 キャンバスボード など

「静岡県ならではの」を生かした内容

【県内美術館との連携】 MOA美術館所蔵 レンブラントの自画像の鑑賞

静岡県内には、多くの美術館が点在している。それらの美術館には、多くの画家たちが制作した自画像が展示されている。

例えば、MOA美術館には、レンブラントの自画像が展示されている。この作品は、レンブラントが、若き青年時代に画家になりたいといった夢を持ち、自分自身を深く見つめ、明暗による表現で描かれたものである。題材の導入や効果的な場面等で、この作品に込められた思いや、表現意図などを感じ取り、さらに自分の言葉で仲間と説明し合うことによって、見方や感じ方を広げる鑑賞の学習が考えられる。

【授業の具体例】 10 時間扱い

学習内容	時	評価規準	○支援や留意点等
<ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの自画像を鑑賞する。 ・ウェブマップで自分について考える。 ・どんな夢や希望を持っているのか「夢や目標に向かう自分」を考える。 	1	<p>【美術への関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢や目標など心の世界を基にした自画像のイメージづくりに取り組み、主体的に構想を練ろうとしている。 <p>【発想や構想の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・強く表したいことを心の中に描き、自己の感じ取ったことや考えたことを基に内発的に主題を生み出している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○夢や希望へ向かう自分をテーマとした自画像をいくつか（日本，西洋）鑑賞し，感想を話し合わせる。 ○ウェブマップを用い，興味や夢，目標などを書き出し，生徒が自分自身について考える中で，主題へとつなげていくようにする。 ○ウェブマップは，生徒同士で見せ合い，感想を聞くことで，自分を客観視できるようにする。その際，肯定的に認め合えるよう支援する。 ○主題は，現実的な夢や目標に向かって自画像をイメージさせる。 ○なかなか主題を生み出せずにいる生徒へは，ウェブマップの中の興味などを読み返す中で主題が生まれるように支援していく。
<ul style="list-style-type: none"> ・複数のアイデアスケッチをする。 ・アイデアを絞り，イメージスケッチをする。 ・「夢や目標に向かう自分」を効果的に表現するために，構図やアングル，ポーズ，背景，色などを工夫する。 	2	<p>【発想や構想の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主題を基に，構図やアングル，表情，ポーズ，背景，色彩，材料などの組合せ方を考え，表現の構想を練っている。 <p>【創造的な技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表したいことを具現化できるよう表現の効果を考えながらアイデアスケッチをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○主題を基に形や色彩，材料などの組合せ方などを全体と部分の関係で考え，表現の構想をさせる。 ○構想を練る活動が止まっているように見える生徒には，止まっている理由を聞く。必要に応じて，その生徒にとって参考となる友達の取組を紹介したり，例を挙げたりして思考の手助けとなるようにする。 ○主題を基に構想していく中で，新たなイメージが膨らみ，主題が変わっていてもよいことを適宜伝える。 ○試行錯誤の中で，主題や構想が深まっていくことを大切にできるようアドバイスする。

<ul style="list-style-type: none"> ・「夢や目標に向かう自分」が，表れるように，下絵を描き，彩色する。 	6	<p>【創造的な技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の表したいことを具現化できるように，表現の効果を考えながら材料や用具の特性を生かし，創意工夫して表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の実態に合った表現方法や材料を選定する。その際高度な表現効果を求めすぎたり，表現に時間が掛かり過ぎたりしないように配慮する。 ○生徒が自分の表現意図に合う独創的な表現方法を工夫できるように，幅広く表現活動が行えるよう留意する。 ○多様な表現方法を保証し，一人一人の生徒が表したいことを具体的な形にしていく中で，生徒自らの必要感から工夫が行われるように支援する。 ○生徒の様子を丹念に見取り，個々のつまづきを把握し，個に応じたアドバイスをしていく。 ○生徒一人一人の思いや願いに応じて構図や色彩，タッチなどを紹介する。必要であれば，実際にやってみせるなど，具体的に支援する。
<ul style="list-style-type: none"> ・完成した作品について，主題や工夫したところを小グループで紹介する。 ・気付いたことや考えたことなどを話し合う。 	1	<p>【鑑賞の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作者の心情や意図，創造的な表現の工夫を感じ取り，造形的な言葉を使いながら，説明したり批評し合ったりし，自分の価値意識を持って味わっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを美術ノートに書く時間を設けた上で，生徒同士が互いに説明する場を設定する。 ○互いの主題や表現の違いに視点をあて，よさや工夫を認め合える雰囲気づくりに努める。 ○鑑賞の仕方に戸惑いを感じている生徒には，色彩，色調，タッチなどの具体的な点を挙げ，言葉にするよう助言する。

題材名「音楽のカタチ（立体）」 …〈絵や彫刻など〉
中学校第2学年及び第3学年

A表現 学年	(1)と(3)		(2)と(3)	
	感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動		伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動	
	描く活動	つくる活動	描く活動	つくる活動
第2学年	○	●	●	○
第3学年	●	○	○	●

【題材の目標】

- ・ 「音楽」という形のないもののイメージを、抽象彫刻に表すことに興味を持ち、主体的に主題を生みだそうとしている。 【美術への関心・意欲・態度】
- ・ 形のないものに対するイメージを基に主題を生み出し、それを基に想像力を働かせ、単純化や省略、強調などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練っている。 【発想や構想の能力】
- ・ 材料や用具の特性を生かし、彫刻刀ややすりなどを正しく扱い、自分の表現意図に合う方法を工夫して表現している。また、あらゆる方向から見たバランスや量感、動きを考えながら、立体としての美しさを表現している。 【創造的な技能】
- ・ 材料や用具の特性を生かした作品のよさを感じ取り、作品に対する自分の価値意識を持って味わっている。 【鑑賞の能力】

【題材の価値】

【発想や構想の能力（例）】

- ・ 第2学年及び第3学年においては、これまで身に付けた様々な材料や用具、表現方法などの基礎的な技法を身に付けた上で、主体的に応用し、多様な表現方法が生み出せるよう題材を展開したい。
- ・ 多様な表現方法を保証するためには、テーマに工夫が必要となる。例えば、「音楽」などをテーマとして、メロディーの流れやリズムやテンポの強弱などから、「イメージ」や「心地よさ」など、人それぞれ感じ方が異なるものを形にすることで、抽象的な表現を学ぶ機会となる。

【材料と用具（例）】

- ・ 「材料」には、硬さ、柔らかさ、切断しやすさなどの特性とともに温かさ、優しさなどの感情的な要素がある。また、「用具」には、切る、削る、彫るなどの機能面としての特性がある。これらを自分の表現に主体的に生かすためには、材料や用具に関する知識を豊かに持つておく必要があり、第1学年からの計画的な題材の設定をしていきたい。

【安全面の配慮（例）】

- ・ 立体作品の制作では、自然物から人工物まで、様々な材料を使用するが、特に、ウレタン等の人工物を原料とした材料を加工する場合には、防塵用（ぼうじんよう）のマスクなどの着用や、事前にアレルギーがないか調査するなどの材料の安全性にも十分な配慮が必要である。

【「指導計画の作成と内容の取扱い」との関連】

第2学年及び第3学年の指導計画について

第2学年及び第3学年では、より質の高い学習を目指すため、一題材に時間をかけて指導する必要がある。そのため、各学年において内容を選択して行うことが可能であり、2学年間ですべての事項を指導することとしている。

(中学校学習指導要領解説 美術編 P74より)

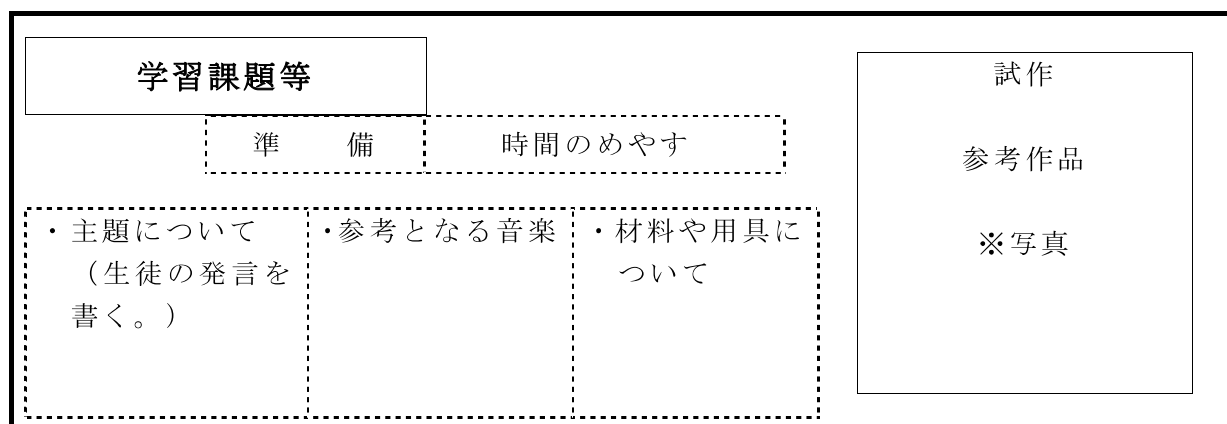
安全指導

事故防止のためには、用具や機械類は日常よく点検整備をし、刃物類をはじめとした材料・用具の正しい使い方や手入れや片付けの仕方などの安全指導を、授業の中で適切な機会をとらえて行う必要がある。

刃物類の扱いや保管・管理には十分留意し、事故を招かないように安全指導を徹底するとともに、貸し出しする道具については劣化の点検や番号を記入するなどして、その管理に努める。また、電動の糸のこぎりやドリルなど電動機械の使用時には教師が付き、慎重な取扱いが必要である。

(中学校学習指導要領解説 美術編 P83より)

【板書例】



【準備物の例】

- ・彫刻刀 新聞紙 防塵用 (ぼうじんよう) マスク
- ・油粘土 ウレタン カッターナイフ やすり など


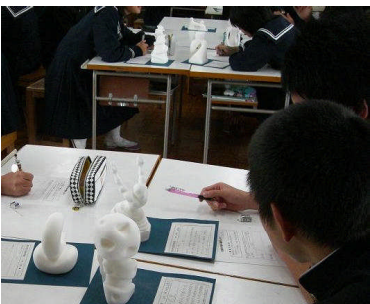
発展的な学習の内容例

【パブリックアート】

イサム・ノグチが設計した公園の写真等を鑑賞した後、身近な環境(町並み公園等)と調和する造形作品を考える。完成後は、デジタルカメラを活用し、身近な環境と造形作品の写真を合成する。

【授業の具体例】 9時間扱い

学習内容	時	評価規準	○支援や留意点等
<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を聴いて、それを言葉や形にする。 ・音楽から感じたことを自分の形で表す。 ・互いの作品や参考作品を見る。 ・自分の感じたことや考えたことを基に主題を決める。 	2	<p>【美術への関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「音楽」という形のないもののイメージを抽象彫刻に表すことに興味を持ち、主体的に主題を生み出そうとしている。 <p>【発想や構想の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形のないものに対するイメージを基に主題を生み出している。 	<p>○いくつかの音楽（歌詞のないもの）を聴き、その印象を言葉や模様で表し、粘土でつくるようにさせる。</p> <p>○なかなか形の発想ができずに困っている生徒には、粘土を「握る」「伸ばす」「ひねる」などしてできる形を生かしていくなどのアドバイスを適宜行う。</p> <p>○主題を生み出すことに戸惑いを感じている生徒へは、音楽を聞いた時に浮かんだイメージを大切にするとともに、「激しさ」「なめらかさ」などの言葉を挙げてイメージをはっきりさせることで、主題を決めていくように支援する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・粘土でアイデアモデルをつくる。 	1	<p>【発想や構想の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主題を基に想像力を働かせ、単純化や省略、強調などを考え構成を工夫し、構想を練っている。 	<p>○試行錯誤の中で、主題や構想が深まっていくことを大切にし、生徒の表したいことの変化について見取り、適宜アドバイスをする。</p> <p>○形の発想ができずに困っている生徒には、生徒の発想の手掛かりとなるよう、複数の音楽の中から選んで聴くことができる場を設定しておく。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ウレタンに下絵を描く。 ・ウレタンの粗彫りをする。 ・細部を彫る。 	5	<p>【創造的な技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料の特性を生かし、彫刻刀ややすりなどを正しく扱い、自分の表現意図に合う新たな方法を工夫して表現している。 	<p>○正面、背面、側面の形を考えながら、ウレタンの表面に鉛筆で下絵を描かせるようにする。また、適宜型紙などを用いて粗彫りの参考にさせる。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・効果を考えて表面を仕上げる。 		<p>【創造的な技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる方向から見たバランスや量感，動きを考えながら，立体としての美しさを表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○大まかな形を粗彫りできない生徒には，こつを教えたり，見本のための線を入れたりするなど，具体的に支援する。 ○粘土のモデルを見ながら大まかな形を出し，その後，細部を彫るように指導する。 ○彫刻刀ややすりなどの基礎的な使い方や技法を押さえ，安全に使用させるよう配慮する。 ○いろいろな角度から作品を見て，曲線や直線の形が，自分の主題に合っているか考えながら追求していくようアドバイスをする。 ○表面の仕上げは作品の印象を決めるものであるため，なめらかに整えるばかりではなく，意図的に彫り跡を残すなどの工夫も主題を効果的に表現するために必要であることを紹介する。
<ul style="list-style-type: none"> ・美術ノートに，表したイメージや工夫したところを書く。 ・小グループで，「音楽」を感じる部分やよさについて話し合い，見方や感じ方を広げる。 	1	<p>【鑑賞の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作者の思いや作品のよさを感じ取り，批評し合うなどして，自分の価値意識を持って味わっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○互いの作品の造形的なよさや美しさについて，根拠を明らかにして捉えることを意識させる。 ○生徒の必要感に応じて，表現した音楽を聴くことができるようにする。

**題材名「一瞬で伝えよう（ピクトグラム）」…〈デザインや工芸など〉
中学校第2学年及び第3学年**

A 表現 学年	(1) と (3)		(2) と (3)	
	感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動		伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動	
	描く活動	つくる活動	描く活動	つくる活動
第2学年	○	●	●	○
第3学年	●	○	○	●

【題材の目標】

- ・伝えたい内容を簡潔に伝えるピクトグラムの役割やデザインに関心を持ち、分かりやすく美しい色彩や図柄の構想を練ろうとしている。 **【美術への関心・意欲・態度】**
- ・伝えたい内容を多くの人々に伝えるために、形や色彩などの効果を生かし、分かりやすさや美しさなどを考え、表現の構想を練っている。 **【発想や構想の能力】**
- ・自分の表現意図に合う形や色彩を工夫するなどして創造的に表現し、制作の順序などを総合的に考えながら見通しを持って表現している。 **【創造的な技能】**
- ・生徒同士で発表し、批評し合い、自分の気付かなかった作品のよさを発見するなどして生徒が感じ取った作品のよさや美しさなどの価値を、広く深く味わっている。 **【鑑賞の能力】**

【題材の価値】

【地域や社会の中の人に対する伝達について（例）】

- ・自分が伝えたい内容を明確にし、形や色彩などの効果を生かして、身近な相手だけではなく、地域や社会の中の多くの人々に対して分かりやすく美しく伝えるための表現をしたい。そのために、第1学年で学んだことを基に、社会的視野の広がりに合わせて、社会一般の不特定の人々などを対象として伝えるよう発想や構想を膨らませることが求められる。

【機能と美の調和について（例）】

- ・情報や気持ちなどを分かりやすく美しく的確に伝えるという機能と美の調和を考え、表現の構想を練ることが大切である。分かりやすく美しく伝えるには、多様な表現の特性を理解し、受け手の印象などを考えながら、何のために、どのような内容をどこで、どのような方法で誰に伝えるかという目的や条件を基に、十分に構想することが大切である。

【表現方法の工夫について（例）】

- ・第1学年で学習した材料や用具、表現方法の経験などを生かしてそれらを関連付けたり、総合的に扱ったりする。
- ・日本及び諸外国のピクトグラムやマークなどにおける表現方法を参考にし、自分の表現意図に合う独創的な表現方法を工夫して幅広く表現活動が行えるようにする。

【「指導計画の作成と内容の取扱い」との関連】

スケッチの活用

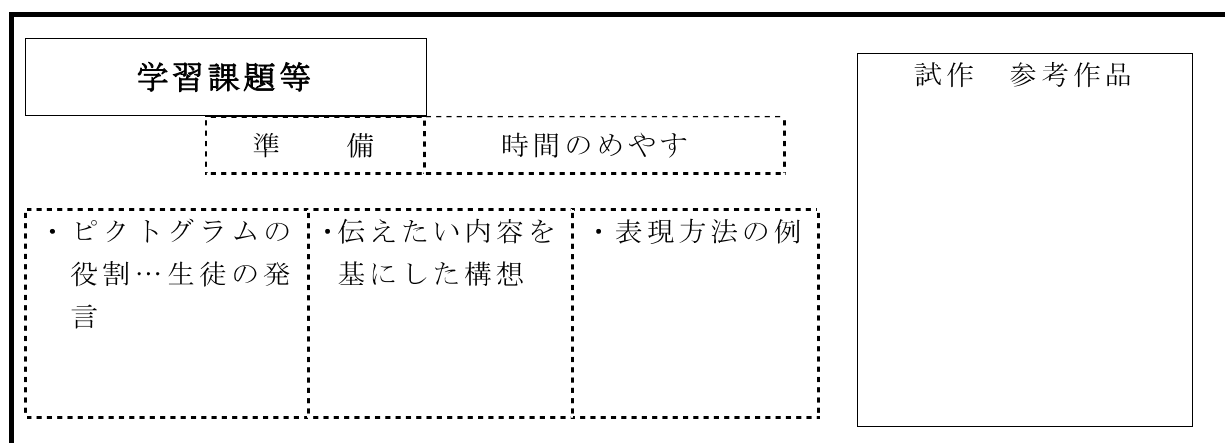
スケッチは、大きく次の3点でとらえることができる。

- ① 自然や人物、ものなどをじかに見つめて、諸感覚を働かせ、様々な視点から対象をとらえて描くスケッチ
- ② 見たことや思い付いたアイデアなどを描きとめ、イメージを具現化するための発想や構想を練るスケッチ
- ③ 伝える相手の立場に立って、伝えたい情報を分かりやすく絵や図に描くプレゼンテーションとしてのスケッチ

※③では、必要な情報を選択し、単純化や強調しながら必要な伝達の意図が明確に伝わるように構成することを大切にする。

(中学校学習指導要領解説 美術編 P77～78より)

【板書例】



【準備物の例】

- ・スケッチブック 色鉛筆 ポスターカラー 筆洗バケツ 雑巾
- ・ピクトグラムの写真 ケント紙 配色カード など

発展的な学習の内容例

【コンピュータによる作品制作】

ポスターや絵文字、マークなどの題材では、コンピュータの活用が有効である。特に、発想や構想段階でレイアウトや色の効果を考える際に多くの試行錯誤ができるのが利点である。文字や図柄などの大きさや場所、色の濃さや組み合わせなどを手軽に短時間で入れ換えることが可能であり、色や形の構成力を養うことができる。コンピュータの活用は、表現の幅を広げ、様々な可能性を引き出すためにも重要であり、特性を生かして積極的な活用を図りたい。

【授業の具体例】 6時間扱い

学習内容	時	評価規準	○支援や留意点等
<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活で目にするピクトグラムを鑑賞する。 ・生活の中で、どんなピクトグラムがあったらいいか、小グループで考える。 ・一瞬で伝わるピクトグラムを考え、テーマを決定する。 ・アイデアスケッチをする。 ・効果的に情報が伝わるようなデザインを考える。 ・下絵を描く。 	3	<p>【美術への関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝えたい内容を多くの人に簡潔に伝えるピクトグラムの役割やデザインに関心を持ち、主体的に構想を練ろうとしている。 <p>【発想や構想の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会におけるピクトグラムの役割を理解し、学校内にどんなものがあるかについて考え、構想を練っている。 <p>【発想や構想の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝えたい内容を多くの人々に伝えるために、形や色彩などの効果を生かし、分かりやすさや美しさなどを考えて構想を練っている。 ・伝えたい情報を分かりやすく表現するために、単純化や省略、強調を使って構想を練っている。 	<p>○ピクトグラムの役割やデザイン性について、興味・関心を抱くように、非常口を示すピクトグラムの日本のものと諸外国のものを紹介する。</p> <p>○交通標識や優先席のマークなども併せて鑑賞する場を設ける。</p> <p>○伝える相手の立場に立ち、伝えたい情報を分かりやすくデザインに表現すること、また、必要な情報を選択し、単純化や省略、強調しながら明確に伝えられるように構成することを押さえる。</p> <p>○生活の中でどんなピクトグラムがあるかについて、小グループで考える場を設ける。</p> <p>○ブレインストーミングの手法を用い、友達の意見を否定せず、より多くのアイデアを出すよう指導する。</p> <p>○生徒の必要に応じて、場所やシチュエーションが書かれた発想のヒントとなるカードを与え、考えの手助けとなるようにする。</p> <p>○アイデアスケッチをワークシートに描き、友達と意見交換しながらデザインを決定していくように支援する。</p> <p>○伝わりやすくするために、単純化や省略、強調、色彩の効果を教える。</p> <p>○補色の関係など、色の性質について確認し、配色カードを用いて色彩を決めるようにする。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・彩色の順序を考え、見通しを持って、画面の彩色をする。 	2	<p>【創造的な技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現している。 ・制作の順序などを総合的に考えながら見通しを持って表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○彩色の見通しを生徒自らが持てるよう留意する。 ○平塗り，溝引き，マスキング等の技法について確認し，より美しく彩色できるようにする。 ○色の強さを考え，塗る順序を適宜指導する。 ○彩色が思うようにいかない生徒に対しては，授業者が絵の具の扱い方や塗り方の手本を示していく。
<ul style="list-style-type: none"> ・「伝わりやすさ」について根拠を挙げて批評し合う。 	1	<p>【鑑賞の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感じ取った作品のよさや美しさ，伝わりやすさなどの価値を発表し合い，自分の気付かなかった作品のよさに気付き，味わっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「伝わりやすさ」や「印象」という観点で，「なぜそう感じるのか」の根拠を挙げながら話し合うように指導する。 ○洗練されたデザイン性についても考えるようにさせる。 ○鑑賞の仕方に戸惑いを感じている生徒へは，友達の見解を聞くことで，作品のどの部分に着目しているのかを参考にしよう支援する。

**題材名「心安らぐランプシェード」…〈デザインや工芸など〉
中学校第2学年及び第3学年**

A 表現 学年	(1) と (3)		(2) と (3)	
	感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動		伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動	
	描く活動	つくる活動	描く活動	つくる活動
第2学年	○	●	●	○
第3学年	●	○	○	●

【題材の目標】

- ・生活の中のデザインや工芸などの表現方法に興味を持ち、主体的に光の効果を生かしたランプシェードの構想を練ろうとしている。 【美術への関心・意欲・態度】
- ・生活を豊かに演出するためのランプシェードをつくるために、美的感覚を働かせて形や材質、光などの組合せを工夫しながら構成や装飾を考え、表現の構想を練っている。 【発想や構想の能力】
- ・材料や用具の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現している。 【創造的な技能】
- ・身近な環境の中に見られる造形的な美しさを感じ取り、生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解し、自分の価値意識を持って批評し合うことにより、美意識を高め、幅広く味わっている。 【鑑賞の能力】

【題材の価値】

【構成や装飾（例）】

- ・構成や装飾をするための造形要素は「形や材質、光など」である。これらを用いて自分の表現意図を十分に表すためには、それぞれの特性の理解を広げる必要がある。
- ・構成や装飾の発想や構想は、ただ思い付くままに考えるだけではなく、洗練された美しさを追求し、簡潔にすることも考え構想を深めるようにする。また、ランプシェードを置く場所や季節など、それを使用する周囲の状況を十分に考慮させる。形や材料などが持っている特質もそのよさを十分に生かす構成を工夫させてこそ効果は発揮される。

【身近な環境について（例）】

- ・実態に応じて身近な環境に目を向け、心安らぐ生活空間を構成や装飾する視点に立って課題を発見し、心豊かな環境を考えて発想や構想をする。

【材料や用具について（例）】

- ・第2学年及び第3学年では、第1学年で学習した材料や用具、表現方法の経験などを生かしてそれらを関連付けたり総合的に扱ったりしたい。

【「指導計画の作成と内容の取扱い」との関連】

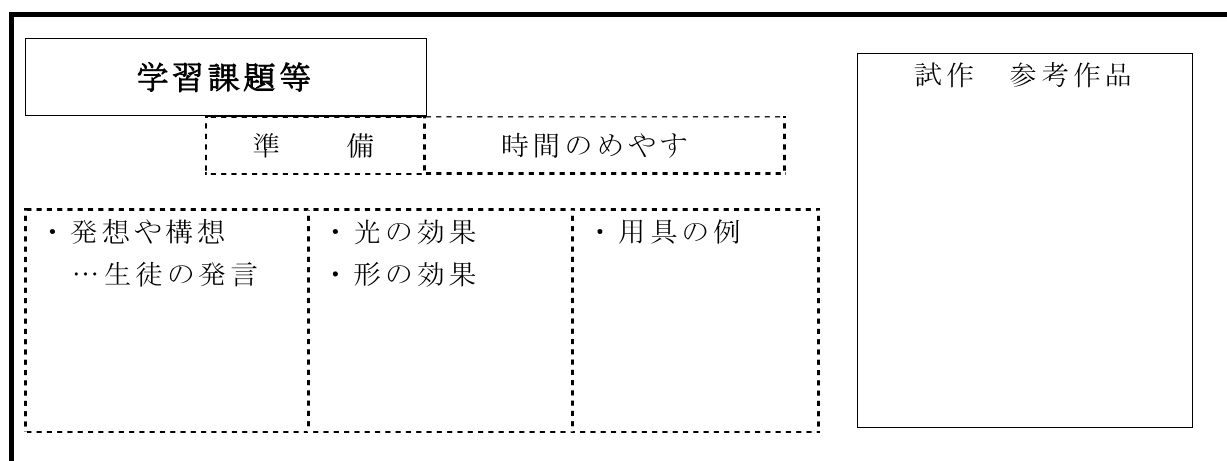
話し合うこと

制作の過程や完成段階などで、学級全体やグループなど形態を工夫して、一人一人が自分の思いや工夫したことなどを発表したり、他者のよさを認め合ったりして、互いが学んだことを共有化する学習の機会を設けることが大切である。

作品を通じて他者と考えを交流させ互いに学び合うことを経験させる中で、互いの表現のよさや個性などを認め合い尊重し合う態度を育てるようにする。このことは、一人一人が自分の考えをもち、それを発表し、他者と議論・交流をしていく能力・態度を育てる上でも大切な意義をもっている。また、これは自己肯定感と制作への意欲を高めることにつながる。

(中学校学習指導要領解説 美術編 P82より)

【板書例】



【準備物の例】

- ・ のり はさみ スケッチブック
- ・ LED電球 粘土 和紙（鳥の子紙など） ラップ など


「静岡県ならでは」を生かした内容

【ウォーターキャンドル】 … 柿田川公園（清水町）

ウォーターキャンドルとは、手づくりのオブジェに、柿田川の湧水とフローティングキャンドルを浮かべたものである。例年、12月の中旬に柿田川公園にて開催される。清水町内の小・中学生等が主体となって参加している。

この他、県内各地で開催される「祭り」に使われる提灯を、和紙を使ってデザインするといった内容も考えられ、この題材は多様な活用が可能である。

【授業の具体例】 7時間扱い

学習内容	時	評価規準	○支援や留意点等
<ul style="list-style-type: none"> ・和紙を生かしたランプシェードを考える。  <ul style="list-style-type: none"> ・使う場所や時間，状況を具体的に考える。 ・使う場所や形を考え，アイデアスケッチする。 ・アイデアを絞り込み，構想を固め，イメージスケッチを描く。 	2	<p>【美術への関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活の中のデザインや工芸などの表現方法に興味を持ち，主体的に構想を練ろうとしている。 <p>【発想や構想の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活を豊かに演出するためのランプシェードをつくるために，状況や目的に合った光の効果や形を考え，表現の構想を練っている。 	<p>○教師が試作したランプシェードの作品を鑑賞する場を設ける。</p> <p>○身近な環境に目を向け，心安らぐ生活空間を構成したり装飾したりする視点に気付くための動機付けを図る。</p> <p>○家の中で使いたい場所や，どんな状況で使うかを考え，その場所にあった光や形の効果を考えるように指導する。</p> <p>○主題は，「部活で疲れた自分を癒してくれる」「悩みごとを忘れさせてくれそうな」など，生徒一人一人が自由に設定するように指導する。</p> <p>○「心安らぐ」をよりどころとして形を発想し，構想を深めるように適宜アドバイスをする。</p> <p>○形が思い付かない生徒には，必要に応じて，粘土を実際に触りながら発想できるようにする。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・構想を基に，粘土で原型をつくる。 ・ラップで粘土を包む。 ・和紙を原型に貼る。 ・光の効果を考え試しながら，和紙の貼り方を工夫する。 ・型を抜く。 ・光の効果を考え, 試しながら，工夫して切り込みを入れる。 	4	<p>【創造的な技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の表現意図に合う光の効果を工夫するなどして創造的に表現している。 <p>【発想や構想の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光の効果を考え，形や材質，光などの組合せを工夫し，試行錯誤しながら構成や装飾の構想を練っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「心安らぐ」「使う場所や状況」といった点で，どんな工夫をするのかについて紹介し合い，芯材づくりに入れるようにする。 ○テクスチャーの効果を考えて，和紙の重ね方，種類，表面処理，挟み込みなどの工夫をするように支援する。 ○工夫について悩んでいる生徒には，挟み込む材料，和紙を提示して発想を援助する。 ○和紙の重ね方や切り込みを工夫するために，暗い場所を用意し，光の効果を確かめながら制作ができるようにする。
<ul style="list-style-type: none"> ・部屋を暗くし，一斉にライトアップして，互いの作品を全体で鑑賞する。 ・ランプシェードに灯りをつけた時の効果について小グループで批評し合う。 	1	<p>【鑑賞の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品に対する自分の価値意識を持って批評し合うことにより，美意識を高め，幅広く味わっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○作品を集めて光を点灯させた様子を楽しむことができるような鑑賞の場を設定する。 ○小グループでの鑑賞会において，それぞれの作品に明かりをつけたり消したりしながら，光の効果の工夫について批評し合うよう指導する。

B 鑑賞

題材名「かいて感じる芸術家の心」…〈鑑賞〉 小学校第5学年及び第6学年

【題材の目標】

- ・それぞれの画家の作品に関心を持ち、作品のよさや面白さを自分の思いを持って、味わおうとしている。 【造形への関心・意欲・態度】
- ・作品から感じたことを基に作品の続きを思い付いたり、かきたいものを考えたりしている。 【発想や構想の能力】
- ・作品から感じた形や色、イメージなどを基にして、作品の続きや広がる世界などの表し方を工夫している。 【創造的な技能】
- ・作品に対する見方を広げながら話し合い、作品の表現の面白さを捉え、よさを感じ取っている。 【鑑賞の能力】

【題材の価値】

【子どもの実態（例）】

- ・この時期の児童は、一人一人の感じ方や見方などが育つてくると同時に、物事を他者や社会的な視点から捉えるようになる。このため、自分の体験したことを伝えることで他者と体験を共有したり、自分の認識を広げたりすることができるようになる。鑑賞活動では、形や色などから分析的に見たり、意図や気持ちなどを読み取ったりするなど、作品などを深く捉えることができるようになる。また、社会的な視野の広がりから我が国及び諸外国の美術作品などに対しても親しみをもち捉えることができるようになる。

【親しみのある作品（例）】

- ・「親しみのある作品」とは、子どもたち自身の作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、暮らしの中の作品など、高学年の社会的、文化的な関心の広がりに対応した対象を示す。その対象として、ピカソ、ゴッホ、スーラの作品を選んだ。ピカソのキュビズムの表現、ゴッホの渦巻いたタッチ、スーラの点描などの技法は、子どもたちを引き付けることができ、創造力を働かせながら鑑賞することができる題材である。

【言語活動（例）】

- ・画家の作品を続けてかいたり広げたりする活動を楽しむ過程で、友達の感じ方に共感するとともに自分の考え方を確かにする活動にしたい。表現する人の思いや心の揺れによる表し方の変化、時代や地域の違いによる表現の意図や特徴などについて関心を持ち、話し合えるようにしたい。

【発想や構想の能力、創造的な技能、鑑賞の能力などの価値（例）】

- ・子どもたちの発想を広げるため、複数の作品を与えた中から選択して鑑賞させたり、続きの世界や広がる世界を考えさせたりするようにしたい。作品の技法、色彩、モチーフの形、主題を感じながらかくことにより創造的な技能の力を高めたい。

【「指導計画の作成と内容の取扱い」との関連】

(「B鑑賞」を独立して扱う際配慮する必要があること。)

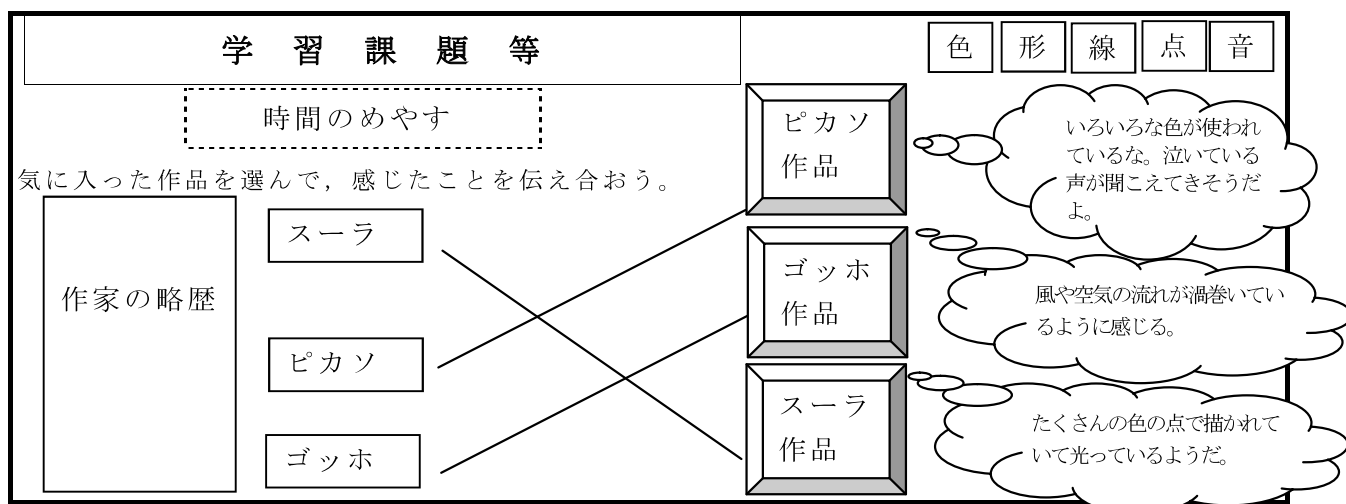
一つは、児童がよさや美しさなどについて関心をもって見たり一人一人の感じ方や見方を深めたりすることができるような内容であること。

二つには、鑑賞する対象は発達の段階に応じて児童が関心や親しみのもてる作品などを選ぶようにするとともに、作品や作者についての知識や理解は結果として得られるものであることに配慮すること。

三つには、児童が対象について感じたことなどを言葉にしたり友人と話し合ったりするなど、言語活動の充実について配慮すること。

(小学校学習指導要領解説 図画工作編 P59より)

【板書例】



【準備物の例】

- ・ピカソ、ゴッホ、スーラの作品
- ・色ペン 水彩絵の具 クレヨン 色鉛筆 など

発展的な学習の内容例

【映像メディアの活用】

映像メディアの活用については、中学校学習指導要領解説美術編のP78に記載されている。小学校から写真、コンピュータなどの活用を図ることも効果的な方法である。例えば写真では、何枚かの写真を組み合わせて工夫をすることができる。また、コンピュータでは、何度でもやり直しができたり、取り込みや貼り付け、形の自由な変形、配置替え、色彩替えなど、構成の場面での様々な試しができたりする。こうしたことを生かして鑑賞する作品の広がる世界や続きの世界を表現したり、色彩や配置を換えて感じの違いを味わったりすることも考えられる。

【授業の具体例】 4時間扱い

学習活動	時	評価規準	○支援や留意点等
<ul style="list-style-type: none"> ・全体で感じたことを伝え合う。 ・作家の略歴などを簡単に話す。 ・気に入った作品を選んで3人～4人くらいのグループで感じたことを伝え合う。 	1	<p>【造形への関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの画家の作品に関心を持ち、作品のよさや面白さを味わおうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○漠然とした言葉や表現であっても、子どもの第一印象を大切にする。 ○出てきた感想やつぶやきを色や形等のキーワードで黒板にまとめていく。 ○テーマを「色」「形」「技法」に設定することで、鑑賞の仕方に戸惑いを感じている子どもへの支援とする。 ○関連した作品も用意し、一人一人の子どもが鑑賞することを楽しむ時間を確保する。 ○思いを広げることに戸惑いを感じている子どもには、友達と関わり合う中で見方を広げることができるよう支援する。
<ul style="list-style-type: none"> ・自分で選んだ作品の世界を広げる。 ・作品からコラージュ（貼り絵）のようにして周囲に世界を広げる。 	2	<p>【発想・構想の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品から感じたことを基に作品の続きを思い付いたりかきたいものを考えたりしている。 <p>【創造的な技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品から感じた形や色やイメージなどを基にして、作品の続きや広がる世界などの表し方を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○同じ作家の違う作品をつなげたり、似た技法や色彩などを用いて新たな作品をかいたりすることも認める。 ○表現方法に戸惑っている子どもには、それぞれの作品の特徴を捉えさせ、それを基に表現の幅が広がるように支援する。 ○素早く仕上げる子どもには、別の作家の技法の特徴を見付けたり、真似したりするように声を掛け、時間を有効に使えるようにする。

<p>・友達の作品から感じた表現のよさや面白さを話し合う。</p>	<p>1</p>	<p>【鑑賞の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作品に対する見方を広げながら話し合い、作品の表現の面白さを捉え、よさを感じ取っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作品から何を感じ、なぜそのように世界を広げたのか互いの工夫を聞き合い、鑑賞を深めることができるようにする。 ○ これまでの鑑賞活動を振り返るために、図工ノートを用いる。 ○ 教室内や校内の適切な場所に作品を展示し、平素の学校生活の中でも鑑賞できるようにする。
-----------------------------------	----------	---	---

題材名「尾形光琳作『紅白梅図屏風』を鑑賞しよう」…〈鑑賞〉
中学校第1学年

【題材の目標】

- ・『紅白梅図屏風』のよさや美しさを感じ取り，美術文化に対する関心を高め，思いや考えを主体的に味わおうとしている。 【美術への関心・意欲・態度】
- ・『紅白梅図屏風』における作者の意図や創造的な表現の工夫などを感じ取り，造形的な視点から対象の見方や感じ方を広げたり，気付いたりしている。 【鑑賞の能力】

【題材の価値】

【子どもの実態（例）】

- ・生徒は，ゴッホやピカソ等の西洋美術については関心も高くよく知っている。しかし，我が国の美術文化については関心が低い傾向にある。そこで，本県の美術館に所蔵されている作品を取り上げ，そこから日本美術のよさや美しさを感じ取り，関心を高めるきっかけとしていきたい。

【美術文化（例）】

- ・文化遺産を鑑賞することを通して，美術文化と伝統を実感的に捉え，その特性やよさに気付き，積極的に鑑賞しようとする気持ちを高めたい。加えて，伝統的な表現や価値観が現代の生活にも息づいており，日々の生活の中でそれらに親しみ理解していることに気付かせたい。
- ・日本美術と西洋美術とを比較鑑賞することで，対象の捉え方や技法，材料などの違いを学ぶことができる。また，日本美術が西洋に与えた影響等を知ることで，生徒の興味も高まると考える。更に，双方のよさを知ることで，自分なりの美術の見方や考え方を広げることができる。
- ・美術文化の学習では，過去の文化遺産としての美術作品などを鑑賞することは大切であるが，それはその時代のみの独立したものではなく，更に遠い過去から現代に続く大きな歴史の中でつくられたものであることに気付かせたい。

【言語活動（例）】

- ・授業の中では，ものの見方や感じ方を豊かにしていくためにも，言葉によって学習を深めていきたい。その際，対象のよさや美しさ，作者の表現意図や工夫などを感じ取り，考え，更に他者と意見を交流して見方や感じ方を広げていく。生徒一人一人が感じ取ったことを大切にして自分の言葉で説明し合うことで，自分にはない新たな見方や感じ方に気付き，さらにそれらを踏まえて自分の目と心でしっかりと作品を捉えていく活動を展開していきたい。そのなかで，「対比」や「リズム」，「調和」などの造形に関する言葉を意図的に用いることで，自分だけでは気付かなかった視点や概念で対象を多面的，多角的に捉えさせていきたい。

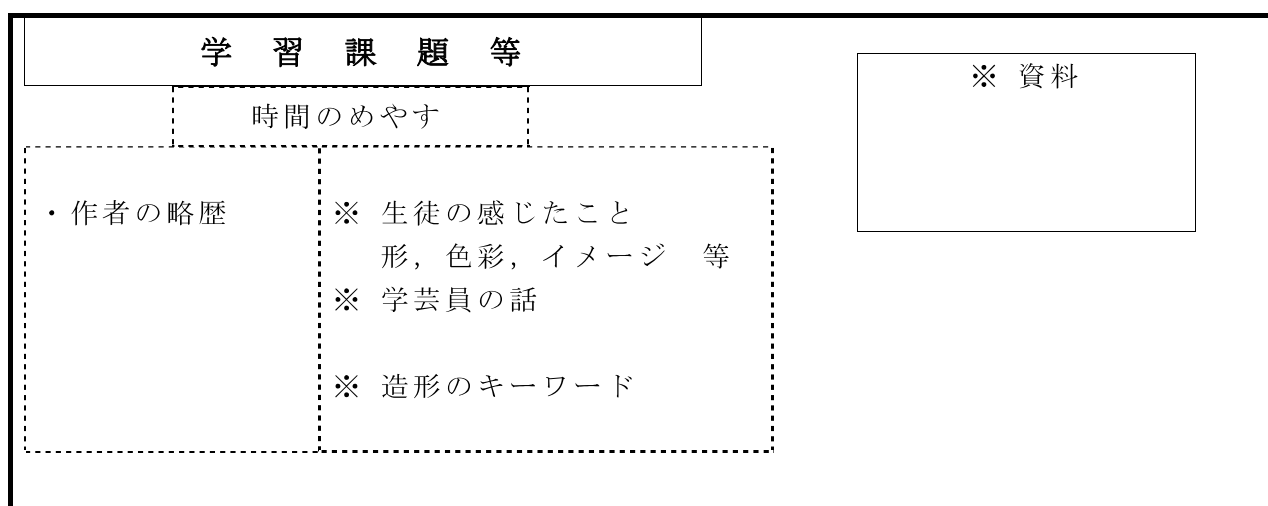
【「指導計画の作成と内容の取扱い」との関連】

「B鑑賞」に充てる授業時数については、今回の改訂では、「適切かつ十分な授業時数を確保すること」としている。これは、鑑賞の学習を年間指導計画の中に位置付け、鑑賞の目標を実現するために必要な授業時数を定め、確実に実施しなければならないことを意味している。そのためには、鑑賞と表現との関連を考えて鑑賞の指導を位置付けたり、ねらいに応じて独立した鑑賞を適切に設けたりするなど指導計画を工夫する必要がある。

鑑賞に充てる時数は示していないが、学習指導要領に示された内容が生徒に身に付けることができるかどうかを考え、各学校が適切かつ十分な時数を確保しなければならない。その際、生徒や各学校の実態、地域性などを生かした効果的な指導方法を工夫することが求められる。

(中学校学習指導要領解説 美術編 P75より)

【板書例】



【準備物の例】

・ 作品のレプリカ 補助資料 ワークシート パソコン プロジェクター など

「静岡県ならではの」を生かした内容

【美術館との連携】

本題材の『紅白梅図屏風』は、MOA美術館（熱海市）に所蔵され、毎年2月に実物が特別展示されるので、鑑賞することができる。

他にも、静岡県立美術館をはじめとした県内にある美術館と連携し、実物を鑑賞する機会が得られるようにしたり、学芸員と連携して授業を行ったりすることが考えられる。各学校区に近い美術館やギャラリーの特徴を生かしながら、可能な限り本物に触れることのできる鑑賞体験の場を設定したい。

このような学習の計画に当たっては、総合的な学習の時間や学校行事、地域に関する行事などとの関連を図るなどの工夫も行っていきたい。

【授業の具体例】 2時間扱い

学習内容	時	評価規準	○支援や留意点等
<ul style="list-style-type: none"> ・実物大のレプリカを鑑賞する。  <ul style="list-style-type: none"> ・小グループで気付いたことを伝え合う。 ・全体の場で発表する。 ・学芸員の話聞く。 ・グループごと作者や作品について考えたいポイントを絞る。 ・グループで絞ったポイントについて、個人で考えをまとめる。 ・それぞれの考えを出し合い、小グループで話し合う。 ・小グループごとで話し合ったことを出し合い、全体で話し合う。 ・感じたことや気付いたことを美術ノートにまとめる。 	2	<p>【美術への関心 ・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『紅白梅図屏風』に興味を持ち、主体的に感じ取るようとしている。 <p>【鑑賞の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、自分の思いを持って味わっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○この作品が県内に所蔵されていて国宝であること、5千円札の絵（燕子花図屏風）と作者が同一であることを紹介する。 ○作者名や時代など、詳しい情報は与えずに、自由に鑑賞させる。 ○出てきた感想を、形や色彩、イメージ等のキーワードで黒板にまとめていく。漠然とした言葉や表現であっても、第一印象を大切にし、つぶやき等も認める。 ○MOA美術館の学芸員を招き、作者や作品についての詳しい話を聞く。 ○生徒が自分自身の考えを持つ時間を確保する。 ○「（例1グループ）屏風の中央の水流を取り除いた画像をスクリーンに映し、本来の屏風と比較する。」 「（例2グループ）屏風の状態と平面の状態を見比べて効果を比較できるようにする。」等、小グループごとの考えが深まるように支援する。 ○全体での話し合いでは、具体物なども用いながら互いに発表し、多角的に鑑賞できるように支援する。 ○対比、リズム、調和など造形に関する生徒の言葉を整理して板書し、生徒のまとめの参考となるようにする。

題材名「ピカソ『ゲルニカ』を鑑賞しよう」…〈鑑賞〉
中学校第2学年及び第3学年

【題材の目標】

- ・『ゲルニカ』に込められた作者の心情や表現意図などを、ピカソの人物像や作風の変遷を学びながら、自分の感動や考えなど価値意識を持って主体的に感じ取ろうとしている。【美術への関心・意欲・態度】
- ・様々な方向から『ゲルニカ』を見つめ洞察的な思考を重ねながら、作者の心情や表現意図を感じ、造形的な視点から考えを深めて味わっている。【鑑賞の能力】

【題材の価値】

【子どもの実態（例）】

- ・第2学年及び第3学年では、生徒の心身の急速な発達が見られ、自我意識が強まるとともに人間としての生き方や価値観が形成されていく時期である。これに合わせて見方を広げ、美術を生活や社会、歴史などの関連で見つめ、自分の生き方とのかかわりでとらえ、鑑賞を深めることを支援していきたい。

【美術文化（例）】

- ・第2学年及び第3学年では、自然や美術作品、文化遺産などの鑑賞を通して、心豊かに生きることと美術との関わりを広げ、第1学年で学んだことを基に、一層深く味わうことができるようにすることが大切である。
- ・西洋美術については、知識として絵や画家の名前を知っている生徒もいるが、じっくりと鑑賞した経験は少ない。このような生徒たちの主体的な鑑賞を促すためにも、ピカソやゴッホなどの有名な作品を扱う機会を設け、鑑賞活動のきっかけとしたい。授業の中では、今まで自分が知り得ていた作家や絵画に対するイメージが変わったり、思いが深まったりすることで、感動や面白さが生まれるような活動を展開したい。

【言語活動（例）】

- ・生徒一人一人が感じ取った作品のよさや美しさなどの価値を、生徒同士で発表し、批評し合い、自分の気付かなかった作品のよさを発見するなどして、一層広く深く鑑賞することを支援していきたい。
- ・自分の感じたことや作品についての自分の考えを、根拠を明らかにして述べたり批評したりすることは美術の鑑賞において大切な学習である。また、自分の価値意識をもって批評するためには、自分の中に対象に対する価値を明確にもつことが前提となる。
- ・鑑賞は単に知識や作品の価値を学ぶための学習ではなく、知識なども活用しながら自分の中に作品に対する新しい価値をつくり出す学習であると捉えることが重要である。
- ・指導に当たっては、生徒たちそれぞれに異なった見方や感じ方を尊重する雰囲気をつくるとともに、作品に対する生徒の興味・関心をより高めたり、いくつかの鑑賞の視点を設定したりしながら、生徒自身の目や手、心や知で作品のよさや美しさを発見し鑑賞を深めていけるような配慮をしていきたい。

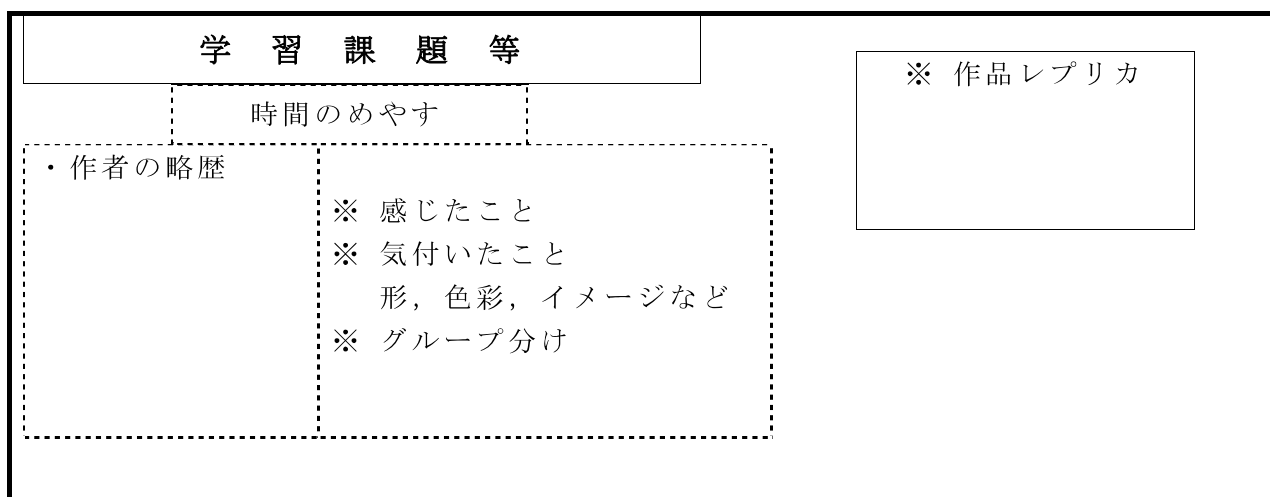
【「指導計画の作成と内容の取扱い」との関連】

鑑賞の題材，美術館等の活用

生徒が日本及び諸外国の児童生徒の作品，アジアの文化遺産などを鑑賞し，人間の成長発達と表現の変容，国などの違いによる表現の相違などについて理解を広げることは重要である。授業では，日本及び諸外国の多様な年齢層の人の作品を比較して鑑賞したり，日本の文化遺産などとの関連の深いアジアの文化遺産についても取り上げたりすることなどが考えられる。また，保存や修復の重要性，国際協力の側面なども併せて学ばせるようにする。

地域によって美術館・博物館等の施設や美術的な文化財の状況は異なるが，学校や地域の実態に応じて，実物の美術作品を鑑賞する機会が得られるようにしたり，作家や学芸員と連携したりして，可能な限り多様な鑑賞体験の場を設定するようにする。
(中学校学習指導要領解説 美術編 P80より)

【板書例】



【準備物の例】

・ パソコン プロジェクター スクリーン 作品のレプリカ ワークシート など

発展的な内容例

【共同して行う活動】

鑑賞で学んだ題材を使い，学年や学級，小グループ等でそれを模写したり，新たな創作活動を行ったりするなど，共同して行う活動への発展が考えられる。

国際的なアートプロジェクトで知られる『キッズ・ゲルニカ』は，子どもが『ゲルニカ』と同じサイズのキャンバスに平和をテーマに描くというものであるが，こういったものに参加したり，文化祭のシンボル画や巨大壁画などを共同で描いたりするなどの活動が考えられる。発想，構想，計画，制作から完成に至る過程での話し合いを重視し，互いの個性を生かした分担をしながら，仲間とともに創造する喜びや達成感が味わえるようにしたい。

【授業の具体例】 2時間扱い

学習内容	時	評価規準	○支援や留意点等
<p>・これらの絵が誰の絵か考える。</p> <p>『初聖体拝領』 『自画像』(青の時代) 『猿をつれた軽業師の家族』 『アヴィニヨンの娘たち』 『ピエロになったパウロ』 など</p> <p>・色や形の特徴から、ピカソの作品を分類し、なぜ、こんなに描き方が変化したのかグループごとに考える。</p> <p>・全体で発表し合う。</p> <p>・ピカソについて知る。</p> <p>・美術ノートにピカソの心情や表現意図について、感じたことや気付いたことを書く。</p>	1	<p>【美術への関心・意欲・態度】</p> <p>・ピカソの作品の描かれ方の違いに興味を持ち、主体的に感じ取ろうとしている。</p> <p>【鑑賞の能力】</p> <p>・ピカソの作品の色や形に着目し、それらの類似点を根拠として、グループ分けをし、表現の工夫を感じ取っている。</p> <p>【鑑賞の能力】</p> <p>・ピカソの人生の出来事が、作風の変化に反映されていることに気付き、作者の心情や表現意図を感じ取ろうとしている。</p>	<p>○ピカソの「十代の作品」「青の時代」「バラ色の時代」「キュビズム」など作風の違う数枚の作品を並べ、作者を想像させる。</p> <p>○生徒がそれぞれの作品の表現の違いや十代の作品の高い技術に驚き、ピカソに対する関心を高めることができるようなレプリカを提示する。</p> <p>○作品数を増やし、小グループごとに、作品を年代別にグループ分けをさせる。</p> <p>○分類が思い付きにくいグループには、色や形の類似性に着目させる。ピカソの画風の変化の理由が思い付かずに困っているグループには、ピカソについての系統的な資料を提供し、考えの手掛かりを与える。</p> <p>○ピカソの紹介のVTRや資料を見せ、説明を加える。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・映し出した絵を見て，感じたことを話し合う。 ・小グループで話し合う。 ・全体で発表する。 ・『ゲルニカ』に関する資料を見る。 ・戦争の悲惨さや，戦争への怒りを，ピカソはどんな工夫で表現したのか，自分の考えを書く。 ・小グループで話し合う。 ・全体で発表する。 ・授業を振り返り，分かったことや感じたことを自分の言葉で書く。 	1	<p>【美術への関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『ゲルニカ』に興味を持ち，作品に対する自分の感動や考えを主体的に感じ取ろうとしている。 <p>【鑑賞の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な角度から作品を見つめ，洞察的な思考を重ねながら，ピカソの心情や表現意図を読み取り，造形的な視点で考えを深め，味わっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○プロジェクターを用い，体育館の壁に原寸大のゲルニカを映し出す。 ○グループ活動では，生徒たちが感じたことを付箋紙に記入し，作品のコピーの上に貼っていくようにする。 ○鑑賞の仕方に戸惑いを感じている生徒に対しては，絵の各部分について思ったことを言葉にさせたり，描かれているものの意味を考えたりするように指導する。 ○生徒の自由な発想を出させる中で，「電球は何を表しているのだろうか」など，各部分についての生徒の解釈を聞き，想像を膨らませる。 ○ピカソにとっての色彩や形が重要であると気付いた生徒の考えに着目させる。 ○感動を共有したり，様々な角度から鑑賞したりすることの楽しさや面白さを実感した生徒の感想を紹介し，まとめる。
---	---	--	---

9 材料調達例

子どもたち自身が材料を探したり、使い道を試行錯誤したりすることは大切なことです。このようなことを踏まえた上で、材料を入手しましょう。

地域の特徴

水産加工が盛んな地域である。そのため、加工品を梱包するための発泡スチロール工場が点在している。規格に合わなかった、様々な形状の発泡スチロールが廃材として再利用されている。

学校組織が行うこと

子どもの実態や付けたい力に基づいて、指導計画を作成する。子どもが準備することが適切な材料と、学校が準備した方が適切な材料とを吟味する。参観会やお便りなどを通して家庭の協力を得る。

特徴のある発泡スチロールが必要である場合、発泡スチロール工場に連絡を取り、廃材を入手することが可能であるかを確認する。また、校内の保管場所を検討し調整確保する。

可能であれば、日程を調整し、工場の都合に合わせて、受け取りに行く。

子どもの活動の様子や作品をビデオやカメラで撮影し、評価に生かすとともに、保護者や発泡スチロール工場へのお礼の手紙に写真を添える。

実践後に行うこと

発泡スチロール工場の都合のよい日時にお礼に伺う。

子どもの手紙や活動や作品の写真を添えて、資源を有効に活用したことを伝える。

作品は、児童・生徒が自宅に持ち帰る。不要な発泡スチロールは、資源としてリサイクルされるように分別し、資源回収などに出す。（工場などに聞いておくことも必要です。）

保管・活動・製作した場所を子どもとともに、美化に努め、次の活動が行いやすいようにする。

あらかじめ、地域や家庭に廃材が入手可能な工場や店舗を調査し、学校でリストにしておきましょう。

また、リストにあっても相手先の都合を十分に考慮して、学校との信頼関係が崩れないように配慮しましょう。

その題材や年度だけで終わってしまわないように、工場とのつながりや環境の保持に配慮しましょう。

また、子どもの写真や作品などを外部に出す場合には、個人情報の保護にも配慮しましょう。

小学校題材例

例 造形遊びにおいて、発泡スチロールを材料にして発想し、組み合わせたり、形を変えたりしてつくる。（第3学年及び第4学年）

例 造形遊びにおいて、室内空間の様子を考えながら、大きな発泡スチロールを切ったり組み立てたりしてつくる。（第5学年及び第6学年）

例 工作に表す活動において、発泡スチロールを材料にして、自分が住んでみたい夢の島をつくる。（第5学年及び第6学年）

中学校題材例

例 「立体の共同制作」において、学校行事をテーマとして主題をもち、発泡スチロールを用いて大きな彫刻をつくる。（第2学年及び第3学年）

10 Q & A

図画工作・美術科に関わる質問集です。学習指導要領の捉えについても確認してみてください。



図画工作・美術科の評価をどのようにすればよいのでしょうか。



小学校
中学校

題材や時間に付けたい力を明確に持つ必要があります。また、教師自身が教材研究を深めたり、試作をしたりすることにより評価のポイントが見えてきます。

教師の一言で、子どもたちが図工・美術を大好きになり自信を持って取り組むことも多くある一方、教師の一言で図工・美術が嫌いになってしまうこともあります。

作品の出来映えだけではなく、子どもの持つ主題と照らし合わせながら、過程を見取り、価値付けることが大切です。

表現の力、鑑賞の力の育ちを見取ることに努めるとともに、子どもたちのために指導の改善に生かすための評価をしましょう。



作品づくりにおいて、時間の差が生まれてしまうことに困ってしまいます。特に、すぐできたと終わってしまう子どもにどのように対応すればよいのでしょうか。



小学校
中学校

どのような活動でも時間の差は当然出てきます。あらかじめどのようなことを次にするのかを計画しておく必要があります。作品づくりに対して飽きてしまう子どもが多い場合には、その題材が子どもの感動や体験、表現したい気持ちを引き起こすものか、学習課題や環境設定が発想の手助けとなっているのかを再度研究してみる必要があるかもしれません。また、作品づくりが終わったら、後手に回らないように、①もう一つ挑戦する、②鑑賞カードを書く、③掲示の背景をつくる、④台紙やフレームをつくるなどの指示をあらかじめ出し、板書しておく、子どもが見通しを持ちやすくします。

教師の予測したスピード通りに進まないことも多いと思いますが、一見、手が掛かると思われる子どもほど、題材を改善する可能性を的確に示している場合が多くあります。



新聞紙やトイレトペーパーなどの材料をふんだんに使った造形遊びを何のためにやるのかがよく分かりません。作品の出来映えも気になります。



小学校

造形遊びの内容は、学習指導要領のA表現(1)の項目に示されています。造形遊びでは作品をつくることを目標とせず、造形遊びを通して発想や構想の能力、創造的な技能などの力を付けることが目標であることを意識しましょう。

造形遊びの時間は、材料や場所との関わりによって、それらを変化させたり、様々なことを試したりして、子どもたちがつくりたい気持ちや活動が多く表れる時間となります。したがって、活動の過程で豊富な材料(小学校全学年)や様々な場所(小学校中学年及び高学年)から、子どもがどのような学びをし、どのような力を発揮しているかを見取り、価値付けることが大切です。

また、材料の種類や量については、材料からの発想を深めるために、少なくする方法もあります。



「造形遊び」と「造形活動」の違いは何ですか。



小学校

「造形遊び」は、基本的には小学校だけです。平成20年の学習指導要領によって「造形遊び」という言葉が明示されました。「造形遊び」は、材料や場所に働きかけ、そこから思い付いた活動を行う表現活動の一つとして示されています。

「造形活動」は、表現と鑑賞の活動全てを示しています。



〔共通事項〕とは何ですか。



小学校

〔共通事項〕には、三つの共通点があります。一つは、表現と鑑賞の共通性。二つには、美術への関心・意欲・態度、発想や構想、創造的な技能の共通性。三つには、小学校と中学校の共通性です。

また、〔共通事項〕は、指導のために示されているという面をもっています。つまり、〔共通事項〕を意識することにより指導の改善を図ることが望まれているのです。

小学校の〔共通事項〕では、「自分の」という言葉が必ず出てきています。教師がかかせたい作品を子どもの手を借りてかかせていたり、子どもの主題がはっきりしなかったりすることはないでしょうか。教室の後ろに貼られた作品の構図、色彩、かかっているものの数や方向までそろってしまっていないでしょうか。こうした実態を打破し、子どもの活動にしていけることが大切であるというメッセージが〔共通事項〕には込められています。

中学校

中学校のAでは、性質や感情といった「要素」が挙げられ、Iでは対象のイメージといった「全体」が挙げられています。生徒の発揮している具体的な力や思いを価値付けすることができずに、技術指導に多くの時間をとっていることはないでしょうか。また、技能が単に技能ではなく創造的な技能であることの意識が薄いことはないでしょうか。〔共通事項〕は、こうしたことを打破していく必要があるという視点を与えています。



平成20年の改訂によって、扱う材料や用具などに変化はありますか。



小学校

小中学校で現行の学習指導要領との変更はほとんどありません。小学校で、釘、針金、金づちなどが新たに記載されていますが、既に教科書では扱っており追認した形です。また、学年が上がるにつれ、種類が少なくなっているようにも読めますが、そうではなく、前学年のものは含む形でプラスされています。



中学校の表現内容(1)(2)と(3)の関係を教えてください。



中学校

中学校の表現の内容(1)と(2)は発想や構想。(3)は創造的な技能です。また、(1)は絵や彫刻の発想や構想、(2)はデザインや工芸の発想と構想です。創造的な技能を、共通させて(3)に抜き出しています。

そのため、表現の授業を展開するにあたっては、(1)と(3)の組合せ、(2)と(3)の組合せといった形になります。



中学校1年生においては、A表現の(1)の描く活動とつくる活動の二つと、(2)の内容が三つあります。これらを合わせて少なくとも、五つの題材を表現として設定する必要がありますか。



題材には、描く活動とつくる活動が混ざり合っていたり、内容が混ざり合っていたり、表現と鑑賞が混ざり合っていたりするものがあります。そのため、題材の数で内容の全てが網羅されているか、いないかということは一概に言えません。
しかし、中学校1年生はその1年間だけで目標や内容が示されているため、他の学年に比べて比較的短いスパンで様々な題材を設定する必要がありますといえます。



中学校のB鑑賞において、「適切かつ十分な授業時数を確保する」とありますが、どのくらいの時間を目安にしたらよいのでしょうか。



時間だけではなく、目標に示された鑑賞の能力を身に付けるために指導を充実させることが大切です。
また、鑑賞と表現を関連させて題材を設定したり、独立して鑑賞の題材を設定したりすることが考えられるため時間だけで決めかねることもあります。
そのため明確な答えとはいえませんが、時数のおおよその目安としては、年間時数の1/5程度といわれています。



平成20年の改訂により学習指導要領がより読みやすくなりましたが、小学校と中学校の内容構成のつながりが見えにくいのはなぜですか。



小学校図画工作科には「造形遊び」があるため、項目(1)が造形遊び、(2)が絵や立体、工作に表す活動となっています。そのため中学校の項目とずれています。
また、小学校の図画工作科では、今までの改訂の経緯から見て、中学校の技術分野の基礎を担っている面があります。例えば、学習指導要領の解説書において、小学校では「製作」、中学校では「制作」という漢字を用いていることにも、その一端が見えます。このように、図画工作科と美術科は必ずしもなめらかにつながっていないところがあります。
9年間はもちろん、幼稚園や保育園、高等学校のつながりを意識することはとても大切なことです。



中学校において、第2学年及び第3学年A表現で示されていた「環境のデザイン」が平成20年の改訂では削除されているが、どのように扱えばいいですか。



第2学年及び第3学年のB鑑賞のイに「身近な環境の中に見られる造形的な美しさを感じ取り」とあるため、鑑賞の学習として扱うことができます。
また、環境デザインの学習をA表現の(2)の「構成や装飾」と捉えて、表現の学習としても扱うことができます。



言語活動の充実についてはどのように捉えればよいのでしょうか。



小学校
中学校

学習指導要領B鑑賞の小学校ではイ、中学校ではアに示されています。
 小学校第1学年及び第2学年では、
 「感じたことを話したり、友人の話の聞いたりするなど」
 小学校第3学年及び第4学年では、
 「感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなど」
 小学校第5学年及び第6学年では、
 「感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなど」
 中学校第1学年では、
 「作品などに対する思いや考えを説明し合うなど」
 中学校第2学年及び第3学年では、
 「作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなど」
 また、形や色などの造形言語も他の教科にはない言語です。教科で付
 けたい力を押さえ、その力を付けるために言語活動の充実に努めましょ
 う。



小学校の学習指導要領で示されている「身の回りの作品」「身近にある作品」「親しみのある作品」の違いについて教えてください。



小学校

「身の回りの作品」は、低学年の発達の段階と照らして、家庭や教室など生活空間で日頃から見たり触ったりできる範囲の作品などを示します。
 「身近にある作品」は、中学年の発達の段階と照らして、低学年より行動範囲が広がることを考慮した範囲の作品などを示します。
 「親しみのある作品」は、高学年の発達の段階と照らして、児童が親しみを感じていれば、様々な作家の作品なども鑑賞の対象となることを示しています。例えば、ある作家の作品が鑑賞の対象となるかを考える場合、ある学校では地域にその作家の美術館があったり、校内に模写が掲示してあったりした場合に子どもにとって親しみがあることも考えられます。逆に、そうではないことも考えられます。つまり、子どもと鑑賞の対象の関わりを把握しておくことも大切であるといえます。



平成20年の改訂で、小学校の目標に「感性を働かせ」という文言が入りましたが、これによって何が変わるのでしょうか。



小学校

「感性を働かせ」という文言が入ったことにより、子どもの感じ方をより大切にして指導していくことが強調されました。
 また、幼稚園の表現領域、小中学校の各教科目標を通して「感性」という文言が入ったこととなります。こうした点から見ても、子どもの力の育ちや学習の営みを校種をつないで指導に生かすことが大切だといえます。



画用紙を前にして、なかなか描きはじめることができない子どもにはどのように指導したらよいでしょうか。



小学校

真っ白い画用紙に失敗しないように描きたいと思うあまり、描きはじめることができないこともあります。幼稚園や低学年の指導のとき、あえて広告の裏や新聞紙、手でもんだ紙などを与えたり、紙の形を工夫したりして、紙に対する抵抗感をなくして、のびやかに描く場を工夫することもあります。主題をしっかりと持てない授業展開になっていないか考えてみることも大切です。



鑑賞において、我が国の美術や文化に関する指導を考えた時、鑑賞の対象にはどのようなものが考えられますか。



中学校

鑑賞領域の改善の具体的事項に、我が国の美術についての学習を重視し、美術文化の継承と創造への関心を高めるとあります。
また、学習指導要領解説において第1学年では、「人々が自らの生活や人生をより豊かで充実したものにするために、それぞれの国や民族が長い歴史の中で、築き上げ受け継いできた有形・無形の文化財」、「地域にある伝統的な工芸品や祭りの山車(だし)、建造物、家庭にある掛け軸や扇子、風呂敷(ふろしき)など」が対象として挙げられています。
第2学年及び第3学年では、「生け花、自然石と砂で構成する石庭、山水風景や草花をデザインした和服の絵柄、襖絵(ふすまえ)や屏風(びょうぶ)、扇子など」、「飛鳥・奈良時代」、「平安時代」、「鎌倉・室町の水墨画」、「江戸時代の浮世絵」、「アイヌや琉球の文化などの各地域文化」などの記述があり、鑑賞の対象として考えられます。



「日本の美術の表現」について、どのような指導が考えられますか。



中学校

生徒の表現の能力を高めるには、国や地域などによる表現の違いや特色に気付かせ、幅広い柔軟な思考力や表現の技能を持たせることが大切です。例えば、日本の美術の表現には、扇や短冊、屏風(びょうぶ)に描いた絵、絵巻物など様々な大きさや形の紙に描かれた絵があります。また、余白の生かし方、上下遠近、吹抜屋台などいろいろな表現方法があります。これらの表現に触れ、多様な表現形式、表現方法のよさを理解させ、自分の表現に取り入れるなどして、表現に幅を持たせるようにすることも大切です。



忘れ物をした回数や，完成した作品の出来映えだけで評価していいのですか？



数や量，結果だけの評価ではなく，学びの質を取組の過程から評価することが大切です。



(1) 「学力の三つの要素」との関連

- 図画工作科の「造形への関心・意欲・態度」，美術科の「美術への関心・意欲・態度」は，主に学力の三つの要素の「主体的に学習に取り組む態度」に対応しています。
- 「発想や構想の能力」は，主に学力の三つの要素の「思考力・判断力・表現力」に対応しています。
- 「創造的な技能」は，主に学力の三つの要素の「基礎的・基本的な知識・技能」に対応しています。
- 「鑑賞の能力」は，「知識・理解」の点では，主に学力の三つの要素の「基礎的・基本的な知識・技能」に，子どもが考えたり判断したりする点では，主に学力の三つの要素の「思考力・判断力・表現力」にも対応しています。

(2) 観点の趣旨について

【造形への関心・意欲・態度】の趣旨

自分の思いをもち，進んで表現や鑑賞の活動に取り組み，つくりだす喜びを味わおうとする。…小学校

【美術への関心・意欲・態度】の趣旨

美術の創造活動の喜びを味わい，主体的に表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。…中学校

黙々と静かに取り組んでいることが，関心・意欲・態度なのですか？



つぶやきながら夢中になって取り組んだり，友達の作品を鑑賞したりすることもあります。



「造形への関心・意欲・態度」(小)「美術への関心・意欲・態度」(中)は，自分の思いを持って，進んで表現や鑑賞の活動に取り組むことやその過程や結果においてつくりだす喜びを味わっている子どもの姿を評価する観点です。「造形(美術)への関心・意欲・態度」は，それ自体を取り出して捉えるというよりも「発想や構想の能力」「創造的な技能」「鑑賞の能力」と関わり合って把握することが重要です。学習活動の特性や題材の関連などを考慮しながらどのような姿を子どもの主体的な姿と捉え，どのような方法で評価するかを明確にする必要があります。

【発想や構想の能力】の趣旨

感じたことや材料などを基に表したいことを思い付いたり，形や色，用途などを考えたりしている。…小学校

感性や想像力を働かせて豊かに発想し，よさや美しさなどを考え心豊かで創造的な表現の構想を練っている。…中学校

「形や色，材料，用途などを基に，自分の表したいことを思い付いたり，いろいろ考えながら表現に見通しを持ったりしている子どもの姿を評価する視点です。

設定する題材の，どの場面で，どのような方法で評価するのかを明確にする必要があります。

また，基本的には，製（制）作の過程や完成した作品，アイデアスケッチなど造形的に表現されたものや子どもの姿から読み取ることになります。しかし，技能が伴わない子どももいるため，表現意図を書いたワークシートや感想文と作品を照らし合わせて評価をするなどの工夫も必要です。



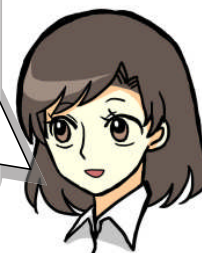
隣のクラスの図工作品は，とても〇年生とは思えない構図の作品が，ずらりとならんでいて，うらやましい。でも…？

作品のモチーフ，手順，構図などを詳しく指示しているから，みんな同じような作品ができている。それでよいのかな？



子どもの発達の段階を押さえるとともに，子どもに指示を多く出し，子どもの表現したいことや発想をせばめてしまわないように心掛け，評価しましょう。評価が教師で変わることのないように，教員同士の共通理解を図ることも大切です。

子どもが表現したいことを子どもの思いで構想していくことのできる授業づくりをし，評価することが大切です。



【創造的な技能】の趣旨

感覚や経験を生かしながら、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫している。…小学校

感性や造形感覚などを働かせて、表現の技能を身に付け、意図に応じて表現方法などを創意工夫し創造的に表している。…中学校

自分の表したいことに応じて、感覚や経験を生かしながら材料や用具を用いたり、表し方を工夫したりしている子どもの姿を評価する視点です。

「創造的な技能」の観点は、小学校では、A表現(1)「造形遊び」と(2)「絵や立体、工作」の事項ウに、中学校では、A表現(3)に対応しています。発想や構想したことを材料や用具などを活用し、創意工夫しながら具体的な作品に表現していく力です。

このことを踏まえながら、子どもが発揮している「創造的な技能」と題材で用いる材料や用具、あるいは表現方法などとの関連を明確にしましょう。

「創造的な技能」ですから、単に材料や用具を使う力ではありません。

写真やモチーフを正確に写しとることだけについて評価していますが、いいのでしょうか？

技能を評価するために、釘を正確に打ち込むことができるのか、テストしてみようかな…？

子どもの表現したいことを、子ども自身が工夫し、創造的に表していることを評価しましょう。教師の描かせたいものやつくらせたいものを、子どもの手を借りて製(制)作させてしまっていないか、再考しましょう。

単に技能ではなく、創造的な技能です。例えば、曲がった釘をあえて生かして表現する姿、釘の長さの違いを生かして表現する姿などもあります。子どもの創意工夫を見取りましょう。



【鑑賞の能力】の趣旨

作品などの形や色などから、表現の面白さを捉えたり、よさや美しさを感じ取ったりしている。…小学校

感性や想像力を働かせて、美術作品などからよさや美しさなどを感じ取り味わったり、美術文化を理解したりしている。…中学校

美術作品や自他の作品などの形や色などから表現の面白さを感じたり、よさを把握したりしている子どもの姿を評価する観点です。

「鑑賞の能力」については、子どもが自分の作品を見つめている場面や美術作品の前で語り合っている場面などで、子ども自身が何を美しいと感じ、何をよいと考えているのかを具体的に捉える必要があります。

その際、〔共通事項〕で示した形や色、イメージなどが有効な手掛かりとなります。例えば、〔共通事項〕の視点からワークシートや発問などを具体化することができます。

鑑賞の学習活動は、言語を用いて行われることが一般的です。そのため文章力に評価が影響されないように、キーワードになっている言葉を見ていくなどの工夫が必要です。

(3) 〔共通事項〕との関連

〔共通事項〕は、「A表現」「B鑑賞」の指導を通して、二つの事項を指導することとしています。評価においても単独で行うのではなく、「発想や構想の能力」「創造的な技能」「鑑賞の能力」の中に含めて、評価することになります。

観点の趣旨の中にある「感性や創造力を働かせて」が〔共通事項〕アイの事項の内容と関連しています。

例えば、発想や構想の場面で「感性や想像力」を働かせて、形や色彩から温かさや優しさを感じ取ったり、対象の全体的なイメージを捉えたりして〔共通事項〕を十分に意識しながら発想や構想をすることにより、「発想や構想の能力」が豊かに育成されることになるため、〔共通事項〕を意識して評価する必要があります。

その他①（評価規準の語尾）

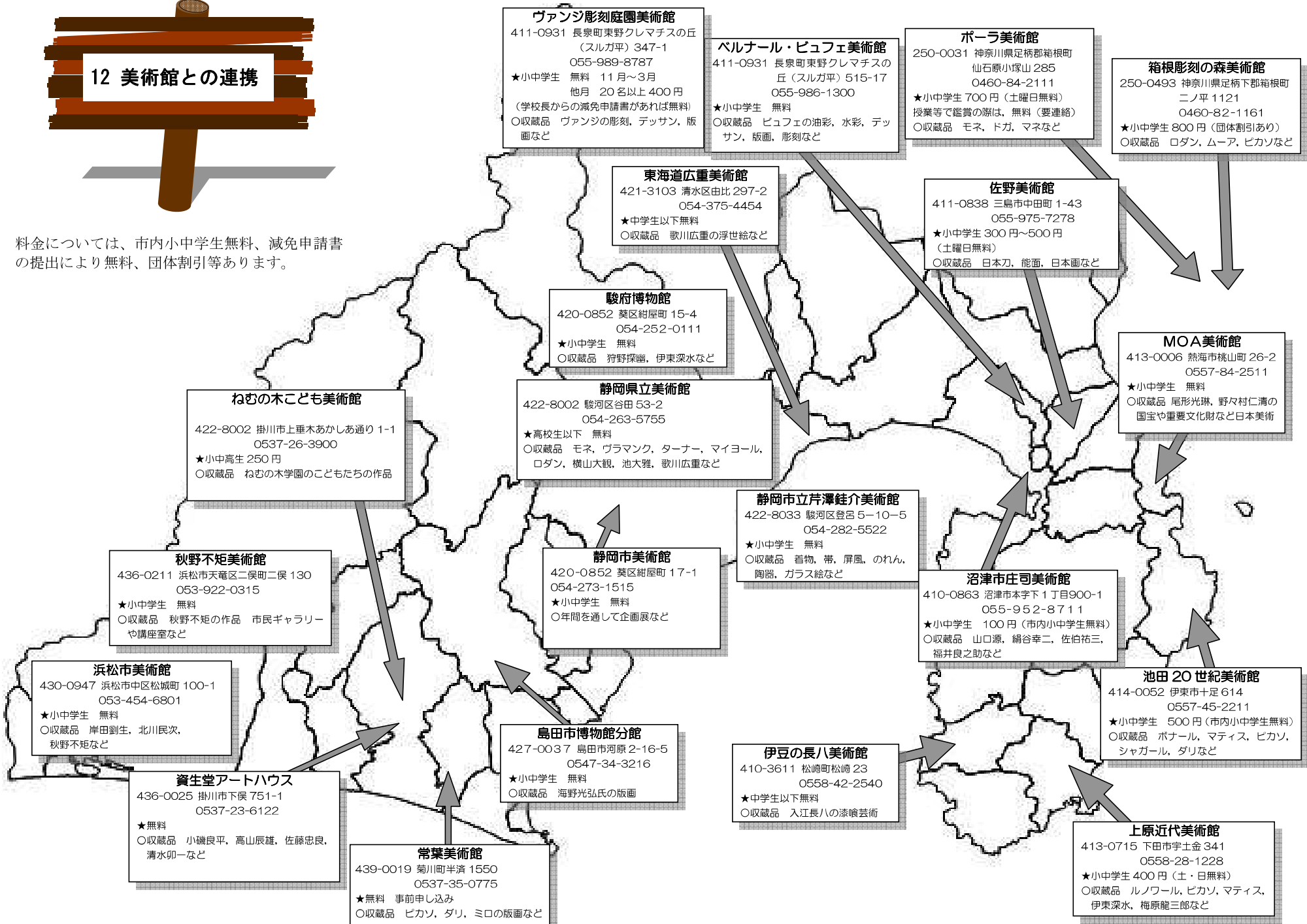
「味わおうとしている」「思い付いている」「考えている」「使っている」「工夫している」「気付いている」「捉えている」「感じている」など、題材全体の評価規準、1時間ごと(時間続きの場合もあります。)の評価規準の語尾は、「～している」になります。作品づくりの過程などを含めて評価するという意味が込められています。

その他②（評価の負担軽減）

評価が負担となり、子どもたちに笑顔で接したり、適切な支援をしたりすることができなくなってしまっては本末転倒です。評価において何が大きかを見極めて分かりやすく簡素にすることも解決の手だての一つです。また、一人の教師で抱え込まず、校内や地域で計画的、組織的に取り組むことも大切です。

12 美術館との連携

※ 料金については、市内小中学生無料、減免申請書の提出により無料、団体割引等あります。





「美術館教室」の紹介

「美術館教室」は、園児、児童、生徒を対象とした教育普及プログラムです。表現や鑑賞、職場体験、総合的な学習の時間における取組など、学校との連携をすすめる活動をしています。

粘土とのふれあい（例）

約1トンの粘土があります。1トンという量は、それを扱う子どもたちに少量での制作とは異なる感覚を与えうる量です。この粘土を使い、体感的に粘土と親しみます。

学校に粘土を貸し出すこともできます。貸し出すことのできる量は400kg程度です。搬入、搬出は学校が行います。

造形遊びなどで、多くの学校が活用しています。



絵の具とのふれあい（例）

水をかければきれいに落ちる絵の具を使用し、屋外展示テラスの石畳や、屋内で天井から透明ビニールをつるしたものにかくなどの活動を行います。

ワークショップ（例）

金沢健一<音のかけら1>を使用した鑑賞のワークショップです。厚さ0.9cm、直径2.2mの円形の鉄板を様々な形に溶断し、ゴムの足を付けて並べた彫刻作品で、マレットなどで叩き、鉄琴のように音を出すことができます。

館内鑑賞（例）

最初に子どもたちが受け取る7枚のカードには、それぞれロダンの作品についてクイズが書かれています。ロダン館の展示作品を見て回り、答えを探し、最後に解説を聞きながら答え合わせをします。

ギャラリートーク（例）

収藏品展・ロダン館・企画展の展示作品を、学芸員やボランティアと一緒に鑑賞します。

作品を前にして、思ったこと、感じたことを、友だちや先生、学芸員やボランティアと話をします。



デッサン・スケッチ・クロッキー（例）

ロダン館において、ロダン作品を中心とした当館所蔵の彫刻作品を素描します。描くことで細部までじっくり観察し、鑑賞を深めることができます。

美術館の秘密（例）

誰もが楽しく鑑賞できる工夫、作品保護について、ワークシートを頼りに探っていきます。答え合わせでは、普段は見ることのできない美術館の裏側を探検し、美術館ならではの工夫を紹介します。

出張美術講座

美術館側から学校に出向いて児童・生徒に直接、美術館や美術作品の魅力について話をする「出張美術講座」を行っています。教材キット、掛け軸や屏風などのレプリカの貸出し、授業資料提供なども行っています。

収藏品パズル（例）

パズルは6種類あり、作品は「収藏品展」で比較的目的にすることが多く、子どもたちが興味を持ちそうなものを選んで行っています。

最初に6種類の作品を黒板に並べ、自分の好きな作品を選び、その理由を発表します。

パズルは個人で取り組んでいくよりも、2人で協力して取り組んでいく方が楽しいようです。パズルをやってみることで、最初は気付かなかったものをたくさん見付けることができます。

紙芝居（例）

来館に先立ち、学校で「カレーの市民」について紙芝居で勉強します。学芸員からさらに詳しいお話を聞き、静岡県之歌「しずおか賛歌 富士よ夢よ友よ」の音楽に乗せて体を動かします。ロダン彫刻のポーズを取り入れた体操で、「カレーの市民」も出てきます。

美術館との 連携例

ベルナール・ビュフェ 美術館との連携例



美術館と近隣の学校との連携によって「鑑賞キット」を開発。このキットは、5種類（自画像、静物画、風景画、ピエロ、ストーリー）あり、それぞれのテーマを通して、ベルナール・ビュフェの作品を様々な角度から鑑賞することができる。美術館を実際に訪れることができない学校は、「鑑賞キット」を使うことによって、教室を美術館ギャラリーに変え、レプリカ作品の前で鑑賞授業を行うことができる。

ヴァンジ彫刻庭園美術館との連携例



所蔵品は、ヴァンジの彫刻、デッサンなどが豊富にあり、また、優れた彫刻作品を屋内だけでなく、屋外でも鑑賞することができる。

美術部員を連れて訪れる美術科教員も多く、教室内では鑑賞できない大きな彫刻を建物や自然との調和の中で楽しむことができる。子どもたちを中心としたワークショップも随時、開催されている。



伊豆松崎出身で、饅（こて）と漆喰（しっくい）の名人職人「入江長八」の作品が収蔵されている伊豆の長八美術館は、建物自体が芸術品である。建物の随所に左官の芸がちりばめられている。学芸員による鑑賞の授業を行った後、漆喰饅絵製作をしたり、光る泥だんごづくりをしたりすることにより、「入江長八」の左官の芸を体験する。

伊豆の長八美術館 との連携例



上原近代美術館の学芸員とのTTによる授業。美術館内に収蔵されている作品を主に題材としている。日本の浮世絵が、西洋に与えた影響を課題として、生徒たちが資料を基に追究をする。学芸員は、授業者とともに、生徒への支援を行っていく。写真は、導入の場面である。

上原近代美術館 との連携例

佐野美術館との連携例



佐野美術館所蔵の能面展を行った。美術館の依頼を受けて、生徒が学芸員として展覧会を企画するという設定である。

教師、学芸員、現代作家の三者で能面と現代美術を鑑賞する授業を展開した。その後、生徒たちが企画書をつくり、依頼者の前でプレゼンテーションを行った。その後、美術館が選択した企画を展覧会として具現化した。

池田 20 世紀美術館との連携例



池田 20 世紀美術館の建物は、日本ではじめてのステンレススチール張りの外壁であり、入口から出口まで有機的に連なるユニークな空間造形となっている。美術館では、館内の作品を模写する機会を子ども向けに提供している。また、その参加者の作品を夏休みの期間、画廊レジエにて「20 世紀子ども名画展」として展示する取組を継続して行っている。例年多くの子どもたちが参加している。



MOA美術館では、例年子どもたちの児童作品展を独自に行っている。さらにその作品を館内に展示し、子どもたちの絵画への関心を高めている。

近隣の学校では、MOA美術館所蔵の『紅白梅図屏風』を鑑賞する際に、美術館と連携した取組を行っている。



海野光弘氏の作品や関係資料を多数所蔵している記念館内で図画工作・美術科の教員が研修をする機会として利用している。

授業においても、学芸員を招いて鑑賞をしたり、直接分館を訪れて鑑賞をしたりしている。分館は、昭和の雰囲気の色濃く残す建物であり、海野光弘氏の版画とマッチしている。

MOA美術館との連携例

島田博物館分館との連携例

静岡市立芹澤銈介美術館
との連携例



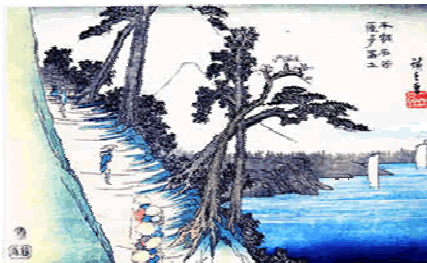
染色家・芹澤銈介の作品をはじめ、銈介が集めた世界の工芸品を展示公開している。隣接する登呂博物館（平成22年リニューアルオープン）も同じ登呂公園内にあり、歴史や美術に親しむことのできるエリアとなっている。

多くの小学校が遠足コースとして利用しているが、作品やコレクションの鑑賞を目的に、学芸員による解説を実施するケースも増えている。また、総合的な学習の時間で、子どもたちが「地域」の情報を集める際など、資料を提供したり、インタビューに応じたりしている。

静岡市美術館
との連携例



「ミュージアム教室」は、小・中・高の学校を対象とした、対話型の鑑賞教室である。「アートとあそぼう」では、職員が小学校や児童クラブなど館外に出向き、児童生徒と制作ワークショップを実施している。また、「教育普及説明会」は、これらの事業を体験してもらうことを目的としている。さらに、中・高美術部などにショーケース内の告知物作成を依頼する「エキパディスプレイ」を実施。「見せる」側で鑑賞するという「ミュージアム教室」の発展型である。なお、各学校に展覧会鑑賞キットを配布する予定である。



由比本陣公園内にあり、浮世絵師・歌川広重の作品を中心に収集・展示している。館内は、「由比の自然と歴史」「東海道の宿場町・由比」「広重と浮世絵の世界」の3つのテーマ・スペースに分けられており、各スペースを利用し、美術や歴史に親しむことができる。図画工作・美術科の鑑賞、社会科や総合的な学習の時間での調査学習など、多様な利用に応じている。

東海道広重美術館
との連携例



写真は、館内に展示された中学生の共同制作である。収蔵品は、江戸期から戦前にかけての日本画や書が中心で、静岡にゆかりのある版画家の作品もある。これらの作品を展示する館蔵展のほか、企画展も催される。常設展示はないので、展示会のスケジュールをチェックすることが必要である。

駿府博物館との連携例

**常葉学園菊川高等学校
常葉美術館との連携例**



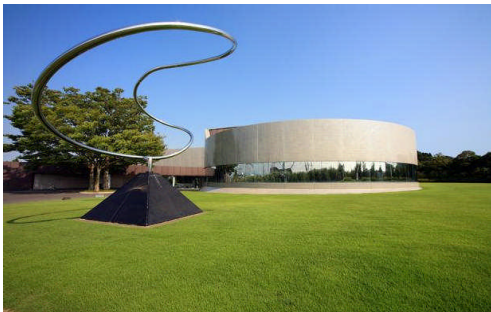
中学生が常葉学園菊川高校を訪問し、美術デザイン科の生徒作品を鑑賞したり、教諭による講義を受けたりしている。中学生たちは、近い年代の生徒作品を鑑賞することにより、「自分でも描けるのかな?」といった、表現への興味関心を高めている。

また、隣接の常葉美術館で本物の絵画を鑑賞することができる。

**秋野不矩美術館
との連携例**



近隣の学校では、鑑賞と表現の授業で地域の作家「秋野不矩」の魅力を広く紹介するためにリーフレットづくりを行った。グループごとにテーマを決め、学芸員の協力を得ながら、ゲストティーチャーとして招いたり、子どもたちが美術館を訪問したりして、活動した。学芸員とのTT授業なども学校の依頼に応じて行っている。



収蔵品は、近現代の優れた絵画、彫刻、工芸品などがある。クラスやグループなどで訪問することが可能である。

様々な分野の作品を鑑賞し、「自分のお気に入り」のジャンルや作風を見付けるなど、美術館鑑賞の入門的活動に適している。

併設の企業資料館では、商品パッケージやポスター等のデザインの変遷を鑑賞することもできる。



子どもたちが本物の作品から「色」「絵肌」「空間」などを鑑賞することを通して感性を育むことに重点を置いている。常設展や企画展で、近隣の学校などが活用をしている。また、学芸員とのTT授業なども学校の依頼に応じて行っている。

資生堂アートハウスとの連携例

**浜松市美術館
との連携例**



13 高等学校学習指導要領抜粋

※美術との関係のみ

第1章

ここには、総則が書かれています。

第2章

「1単位時間を50分とし、35単位時間の授業を1単位として計算することを標準とする。」と書かれています。

各学科に共通する各教科が書かれています。

第7節 芸術

● 第1款 目標

芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

● 第2款 各科目

■ 第4 美術Ⅰ

美術Ⅰ→美術Ⅱ→美術Ⅲと履修していきます。

1 目標

美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

■ 第5 美術Ⅱ

1 目標

美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

■ 第6 美術Ⅲ

1 目標

美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情と美術文化を尊重する態度を育てるとともに、感性と美意識を磨き、個性豊かな美術の能力を高める。

■ 第7 工芸Ⅰ

工芸Ⅰ→工芸Ⅱ→工芸Ⅲと履修していきます。

1 目標

工芸の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり工芸を愛好する心情と生活を心豊かにするために工夫する態度を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、工芸の伝統と文化についての理解を深める。

■第8 工芸Ⅱ

1 目標

工芸の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり工芸を愛好する心情と生活を心豊かにするために工夫する態度を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、工芸の伝統と文化についての理解を深める。

■第9 工芸Ⅲ

1 目標

工芸の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり工芸を愛好する心情と工芸の伝統と文化を尊重する態度を育てるとともに、感性と美意識を磨き、個性豊かな工芸の能力を高める。

第3章

主として専門学科において開設される各教科。

第12節 美術

●第1款 目標

美術に関する専門的な学習を通して、美的体験を豊かにし、感性を磨き、創造的な表現と鑑賞の能力を高めるとともに、美術文化の発展と創造に寄与する態度を育てる。

●第2款 各科目

■第1 美術概論

1 目標

美術の理論的学習を通して、芸術としての美術の意義を理解し、表現と鑑賞の基礎となる能力と態度を高める。

■第2 美術史

1 目標

美術の変遷の学習を通して、文化遺産や美術文化についての理解を深め、伝統と文化を尊重する態度と新たな美術文化を創造していく基礎となる能力を高める。

■第3 素描

1 目標

対象のイメージや空間を把握し、造形表現の基礎となる観察力と描写力を高める。

■第4 構成

1 目標

造形的な創造活動の基本となる諸要素の理解を深め、感性や造形感覚と創造的な構成の能力を高める。

■第5 絵画

1 目標

いろいろな表現形式による絵画表現に関する学習を通して、表現と鑑賞の能力を高める。

■ 第6 版画

1 目標

いろいろな表現形式による版画表現に関する学習を通して、表現と鑑賞の能力を高める。

■ 第7 彫刻

1 目標

いろいろな材料による彫刻など立体造形の表現に関する学習を通して、表現と鑑賞の能力を高める。

■ 第8 ビジュアルデザイン

1 目標

視覚的な伝達効果を主とするデザインについての理解を深め、表現と鑑賞の能力を高める。

■ 第9 クラフトデザイン

1 目標

美的造形性や機能性を主とする造形のデザインについての理解を深め、表現と鑑賞の能力を高める。

■ 第10 情報メディアデザイン

1 目標

情報の表現，伝達及び共有を主とする情報メディアデザインについての理解を深め，表現と鑑賞の能力を高める。

■ 第11 映像表現

1 目標

写真，ビデオ等の映像機器を使った表現に関する学習を通して，表現と鑑賞の能力を高める。

■ 第12 環境造形

1 目標

自然や生活環境と造形との調和についての理解を深め，造形の諸要素を環境の構成に総合的に生かす実践的な能力と態度を育てる。

■ 第13 鑑賞研究

1 目標

文化財や美術作品，作家などについての鑑賞研究を通して，美術に対する理解を深め，美術や美術文化を尊重する態度を養い，批評する能力を育てる。

14 学習指導要領の変遷

学習指導要領には、全国的な一定の教育水準を維持する目的があります。また、時代の進展を考慮し、およそ10年ごとに改訂が行われています。



試案としてつくられ、教師が自分で研究していく手引きでした。また、小・中学校とも教科名は、「図画工作科」でした。

昭和22年版学習指導要領（試案）図画工作編

- ・ 芸能科図画と芸能科工作が一つになりました。
- ・ 小・中学校をあわせ、9年間の内容で示されていました。

昭和26年版学習指導要領（試案）図画工作編

- ・ 小学校と中学校に分けて作成されました。
- ・ 小学校の学習内容は、「描画」・「色彩」・「図案」・「工作」・「鑑賞」の5項目がありました。

昭和33年版学習指導要領（文部省告示）

試案から告示になり、法的拘束力を持ちました。

- ・ 技術科が新設され、中学校の図画工作科は美術科に改称されました。
- ・ 工芸の技術的分野の一部が、技術科に移りました。
- ・ 学習内容に「デザイン」が加わりました。

昭和43年版小学校学習指導要領

昭和44年版中学校学習指導要領

- ・ 学習指導要領は、A絵画、B彫塑、Cデザイン、D工作・工芸、E鑑賞の5領域となり、図画工作科と、美術科との関連が図られました。

昭和 52 年版学習指導要領

子どもの側に立った教材研究や授業実践が、より求められるようになりました。

- ・技術や技能の習得よりも情操を培うことを重視するようになりました。
- ・「表現」と「鑑賞」の2領域となりました。
- ・図画工作科では、**低学年**に「造形的な遊び」の内容が導入されました。
- ・美術科では絵画，彫塑，デザイン，工芸の名称が残されました。

平成元年版学習指導要領

- ・小学校の「造形的な遊び」が「造形遊び」となり、**中学年**まで拡大されました。
- ・小学校のつくりたいものをつくることや工作に表すことの内容に相当する授業時数が、**絵や立体に表す内容に相当する授業時数とおおよそ等しく**なるようにすることが明示されました。
- ・中学校の学年目標や内容が、**第1学年と第2学年及び第3学年**にまとめて示されました。
- ・中学校のデザインの表現分野に「身近な環境のデザイン」が加えられました。

平成 10 年版学習指導要領

「絵」という標記が「絵画」になったのは、スケッチ，絵手紙，漫画などの日常的で多様な表現も含めたためです。

- ・小学校の「造形遊び」が、**高学年**まで拡大されました。
- ・小学校の目標と内容が**2学年**まとめて示されました。
- ・中学校の「絵画」「彫刻」「デザイン」「工芸」として示されていた表現分野が「絵や彫刻など」と「デザインや工芸など」の二つにまとめられました。
- ・漫画，イラストレーション，写真，ビデオ，コンピュータなど映像メディアによる表現も加えられました。
- ・鑑賞の取扱いに関して、時間の確保が明示されました。

現行学習指導要領

* 資料 授業づくり規準（図画工作/美術/芸術(美術・工芸)科)

P (構想)

力 要素	学習指導力 (授業における姿勢や指導方法等、 各教科等共通の授業づくりの力)	教科指導力 (図画工作/美術/芸術(美術・工芸)科の内容に関わ る、授業づくりの力)
学習者の実 態把握	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者の発達段階を踏まえた上で、生活体験や学習経験は学習者によって異なることを意識している。 ・学習の方法や理解の仕方は学習者によって異なることを意識している。 ・学習者の性格や学習に対する意欲等を把握している。 ・学習集団の特質や、個と集団の関わりを把握している。 ・個々の学習者に対して、指導上配慮すべき事項を把握している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科に関する学習者の既習事項の習得状況等、学習内容の理解度を把握している。 ・教科に関する学習者の興味・関心、意欲等を把握している。
教科内容に 関する知 識・技能		<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領、教科書記述の内容分析を通して、教科内容における系統性や指導内容を把握している。 ・題材の本質を理解している。 ・教科内容に関わる知識や、探究するための態度・技能を持っている。
目標の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・学習は、学習者自身の主体的・探究的な活動によって成立することを理解している。 ・学校の教育目標や課題を踏まえ、育てたい力を捉えている。 ・学習を通して学習者の自信を深め、自己肯定感を高めるという意識を持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の目標及び題材の指導目標を明確に把握し、観点別評価規準の評価観点に照らして捉えている。 ・各授業の指導目標と題材の指導目標とを明確に関連付けている。
単元(題材) 計画 (授業計画)	<p>(学習指導案の作成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導案の重要性や、目標、内容、方法等の指導案の形式の意図を理解し、指導計画を表現している。 <p>(評価計画)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な到達目標とそのための適切な評価方法を選択・計画している。 ・自己評価、他者評価等、学習者が学習を改善するための手だてを考えている。 	<p>(題材計画の作成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の目標及び教科の指導目標を達成でき、学習者がそれらで得た力を体系的に獲得できる題材計画を作成している。 ・学習者の実態に合わせて、指導内容や配列を工夫し、年間指導計画や題材計画を作成している。 <p>(評価計画)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導目標に照らした評価計画を作成し、完成した作品だけでなく、制(製)作の過程を評価できるようにしている。
授業の構成	<p>(学習方法・形態の選択・組織)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標を達成するために、学習者の実態を踏まえた適切な学習方法や学習形態を考えている。 ・新たな知識・技能・学び方等を発見したり、習得したりする喜びを実感できる授業を行うために、学習方法を改良・開発している。 ・主体的な探究活動や問題解決を考慮して、授業を組み立てている。 ・学習者が学習内容や学習の過程を振り返るための手だてを考えている。 	<p>(学習内容の構成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材の指導内容及び題材全体の構造、教科の体系における位置付けを理解した上で、学習内容を構成している。 ・「言語活動の充実」を意識して、学習内容を構成している。 <p>(題材の構成・開発)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の目標を達成するのに適し、学習者の実態に合わせた題材を構成している。 ・題材を改善・開発している。 <p>(板書等の計画)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいに即し、授業展開を予測した板書を計画している。 ・本時のねらいを達成するための有効な働き掛けや個への支援を計画している。

D (展開)

力 要素	学習指導力 (授業における姿勢や指導方法等、 各教科等共通の授業づくりの力)	教科指導力 (図画工作/美術/芸術(美術・工芸)科の内容に関わ る、授業づくりの力)
学習環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 学習環境が、学習者の安全や認知にどのような効果を与えるかを意識している。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科の目標や学習内容に応じて、学習者の行動や認知を推測し、安全や安心に配慮した学習環境を創造している。
学習への構えや学び方の指導	<ul style="list-style-type: none"> 学習者がどのような姿勢で学習に臨めばよいかを明確に示し、学習者に意識させている。 学習過程や自分の考えをまとめていけるようなノートづくりを指導している。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科の学び方を示し、学習者に意識させている。 教科の学習に関わる考え方やまとめ方、資料活用、必要な技術等の定着を図っている。
個や集団への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 個への対応に具体的な配慮をしている。 集団における学習の大切さや、個の発言の集団への影響を意識している。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習者の学習状況や習熟度に応じた個への支援をしている。
音声・表情・所作	<ul style="list-style-type: none"> 話し方や表情・所作と学習者の反応との関連を意識している。 場面や目的、環境等に応じて、声の大きさ、話の速さ・緩急・強弱等の話し方や表情を工夫している。 	
指導技術	<p>(言葉遣い)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習者の発達の段階に応じた適切な言葉遣いをしている。 <p>(説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> 分かりやすい言葉で、端的に説明している。 <p>(指示)</p> <ul style="list-style-type: none"> 目的を意識させながら、どんな行動をすべきかを明確に示している。 <p>(発問)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習者が何を問われているか理解できる発問をしている。 <p>(板書)</p> <ul style="list-style-type: none"> 見やすさを考慮し、視覚的に構造化するなど、工夫しながら丁寧に板書している。 学習者の様子を観察しながら、板書している。 <p>(演技・表現)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習場面や教材の特性に応じて、適切であると考える演技をしている。 待つ時間や「授業のやまば」等を意識して授業を展開している。 	<p>(言語)</p> <ul style="list-style-type: none"> 用語を含め教科指導に適切な言語を使用している。 <p>(説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習者のつまづきやすい点を推測し、理解や納得が得られるように説明している。 <p>(指示)</p> <ul style="list-style-type: none"> ねらいや学習内容を踏まえ、必要とする場面で指示をしている。 <p>(発問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ねらいを達成するために、学習者の思考を促したり、焦点化したりする発問をしている。 <p>(板書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ねらいや学習内容を踏まえ、学習者の思考活動との関係をおさえて板書している。 学習者がねらい・方法・用具の扱い・時間等を確認することができる板書をしている。 <p>(演示)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科指導に必要な技術を身に付け、学習者に示すことができる。 <p>(材料・用具の活用、資料提示)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習者にとって、どんな材料・用具・資料がよいかを考え、活用している。(ICTを含む)
学習活動における即時的対応	<ul style="list-style-type: none"> 学習者の発言や行動を適切に受け止め、達成感、満足感を感じさせている。 学習内容に適した評価法を用意し、実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習者の発言や行動の意図を読み取り、教科の内容や学習方法に照らして理由を付けて認めた上で、適切な支援をしている。 学習者の様子や授業目標との関係を捉え、指導過程を修正することができる。

C・A (評価・改善)

要素 \ 力	学習指導力 (授業における姿勢や指導方法等、 各教科等共通の授業づくりの力)	教科指導力 (図画工作/美術/芸術(美術・工芸)科の内容に関わ る、授業づくりの力)
授業の振り返りと分析	<ul style="list-style-type: none"> ・「指導と評価の一体化」を意識している。 ・授業によって、学習者がいかに変容したかについて、絶えず関心を持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導目標に照らして授業や題材を振り返り、ねらいの達成の可否の原因を明らかにしようとしている。
改善に向けた手だて	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導の方法の効果について、意識的・具体的に捉え、指導方法の改善に結び付けようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導について振り返り、改善点を具体的にし、授業改善に生かしている。